

第五編
教育と文化の振興



「弁当の日」の子どもたち

延岡市は、教育の基本方針として、本市の水と緑の豊かな自然、城下町としての歴史、その中で育まれた伝統文化および多彩な産業など、これらの特色や資源を活かし、あらゆる教育の場において、「たくましいからだ」「豊かな心」「すぐれた知性」をそなえ、郷土に対する誇りと国際感覚にあふれ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに調和のとれた人間の育成をめざしている。

このような観点に基づき、市制施行七十周年にあたり平成十五年（二〇〇三）、「未来をひらく人づくり都市宣言」を行った。

この宣言をさらに具体化するために、教育委員会としては、次の四つの柱を立て、現在取り組んでいるところである。

1 豊かな学校教育を子どもたちに

「学力の向上」「豊かな心の醸成」「障がいのある子どもたちの教育の充実」「安心・安全な学校づくり」「健やかな心身の育成」に取り組んでいる。

2 豊かな生涯学習を地域に

「明るい家庭づくりと家庭の教育力向上」「青少年の健全育成」「図書館サービスの拡充」「いつでも学べる生涯学習社会の実現」「人権が尊重される社会の実現」に取り組んでいる。

3 豊かなスポーツ環境を市民に

「気軽にスポーツを楽しむ環境づくり」「スポーツ施設の整備」「スポーツ団体活動の支援と指導者の育成」「競技スポーツが盛んなアスリートタウンづくり」「大会や合宿が盛んなアスリートタウンづくり」に取り組んでいる。

4 豊かな歴史・文化を未来に

「市民協働による文化活動の推進と情報発信」「次代の文化を担う青少年の育成」「文化事業の推進と施設の機能充実」「文化財保護・啓発の推進」「文化財を活かした地域文化の振興」に取り組んでいる。

第一章 教育行政

第一節 教育委員会

一 教育委員会機構

教育委員会の機構については、第二編・第三章・第三節・一項教育委員会を参照。

二 教育費の推移

各年度の教育費の推移は、次の表のとおりである。

歴代教育委員については、第二編・第三章・第三節・一項教育委員会を参照。

三 歴代教育委員

表 一般会計（当初予算）に対する教育費 (単位：千円)

年 度	一般会計予算額	教育費予算額	構成比 (%)
平成15	40,258,000	4,197,609	10.43
16	41,447,000	4,071,240	9.82
17	40,177,000	4,387,611	10.92
18	51,269,114	4,720,354	9.21
19	55,678,000	3,892,179	6.99
20	54,140,000	3,802,339	7.02
21	51,317,000	3,859,644	7.52
22	53,624,000	4,309,202	8.04
23	56,222,000	4,500,543	8.00
24	53,713,000	3,931,527	7.32

(資料：延岡市教育委員会総務課)

(注) 平成18年度は、合併により当初予算が骨格予算であるため、6月補正後の予算額を計上

第二章 学校教育

第一節 学校施設の整備

一 施設の整備充実と課題

学校施設については、昭和四十年代の児童生徒急増期に建設された施設の老朽化が進み、改築・改造を必要とする施設が年々増加しており、その老朽化対策が重要となってきた。

また、平成七年（一九九五）の兵庫県南部地震、十六年（二〇〇四）の新潟県中越地震、十七年（二〇〇五）の福岡県西方沖地震、二十三年（二〇一一）の東北地方太平洋沖地震等、近年の大規模な地震の発生状況を受け、学校施設の耐震性の確保が急務とされ、昭和五十六年（一九八一）の旧耐震基準で建設された施設の耐震性の確保を重要な課題として取り組んできた。

これからの本市の学校施設整備の課題としては、施設の耐震性能の確保を早急に図り、併せて改築や大規模改造等の老朽化対策を図ることであるが、今日の学校施設に求められる地域との連携や防災拠点としての機能等を視野に入れた施設整備を実施していくことが必要とされる。

二 主要な施設整備の成果

この一〇年間における小中学校の主要な施設整備の成果は、次の表のとおりである。

第2章 学校教育

表 主要な施設整備の成果

年度	学 校 名	事業費(円)	概 要
平成 14	川 島 小 学 校	76,423,000	中学校給食実施に伴う小学校給食室の整備
	港 小 学 校		
	南 小 学 校	53,848,840	プール建設工事 ・ステンレス製25m×14m (7コース) ・補助プール (50㎡) 合計400㎡
	東 海 中 学 校	10,260,250	中学校給食実施に伴う受入室の整備
	島 野 浦 中 学 校	292,846,844	校舎改築 (13・14年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 1,809㎡
	島 野 浦 中 学 校	165,352,057	屋内運動場改築 (13・14年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 1,037㎡
	南 中 学 校	79,076,000	プール建設工事 ・ステンレス製25m×14m (7コース) 合計350㎡
15	東 小 学 校	80,432,500	中学校給食実施に伴う小学校給食室の整備
	方 財 小 学 校		
	東 海 小 学 校	91,466,500	プール建設工事 ・ステンレス製25m×14m (7コース) ・補助プール (50㎡) 合計400㎡
	延 岡 中 学 校	7,081,000	中学校給食実施に伴う受入室の整備
	旭 中 学 校	36,914,950	エレベータ及び多目的便所を設置
東 海 中 学 校	214,728,490	校舎改築 (15・16年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 2,293㎡	
16	延岡小学校外9校	8,914,500	小学校施設の耐震診断優先度調査
	緑ヶ丘小学校	91,788,050	中学校給食実施に伴う小学校給食室の整備
	南 中 学 校	7,484,000	中学校給食実施に伴う受入室の整備
	東 海 中 学 校	350,137,205	校舎改築 (15・16年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 2,293㎡
17	川島小学校外14校	6,405,000	小学校施設の耐震診断優先度調査
	延岡中学校外11校	6,602,400	中学校施設の耐震診断優先度調査
	恒 富 中 学 校	375,578,473	校舎改築 (17・18年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 4,530㎡
	西 階 幼 稚 園	161,709,000	園舎改築 ・鉄骨造平屋建 786㎡
18	北方小学校外5校	525,000	小学校施設の耐震診断優先度調査
	北 浦 小 学 校	460,769,499	校舎改築 ・鉄筋コンクリート造2階建 1,818㎡
	北方中学校外2校	336,000	中学校施設の耐震診断優先度調査
	恒 富 中 学 校	669,207,786	校舎改築 (17・18年度2カ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 4,530㎡
	南 幼 稚 園 外 2 園	294,000	幼稚園施設の耐震診断優先度調査

第5編 教育と文化の振興

年度	学校名	事業費(円)	概要
19	南小学校外2校	11,247,000	小学校施設の耐震診断
	南中学校外1校	5,418,000	中学校施設の耐震診断
	恒富中学校	80,019,905	プール建設工事 ・ステンレス製25m×14m(7コース) 合計350㎡
20	岡富小学校外13校	49,609,500	小学校施設の耐震診断及び補強設計
	延岡中学校外6校	28,274,400	中学校施設の耐震診断及び補強設計
	南幼稚園	1,050,000	南幼稚園の耐震診断
21	南小学校外12校1園	149,840,990	南小学校耐震補強工事 小学校・幼稚園施設の耐震診断及び補強設計
	土々呂中学校外11校	99,722,750	土々呂中・南中学校耐震補強工事 中学校施設の耐震診断及び補強設計
22	西小学校外19校	595,141,280	西小学校外4校耐震補強工事 小学校施設の耐震診断及び補強設計
	伊形小学校	67,022,325	既設校舎屋根への太陽光発電装置設置に合わせ屋根改修
	旭小学校	335,217,119	校舎改築(22・23年度2ヵ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 3,096㎡
	方財小学校	53,485,460	プール建設工事 ・FRP製25m×6m(3コース) ・補助プール(50㎡) 合計200㎡
	延岡中学校外11校	67,509,000	延岡中学校外1校耐震補強工事 中学校施設の耐震診断及び補強設計
	北川中学校	51,100,000	武道場新築 ・鉄骨造平屋建 300㎡
	南幼稚園	16,334,000	南幼稚園耐震補強工事
23	旭小学校	409,311,119	校舎改築(22・23年度2ヵ年事業) ・鉄筋コンクリート造3階建 3,096㎡
	黒岩小学校外24校	150,523,052	黒岩小学校外1校耐震補強工事 小学校施設の耐震診断及び補強設計
	東海中学校	308,445,704	屋内運動場改築 ・鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 1,176㎡
	浦城中学校外10校	153,051,053	浦城中学校耐震補強工事外 中学校施設の耐震診断及び補強設計

(資料：延岡市教育委員会総務課)

第二節 学校教育の現状

一 学校教育の動向

1 前学習指導要領

各学校において編成される教育課程の基準である学習指導要領は、社会や子どもたちの変化を踏まえ、概ね一〇年に一度改訂されてきた。平成十四年（二〇〇二）四月一日から全面实施された学習指導要領（小中学校）は、変化の激しい次代を担う子どもたちに必要な力は「生きる力」であるとした上で、その「生きる力」をはぐくむために教育内容の厳選と授業時数の削減、総合的な学習の時間の創設、中学校における選択教科の授業時数の増加などを行った。また、十五年（二〇〇三）には学習指導要領の一部改正が行われ、学習指導要領はすべての子どもたちに対して指導すべき内容を示したもの（学習指導要領の基準性）であり、各学校が、子どもたちの実態に応じ、学習指導要領が示していない内容を加えて指導することができることを明確にした。

2 知識基盤社会の到来と子どもたちの教育的課題

平成十七年（二〇〇五）の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」が指摘するとおり、二十一世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」であるといわれている。

このような認識は国際的にも共有され、経済協力開発機構（OECD）は、「知識基盤社会」の時代を担う子

どもたちに必要な能力を「主要能力（キーコンピテンシー）」として位置づけ、国際的に比較する調査を実施した。十五年（二〇〇三）に実施されたOECDのPISA調査および国際教育到達度評価学会のTIMSS調査の結果では、児童生徒に読解力や記述式問題に課題があること、読解力で成績中位層が減り、低位層が増加し、成績分布の分散が拡大していることなどの低下傾向が見られた。また、十九年（二〇〇七）四月に全国学力・学習状況調査が実施され、小学校六年生および中学校三年生を対象に国語・算数・数学について、知識・技能の定着と、これらを活用する力の両面にわたる調査が行われた。併せて、生活習慣や学習習慣等に関する調査も行われた。

これらの調査結果からは、国際的な学力調査と同様、基礎的・基本的な知識・技能については相当数の子どもたちが概ね身に付けていると考えられるが、思考力、判断力、表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題があることがわかった。

3 改正教育基本法

平成十八年（二〇〇六）十二月に六〇年ぶりに改正された教育基本法は、豊かな情操や道徳心、自律の精神や公共の精神、生命や自然の尊重、伝統と文化の尊重、国際社会の平和と発展への寄与といった新しい理念を教育の目標（第二条）として規定した。さらに、生涯学習の理念（第三条）、義務教育の目的（第五条）、家庭教育（第十条）、幼児期の教育（第十一条）、学校、家庭および地域住民等の相互の連帯協力（第十三条）、教育行政（第十六条）、教育振興基本計画（第十七条）など、学習指導要領改訂の方向性にかかわる規定が盛り込まれた。

4 学校教育法の一部改正

平成十九年（二〇〇七）六月に公布された学校教育法の一部改正では、教育基本法の改正を踏まえて、義務教育の目標が具体的に示されるとともに、小・中・高等学校等においては、「生涯にわたり学習する基盤が培われ

るよう、基礎的な知識および技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならぬ」と定められた。

5 新学習指導要領

平成二十年（二〇〇八）一月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申が中央教育審議会より示され、同年三月、新しい学習指導要領が告示された。改訂の基本的な考え方は、次のとおりである。

- (1) 「生きる力」という理念の共有
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (3) 思考力、判断力、表現力等の育成
- (4) 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- (5) 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- (6) 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

新しい学習指導要領は、小学校においては二十三年（二〇一一）度から、中学校においては二十四年（二〇一二）度から全面实施された。

6 「延岡市のわかあゆ教育」および「わかあゆ教育プラン」の策定

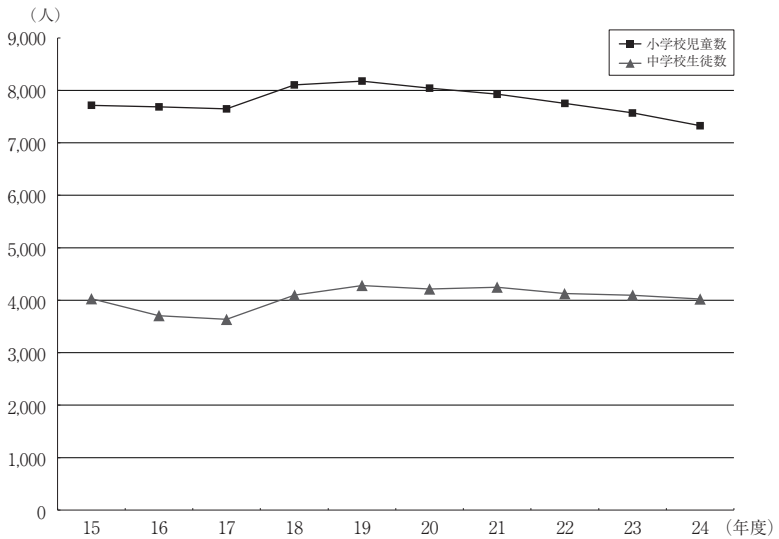
本市は、平成十八年（二〇〇六）二月に北方町、北浦町、十九年（二〇〇七）三月に北川町と合併した。これに伴い、新たな学校教育の方向を明確にし、基本的な大綱を示すことを目的とした「延岡市のわかあゆ教育」並

びに「わかあゆ教育プラン」を策定した。これらの計画に従い、学校、家庭、地域社会が連携して進める教育と児童生徒に対する義務教育九年間の一貫した教育を積極的に進めていくことにした。

二 児童生徒数の推移

延岡市における児童生徒数の推移は、下の表のとおりである。

表 小中学校児童生徒数推移



(単位：人)

年度(平成)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
小学校児童数	7,717	7,687	7,649	8,106	8,178	8,043	7,927	7,754	7,570	7,328
中学校生徒数	4,047	3,894	3,824	4,096	4,230	4,185	4,205	4,126	4,097	4,023

(各年度5月1日現在)

(資料：延岡市教育委員会学校教育課・各私立小中学校)

(注1) 学校基本調査による

(注2) 旧北方町・旧北浦町(15～17)、旧北川町(15～18)の児童生徒数は含まない

(注3) 18年度以降は、私立小学校を含む

三 学力向上の取り組み

延岡市では、児童生徒に確かな学力を身につけさせるために各種の施策を展開している。

1 理数教育

(1) 「講師派遣事業」(平成十一年度)

市内の企業での実習、見学、講話等とおして、科学に関する興味・関心を喚起することを目的に、旭化成関連一六社、旭有機材工業などの企業の協力を得て、延岡市内の中学校一七校、および門川町の中学校二校(門川中、西門川中)へ講師を派遣している。

(2) 「ジュニア科学者の翼」(十三年度)

日本の最先端の科学技術に触れ、科学に対する関心を高めることを目的に、論文により選抜された一二人の中学二年生を対象に、夏休みを利用し、国立科学博物館・野口研究所・日本科学未来館・千葉現代産業科学館・東京大学などを訪問している。毎回、各研修先に関するグループ発表並びに個人報告を旭化成向陽倶楽部で行っている。

(3) 「わくわく理数フェスティン延岡」(二十年度)

小中学生、教員を対象に、専門家による講演やワークショップをおして理数および理数教育への関心を高めることを目的に行っている。講師は、NPO法人体験型科学教育研究所(リアルサイエンス)から招き、夏休みを利用して行っている。実施内容は、小中学生を対象とした「わくわく理数教室」、親子・教員・一般を対象と

した「わくわく理数講演会」などである。

2 読書教育

読書活動は、児童生徒の知的活動を増進し、豊かな感性や情操を育む上でたいへん重要な活動である。児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図るためには、学校の教育活動全体を通じて、多様な読書活動を積極的に推進するとともに、児童生徒が読書に親しむための環境整備を図る必要がある。

市内の各学校では、朝の読書活動やボランティアによる読み聞かせなどをおして、児童生徒が本に親しむ場を計画的に設定している。また、平成二十三年（二〇一一）度から各小中学校の校長、図書館教育担当者を対象とした「延岡市小・中学校図書館研修会」を実施している。

なお、各学校においては、校長をはじめとした組織的な取り組みを図るために、子ども読書活動推進会議を開催するとともに、子ども読書活動推進計画を策定して、それぞれに工夫を凝らした活動を進めている。さらに、児童生徒の読書意欲を高めるために、家庭との連携を図りながら家庭読書「家読（うちどく）」の取り組みも推進している。

3 その他の取り組み

(1) 家庭学習の充実（家庭学習の手引き）（平成十五年度）

市学校教育研究所作成の「家庭学習の手引き」（小一～中三までの九種類）を全児童生徒に配布し、各学校で学級活動や学校参観日等に活用できるようにして、家庭学習の充実を図っている。また各学校では、この手引きをもとに、学校の実態に即した手引きを作成し、具体的な指導を行っている。

(2) 計算力の向上（パワーアッププリント）（十五年度）

児童生徒の計算力を高めるために、市学校教育研修所において「パワーアッププリント」を作成し、全学校にそのデータを配布している。また、このプリントの活用を充実させるために、年二回、プリントから抜粋した「計算力実態調査」を実施し、市の平均と自校との比較ができるようにしている。さらには、実態調査の結果をもとにフォローアップのプリント（データ）も作成し、個別指導に生かせるようにしている。

(3) 言語力の向上（ぐんぐんプリント・音読文集（十六年度））

児童生徒の言語力を高めるために、市学校教育研修所では、小学校二～六年の言語事項をまとめた「ぐんぐんプリント」を全児童に配布している。各学校においては、授業や朝自習の時間等に活用しているが、その活用促進と評価のために「言語力実態調査」を実施し、市の平均と自校との比較ができるようにしている。

また、日常的に音読する機会を設け、読む力をつけさせるために、優れた文学的文章や延岡にまつわる話、短歌や俳句、さらには各小学校の校歌などから構成された「音読文集」を作成し、毎年一年生に配布している。各学校では、音読カードを使って日常的に活用したり、学年末には「音読検定」を行い表彰したりすることで、児童が成果を実感できるようにしている。

(4) 教師の授業力向上（各教科の授業モデルの提示）（二十三年度）

市学校教育研修所常任研究会では、国語・社会・算数・数学・理科・外国語について、児童生徒に確かな学力を身につけさせるための授業の在り方について研究を行っている。

各教科の単元構成や具体的な手立てについてのポイントをまとめ、それを提示することで、市内の教師が同じ考え方で授業に取り組むことができるようにしている。また、常任研究会が各教科のモデルとなる授業を公開し、実践的な形で、めざす授業を広めるようにしている。

(5) 延岡市「観点別到達度調査」の実施（二十三年度）

小学校の低・中学年を対象に、当該学年の基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握するために、国語科・算数科の観点別到達度調査を実施している。

この結果をもとに、児童一人ひとりについて一年間の学習の成果を振り返り、定着が不十分な学習内容を中心に補充学習を行うとともに、教師の指導方法の工夫改善に活かしている。

(6) 「レベルアップ延岡」学力向上協議会の取り組み（十五年度）

延岡市小・中学校校長会では、十五年（二〇〇三）度に学力向上を最重要課題と位置付け、「学力向上のための指針（提言）」を発表した。そして、その具現化を目指して十六年（二〇〇四）度に「レベルアップ延岡」学力向上協議会を発足させ、小中連携による指導方法の工夫改善と基本的な内容の確実な定着を図り、市全体の教育水準の向上を目指して、各中学校区で具体的な実践を展開している。

四 生徒指導の充実

1 少年非行の状況

延岡市の各学校では、社会環境の変化や人間関係の希薄化などから、家庭の在り方、基本的な生活習慣やマナー、善悪の判断などについて、児童生徒一人ひとりの理解を深めるため、あらゆる機会をとらえ、組織的、計画的に生徒指導の充実を図ってきた。特にいじめ、不登校、問題行動、その他児童生徒の諸問題について、家庭や地域社会および関係機関と連携した生徒指導を推進してきた。

また、各学校においては、あらゆる教育活動を通して「こころの教育」の充実を図るとともに、青少年育成センターの指導・相談、アウトリーチ・オアシス教室での指導・援助、ならびに関係機関団体等と連携した指導を行ってきた。

本市における青少年の学職別年次別推移状況は、下の表のとおりである。

2 アウトリーチ・オアシス教室（市適応指導教室）

児童生徒の健全育成の観点から「不登校はどの子どもにも起こりうる」という認識のもとに、学校や家庭・地域および関係機関が一体となり、平成六年（一九九四）度にアウトリーチ・オアシス教室を設置して、指導・支援の在り方を検討し、学校への不適応児童生徒の対応にあたってきた。

結果として、オアシス教室での生活で人間関係の築き方を学んだり、学力をつけて進学の意志が芽生えたりして、学校復帰を果たす児童生徒も少なくない。

(1) アウトリーチ・オアシス教室の目的は、不登校の児童生

徒に対して、指導援助を行い、当該児童生徒が正常に登校できるようにすることを旨とするので、不登校の事態解決に寄与することである。

表 学職別年次別推移表

(単位：人)

年次別		平成20	21	22	23
学職別					
総	数	673 (124)	358 (66)	437 (102)	462 (86)
学 生 生 徒	小 学 生	—	1	2 (1)	—
	中 学 生	68 (11)	80 (17)	87 (28)	65 (20)
	高 校 生	291 (62)	135 (28)	149 (38)	150 (26)
	そ の 他	27 (10)	1	8 (1)	3 (1)
	計	386 (83)	217 (45)	246 (68)	218 (47)
有 職 少 年	141 (8)	52 (7)	70 (10)	117 (8)	
無 職 少 年	146 (33)	89 (14)	121 (24)	127 (31)	

(注) () 内は女子で内数

(資料：延岡警察署)

- (2) 指導援助の方針は、当該児童生徒一人ひとりの心の動きを大事にし、小集団の中で、さまざまな体験を通して、成就感や充実感を味わわせたり、自信や適応力を身に付けることができるよう支援することである。
- (3) 登校しようという意思をもちながらも、登校できない児童生徒の悩みを理解し、優しく手をさしのべて支援するという意味を込めて「アウトリーチ・オアシス教室」とした。
- (4) アウトリーチ・オアシス教室の業務は、不登校児童生徒について、学校および関係機関との連携、教育相談、適応指導、学習指導ならびにその他の不登校に関する事項である。
- (5) 設置場所は、延岡市青少年育成センター内（東本小路）である。

五 中学生の進路

延岡市における中学生の進路別卒業者数の状況は、次の表のとおりである。

第2章 学校教育

表 中学生の進路別卒業者数・総括表（平成23年度）

（単位：人）

区 分			性 別		計	割合 (%)	
			男	女			
卒 業 者 総 数			725	639	1,364	-	
高等学校及び 高等専門学校 への進学者	県内高 等学校	全 日 制	県 立	503	440	943	69.1
			私 立	156	159	315	23.1
		定 時 制		24	19	43	3.2
		単 位 制	定 時 制	昼	-	-	-
	夜			-	-	-	-
	通 信 制		5	3	8	0.6	
	県外高 等学校	全 日 制		13	4	17	1.2
		定 時 制 ・ 通 信 制		-	-	-	-
	高 等 専 門 学 校			3	1	4	0.3
	計			704	626	1,330	97.5
就 職 進 学 者	県内の定時制・通信制高等学校		1	-	1	0.1	
	県外の定時制・通信制高等学校		-	-	-	-	
	計		1	-	1	0.1	
特 別 支 援 諸学校進学者	県 内 の 特 別 支 援 学 校		3	3	6	0.4	
	県 外 の 特 別 支 援 学 校		-	-	-	-	
	計		3	3	6	0.4	
そ の 他 の 進 学 者	専修学校・各種学校 各種訓練校等その他	県 内	4	1	5	0.4	
		県 外	-	-	-	-	
	計		4	1	5	0.4	
就 職 者 (家事従事者を含む。就職進学者は除く。)	県 内		3	3	6	0.4	
	県 外		-	-	-	-	
	計		3	3	6	0.4	
無 職 ・ そ の 他			10	6	16	1.2	

平成24年3月末現在

（資料：延岡市教育委員会学校教育課）

六 人権・同和教育

1 学校における人権・同和教育

学校における人権・同和教育は、人間尊重の精神を基調として、一人ひとりの児童生徒が人権についての正しい理解を深め、人権を互いに尊重し合い、共に生きる社会の実現を目指した取り組みを進めてきた。

学校においては、全教育活動を通し、児童生徒の発達段階に応じて、人権尊重に関する正しい知識、人権尊重に関する望ましい価値観、よりよい人間関係をつくるための技能を身に付けさせる教育の推進を図っている。

延岡市は、昭和五十八年（一九八三）に「延岡市学校同和教育推進実行委員会」を設立、平成十八年（二〇〇六）に「延岡市学校人権・同和教育推進実行委員会」と改称し、幼稚園、小学校、中学校等での人権・同和教育に関する研修会を実施するなど一貫した研修体制の充実を図っている。

また、四人の学習指導等支援教員を配置するとともに、関係機関や延岡地区同和教育研究協議会とも連携し、各学校の人権・同和教育の充実に努めている。

さらに、これまでの成果を生かしながら、幼児・児童・生徒に人権の重要性を認識させ、真に差別をなくしていく意思と実践力を身に付けさせるため、次のことを推進している。

- (1) 人権・同和教育の基本的認識にかかわる校内研修や児童生徒および教職員の意識・実態をふまえた社会科における人権・同和教育の教材研究ならびに実践化の推進に努める。
- (2) 各種研修会で幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の教職員相互の交流を図り、連携を深めながら、幼

児期からの系統的な教育に努める。

(3) 人権についての基本的な認識を深めるため、教職員の研修体制の充実を図る。

本市は、人権・同和問題の解決を図る教育実践を中核とする人権・同和教育を通して、あらゆる差別をなくしていく道筋を明らかにしてきた。これをさらに確かなものとして発展させるために、本市教職員ならびに関係機関との連携を図りながら反差別・人権確立の歩みを確実に推進していく必要がある。

七 財団法人延岡市育英会

1 奨学規程の改正

平成十六年(二〇〇四)四月、奨学規程の一部を変更し、専修学校を奨学資金貸与対象校に加え、二十年(二〇〇八)四月から貸与額を高等学校等奨学生に月額一万五〇〇〇円、大学等奨学生に同二万五〇〇〇円と増額した。

十八年(二〇〇六)二月の北方町および北浦町との合併に伴い、本市と二町の奨学制度を統合した。また、十九年(二〇〇七)三月の北川町との合併に伴い、これに同町の奨学制度を統合した。二十四年(二〇一〇)三月現在で、これまでこの制度を活用した奨学生は、高等学校等奨学生四四八人、大学等奨学生八一七人の計一二六五人にのぼる。また、貸与中の奨学生は、高等学校等奨学生三五人、大学等奨学生五四人の計八九人である。

なお、財産は、二十四年三月末現在で、基本財産三〇〇万円、運用財産二億四五六〇万円で、総財産は二億四八六〇万円となっている。

第三節 学校保健

一 児童生徒・教職員の健康管理

1 児童生徒の健康管理

学校保健安全法に基づく定期の健康診断は、数次にわたる法改正を経て、その内容は年ごとに充実してきた。戦後約一〇年間は、感染症の早期発見や治療に重点が置かれていたが、近年、公衆衛生施策の徹底や生活環境が改善されたことにより感染症は激減している。

代わって登場したのが近視・う歯（虫歯）・小児肥満・アレルギー症等の非感染性疾患の増加であり、延岡市においても例外ではなく、健康診断の内容も、感染症以外の疾病、異常の発見に重点が移りつつある。

本市では独自に、昭和六十三年（一九八八）度から小学校五年生・中学校二年生の全員を対象に脊柱側彎症検査を、また平成四年（一九九二）度からは中学校の全員を対象に貧血検査を実施するなど、これまで自覚症状がないため見過ごされてきた疾病の早期発見・早期治療に努めている。

2 教職員の健康管理

教職員の健康管理は、長い間結核健診が主であったが、平成二年（一九九〇）「労働安全衛生法」の改正に伴い、「学校保健安全法施行規則」も一部改正され、教職員の健康診断項目にも新しい検査項目が加えられた。

急増する生活習慣病の対策がその主眼となっているが、心電図・胃検診・肝機能検査等が加わり、医療機関の協力を得て、実施するようになった。

この健康診断により疾病の早期発見はもとより、健康管理への関心が高まるなど、その効果は顕著なものがある。

3 延岡市学校保健会

延岡市学校保健会は、昭和二十八年（一九五三）度より学校医・学校歯科医・学校薬剤師らの学校保健に関する専門家をはじめ、学校関係者やPTA等によって構成され、児童生徒の保健管理に関する調査や研究、学校現場が当面する課題の検討など学校保健の充実・向上に努め、各部会が連帯を図りながら活動を行っている。

なお、活動の柱の一つである学校保健研究大会は、当初より毎年実施しており、平成二十五年（二〇一三）で六〇回を迎える。

二 児童生徒の体位

- 1 平成二十三年（二〇一一）度における延岡市児童生徒の体位の平均と、県・全国平均との比較は、次の表1・表2のとおりである。

表1 児童生徒の体位（男子）（全国・県との比較）

性別	年齢・比較 学校別	測定項目				身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		年齢	延岡市	宮崎県	全国	延岡市	宮崎県	全国	延岡市	宮崎県	全国			
男子	小学校	6	116.7	116.4	116.6	21.4	21.3	21.3	65.0	64.6	64.9			
		7	122.6	121.8	122.6	24.8	23.9	24.0	68.4	67.3	67.7			
		8	127.4	128.0	128.2	26.9	27.6	27.0	69.7	70.3	70.2			
		9	133.1	133.1	133.5	30.4	30.0	30.3	72.6	72.3	72.6			
		10	138.3	138.4	138.8	34.1	34.1	33.8	74.4	74.5	74.9			
		11	145.6	144.8	145.0	39.6	38.5	38.0	77.8	77.6	77.6			
		12	151.9	151.7	152.3	45.5	44.0	43.8	81.0	80.8	81.2			
	中学校	13	158.4	159.1	159.6	49.5	49.2	49.0	83.1	84.6	84.9			
		14	163.5	164.1	165.1	56.0	54.4	54.2	87.4	87.4	88.1			

平成23年度現在

（資料：延岡市教育委員会保健体育課）

表2 同(女子)

測定項目 年齢比較	身長 (cm)				体重 (kg)			座高 (cm)										
	延岡市	宮崎県	全国	延岡市	宮崎県	全国	延岡市	宮崎県	全国									
性別 年齢比較 学校別	年齢	年	齡	6	115.2	115.0	115.6	20.5	20.6	20.8	63.9	64.0	64.4					
					121.3	120.9	121.6	23.4	23.4	23.4	67.0	66.9	67.2					
					128.5	127.3	127.4	26.8	26.3	26.4	70.3	69.9	69.9					
					133.9	133.9	133.5	30.0	30.5	29.8	72.9	72.8	72.7					
					136.8	140.0	140.2	33.1	34.1	34.0	74.3	75.9	75.9					
					147.7	146.9	146.7	39.7	39.6	38.8	80.1	79.5	79.2					
					151.8	151.5	151.9	45.6	44.8	43.6	82.5	81.9	82.1					
					154.6	154.1	155.0	48.1	47.2	47.1	82.9	83.4	83.9					
					156.0	155.7	156.6	50.4	50.7	49.9	84.7	84.5	84.9					
					女	小	学	校	11	12	13	14						
									子	中	学	校						

平成23年度現在

(資料：延岡市教育委員会保健体育課)

三 延岡市学校保健会歴代会長

平成 十六年度 二十二代 井出 稔(学校医)

十七年度 同

十八年度 二十三代 津野田 兼 吾(学校歯科医)

十九年度 同

二十年度 二十四代 田 中 俊 一(学校薬剤師)

二十一年度 同

二十二年度 二十五代 江 崎 豊(学校医)

二十三年度 同

二十四年度 二十六代 赤 坂 彦四郎(学校歯科医)

四 学校保健教育功労全国表彰者

平成 十五年度 文部科学大臣表彰 佐 井 勇二郎(学校医)

十六年度 文部科学大臣表彰 井 出 康 雄(学校医)

十六年度 文部科学大臣表彰 四 倉 襄 一(学校歯科医)

1 市立幼稚園・私立幼稚園の園児数、学級数等の状況は、次の表1・表2のとおりである。

一 幼稚園

第四節 学校等一覽

十七年度	文部科学大臣表彰	中元寺 昌俊(学校医)
十七年度	文部科学大臣表彰	川 並 洋子(学校薬剤師)
十八年度	文部科学大臣表彰	延岡市立恒富中学校(学校安全)
二十年 度	文部科学大臣表彰	延岡市立延岡小学校(学校安全)
二十二年度	文部科学大臣表彰	萩 原 武雄(学校医)
二十三年度	文部科学大臣表彰	倉 澤 教 昭(学校薬剤師)

表1 市立幼稚園

園名	所在地	園児数(人)			学級数	教諭数(人)	
		男	女	計			
南幼稚園	平原町2丁目825番地	13	8	21	1	3	
西階幼稚園	野田3丁目14番地1	4歳児	26	32	58	4	5
		5歳児	26	37	63		
北方幼稚園	北方町川水流卯965番地	4歳児	1	2	3	1	2
		5歳児	1	3	4		
北浦幼稚園	北浦町古江1915番地	※平成24年度休園					
延岡市幼児ことばの教室	愛宕町1丁目1番地1					2	
計		67	82	149	6	12	

平成24年5月1日現在

(資料：延岡市教育委員会学校教育課)

(注) 教諭数は本務者のうち主幹教諭・指導教諭・教諭・助教諭を計上

表2 私立幼稚園

園名	所在地	園児数(人)				学級数	教諭数(人)
		3歳児	4歳児	5歳児	計		
土々呂幼稚園	楠津町4425番地6	13	13	23	49	4	6
一つ岡幼稚園	北一ヶ岡2丁目9番1号	12	29	31	72	4	7
一ツ岡南幼稚園	南一ヶ岡2丁目14番1号	54	64	61	179	7	11
聖心ウルスラ学園付属幼稚園	緑ヶ丘3丁目7番21号	26	27	23	76	4	6
東幼稚園	卸本町7番24号	55	69	90	214	9	15
城山幼稚園	東本小路4番地9	28	24	20	72	4	4
わか葉幼稚園	北町2丁目1番地3	19	35	33	87	4	6
延岡カトリック幼稚園	須崎町4番地2	18	23	21	62	4	6
えほんの森幼稚園	昭和町2丁目105番地	18	11	17	46	4	6
延岡望幼稚園	中川原町2丁目4704番地6	27	45	31	103	6	10
東海幼稚園	稲葉崎町2丁目2428番地1	45	55	64	164	7	10
川島幼稚園	川島町3851番地	11	30	21	62	3	7
計		326	425	435	1,186	60	94

平成24年5月1日現在

(資料：延岡市教育委員会学校教育課)

(注) 教諭数は本務者のうち主幹教諭・指導教諭・教諭・助教諭を計上

二 小 学 校

1 市立小学校

北方町・北浦町・北川町との合併に伴い、一校増加したが、平成二十年（二〇〇八）三校を統合し、二十四年（二〇一二）度現在、分校を含め三校となった。

2 私立小学校

(1) 「学校法人延岡学園」尚学館小学校（大峽町）

平成十八年（二〇〇六）四月に、「学校法人延岡学園」尚学館小学校が、宮崎県内で初めての私立小学校として開校した。「豊かな人間性を育みながら、個性を大事にし、複雑に進む社会に適応できる質の高い教育を実現する」を教育方針とし、三年（一九九一）に開校した尚学館中学校と連携し、質の高い授業に対して意欲的に取り組みことができる児童を育成している。

二十三年（二〇一一）四月、入学児一五人で全学年が揃った。二十四年（二〇一二）五月一日現在の児童数は、総計七三人、学級数は、各学年一学級の計六学級である。

なお、小学校児童数・学級数および校地保有状況は、次の表のとおりである。

表 小学校児童数・学級数および校地保有状況

学 校 名	所 在 地	児童数 (人)	学級数	校地面積 (㎡)			
				建物敷	運動場	その他	計
延岡小学校	大貫町1丁目3000番地	449	17 (2)	14,229	11,083	-	25,312
岡富小学校	高千穂通3830番地	427	15 (2)	8,996	10,381	-	19,377
旭小学校	中川原町2丁目4623番地	480	19 (2)	18,742	7,975	-	26,717
恒富小学校	愛宕町1丁目1番地1	258	12 (2)	10,430	11,147	-	21,577
西小学校	古城町2丁目9番地9	360	14 (2)	5,840	6,863	-	12,703
南小学校	平原町2丁目825番地1	702	25 (3)	9,612	7,900	-	17,512
緑ヶ丘小学校	緑ヶ丘4丁目11番1号	296	13 (2)	6,212	6,730	-	12,942
東小学校	出北5丁目12番1号	638	22 (2)	12,982	10,455	-	23,437
方財小学校	方財町18番地2	58	5 -	2,293	3,532	203	6,028
東海小学校	稲葉崎町1丁目1703番地	431	16 (2)	11,032	11,328	-	22,360
川島小学校	川島町2770番地イ	164	6 -	4,408	7,047	-	11,455
港小学校	東海町182番地	17	3 -	5,392	3,188	406	8,986
黒岩小学校	大野町744番地2	26	4 -	3,325	4,728	16	8,069
土々呂小学校	土々呂町1丁目276番地	335	14 (2)	13,150	14,362	-	27,512
名水小学校	鯛名町545番地	39	5 (1)	3,381	8,138	-	11,519
南方小学校	野田3丁目14番地2	784	27 (2)	10,155	13,538	-	23,693
上南方小学校	細見町2971番地13	121	7 (1)	18,054	7,507	-	25,561
熊野江小学校	熊野江町2600番地2	10	3 -	2,721	2,818	470	6,009
島野浦小学校	島浦町14番地7	43	4 -	4,556	2,806	498	7,860
浦城小学校	浦城町346番地イ	9	3 -	2,738	3,181	818	6,737
一ヶ岡小学校	南一ヶ岡2丁目17番1号	362	14 (2)	14,098	13,635	-	27,733
伊形小学校	伊形町5700番地	337	13 (1)	12,253	8,353	14,565	35,171
東海東小学校	柚の木田町2332番地	347	14 (2)	13,000	11,182	3,708	27,890
北方小学校	北方町川水流卯965番地	146	8 (2)	12,648	10,434	1,039	24,121
城小学校	北方町早上巳1664番地	20	3 -	2,670	2,682	924	6,276
美々地小学校	北方町美々地未985番地	19	3 -	5,518	4,371	1,650	11,539
三槿小学校	北方町板下戌465番地	21	4 (1)	2,634	4,288	3,383	10,305
北浦小学校	北浦町古江1915番地	160	8 (2)	6,378	3,485	11,645	21,508
宮野浦分校	北浦町宮野浦1801番地	10	2 -	1,631	1,392	97	3,120
三川内小学校	北浦町三川内2761番地	23	4 (1)	6,325	7,283	3,005	16,613
北川小学校	北川町長井4514番地	163	7 (1)	5,636	4,043	9,891	19,570
計		7,255	314 (37)	251,039	225,855	52,318	529,212

平成24年5月1日現在

(資料：延岡市教育委員会)

(注) 学級数欄 () は特別支援学級の内数

私立小学校

学 校 名	所 在 地	児童数 (人)	学級数	校地面積 (㎡)			
				建物敷	運動場	その他	計
尚学館小学校	大峽町7820番地	73	6	-	-	-	-

平成24年5月1日現在

(資料：尚学館小学校)

(注) 校地は、延岡学園高校および尚学館中学校と併設

三 中 学 校

1 市立中学校

北方町・北浦町・北川町との合併に伴い、四校増加し、二十四年（二〇一二）度現在、一七校となった。

2 私立中学校

(1) 延岡学園尚学館中学校（大峽町）

平成三年（一九九一）四月学校法人延岡学園が「尚学館中学校」を開校した。社会に有為な人材の育成を図るために、生徒の能力・資質・特性を尊重し、弾力的な教育課程の編成と運用を行い、六カ年の中高一貫教育を系統的・合理的に実践している。二十四年（二〇一二）三月第十六期生を送り出し、卒業生は七九六人となる。卒業生のほとんどが大学に進学しており、有名国立大学、有名私立大学、難関の医学部医学科などに多数合格者を輩出している。また部活動も積極的に行っており、男子バスケットボール部や女子バレーボール部が県大会で数回優勝している。なお二十四年五月一日現在の生徒数は総計三二九人、学級数は一一学級である。

(2) 聖心ウルスラ学園聡明中学校（緑ヶ丘）

平成十九年（二〇〇七）四月、学校法人聖心ウルスラ学園高等学校に併設型の六年制中高一貫校「聖心ウルスラ学園聡明中学校」を開校した。二十二年（二〇一〇）四月、高等部を開設し、現在に至る。本校は、カトリックの精神である「心の教育」を根底に、「確かな学力」および「健全な体」を育むとともに、小規模校の特徴を生かし、きめ細かな指導のもと、教育の質的な充実を図ることによって、高い進路目標を達成することを目標としている。また、イタリアへの修学旅行および英語合宿などの機会を通して国際的な視野を持った生徒の育成を図っている。

なお、中学校生徒数・学級数および校地保有状況は、次のとおりである。

表 中学校生徒数・学級数および校地保有状況
市立中学校

学校名	所在地	生徒数 (人)	学級数		校地面積 (㎡)			
					建物数	運動場	その他	計
延岡中学校	浜砂1丁目6番1号	322	12	(2)	10,679	13,041	-	23,720
恒富中学校	古城町4丁目149番地	290	11	(2)	6,716	12,552	-	19,268
岡富中学校	本小路75番地2	430	15	(2)	7,987	6,718	-	14,705
旭中学校	富美山町298番地1	227	8	(1)	12,723	10,461	-	23,184
西階中学校	西階町1丁目4042番地3	411	14	(2)	16,697	6,092	828	23,617
南中学校	緑ヶ丘3丁目6番1号	575	18	(2)	9,893	12,161	102	22,156
東海中学校	無鹿町1丁目2218番地1	528	16	(2)	14,804	9,712	955	25,471
土々呂中学校	松原町3丁目8933番地1	552	18	(2)	14,261	17,514	208	31,983
黒岩中学校	大野町750番地イ	13	3	-	4,834	9,600	548	14,982
南方中学校	細見町2994番地	65	4	(1)	5,672	12,345	-	18,017
熊野江中学校	熊野江町2511番地1	4	1	-	3,210	6,322	1,629	11,161
浦城中学校	浦城町36番地口	11	2	-	2,666	4,472	1,504	8,642
島野浦中学校	島浦町322番地4	31	3	-	4,967	2,005	928	7,900
北方中学校	北方町川水流卯972番地	90	4	(1)	10,564	14,585	3,625	28,774
北浦中学校	北浦町古江2270番地	117	5	(1)	12,687	12,135	612	25,434
三川内中学校	北浦町三川内2787番地	18	4	(1)	6,266	2,185	6,015	14,466
北川中学校	北川町川内名7248番地	104	4	(1)	8,517	9,765	563	18,845
計		3,788	142	(20)	153,143	161,665	17,517	332,325

平成24年5月1日現在

(資料：延岡市教育委員会)

(注) 学級数欄 () は特別支援学級の内数

私立中学校

学校名	所在地	生徒数 (人)	学級数		校地面積 (㎡)			
					建物数	運動場	その他	計
尚学館中学校	大峽町7820番地	170	6	-	-	-	-	-
聡明中学校	緑ヶ丘3丁目7番21号	65	3	1,444	-	-	1,444	

平成24年5月1日現在

(資料：尚学館中学校・聡明中学校)

(注1) 尚学館中学校の生徒数は、高等部を含まない。校地は、延岡学園高校と併設
(注2) 聡明中学校の生徒数は、高等部を含まない。運動場は、聖心ウルスラ学園高校と共有

四 高等学校

1 県立高等学校

(1) 県立延岡高等学校（古城町）

現在 校 明治三十二年（一八九九）三月、宮崎県立延岡中学校として創立が認可され、同年五月開校式を挙行する。戦後の学制改革により昭和二十三年（一九四八）に新制の延岡恒富高等学校および延岡富高等学校となったが、翌年統合され延岡恒富高等学校となる。三十四年（一九五九）に、延岡高等学校と改称し、現在に至る。

平成 十五年 四月 生徒数の減少により普通科が一学級減となり、六学級（うち理数コース二学級）となる。

十六年 四月 校長宮川直臣が退職のため、都農高等学校校長岩崎健一郎が第二十代校長として着任

十七年 四月 普通科四学級（定員一六〇人）・理数科二学級（定員八〇人）となる。

十八年 四月 校長岩崎健一郎が県教育研修センターへ転任のため、宮崎南養護学校校長佐々木逸夫が二十一代校長として着任

二十年 四月 校長佐々木逸夫が宮崎南高等学校へ転任のため、福島高等学校校長伊東順夫が第二十二代校長として着任

二十一年 十月 創立百十周年記念式典および提灯行列を行う。

二十二年 四月 校長伊東順夫が退職のため、大宮高等学校副校長佐藤則夫が第二十三代校長として着任

二十三年 四月 理数科を改編し、メディカル・サイエンス科二学級を設置する。

旧制延岡中学校・延岡高等女学校以来の伝統を継承し、校訓「剛健・自治・信愛」の具現化を図り、教職員の方々の「あつい（熱い・厚い・篤い）指導」のもと、自らの可能性に常に挑戦し、社会に貢献するたくましい人材の育成をめざしている。平成六年（一九九四）に設置された普通科理数コース二クラス（定員八〇人）は、十七年（二〇〇五）に理数科に、二十三年（二〇一一）にメディカル・サイエンス科に改編された。同学科は、地域の課題（医師確保を中心とする医療体制の整備）および地域の特質（県内一の工業集積地、メディカルバレー構想）に対応するために、その目標を学科名に明確に示したものである。

(2) 県立延岡西高等学校（野地町）（閉校）

沿革 昭和三十八年（一九六三）四月、宮崎県立延岡西高等学校として創立し、延岡高等学校から六月に野地町へ移転する。四十年（一九六五）四月には、全学年体制が整い高等教育の推進に努めたが、県立延岡星雲高等学校が創立されることに伴い、平成十九年（二〇〇七）三月閉校となる。

平成 十四年 三月 準校旗を制定し、「智慧・美徳・健康・愛校・自立」をモットーとする。

十五年 四月 校長黒木勝範が退職のため、県立小林高等学校教頭河野包が第十二代校長として着任。文部科学省の研究校として「学力向上フロンティアハイスクール」に十五年（二〇〇三）度から十七年（二〇〇五）度まで指定される。

九月 創立四十周年記念式典を挙行する。

十一月 県教育委員会が延岡地区普通科再編整備について、十七年度から本校と延岡東高等学校の

生徒募集を停止し、新高校を設置し生徒募集を行うことを発表する。

十七年 二月 学校法人高梁学園と「連携協力に関する協定書」を締結する。

十九年 三月 第四十二回卒業式を行う。

閉校式典を挙げる。

校長河野包が県立高鍋高等学校へ転任する。

本市二校目の県立普通科高校として開校された本校は、哲学者カントの崇高な理念「自立・人間尊重・世界平和」を建学の精神とし、四四年にわたって教育活動を展開してきた。近年の少子化の進行により県立延岡東高等学校と再編統合し、新設の県立延岡星雲高等学校として活動は継続されている。

(3) 県立延岡東高等学校(牧 町)(閉 校)

沿 革 昭和五十二年(一九七七)一月に宮崎県立延岡東高等学校として創立し、高校教育の推進に努めたが、延岡星雲高等学校が創立されることに伴い、平成十九年(二〇〇七)三月閉校となる。

平成 十五年十一月 県教育委員会が、延岡地区普通科再編整備について発表し、十七年(二〇〇五)度から本校の生徒募集を停止し、延岡東高等学校内に新設校を設置することとなる。

十六年 四月 校長荒木正昭が退職のため、県立門川農業高等学校校長池上和文が第十二代校長として着任

十七年 六月 県教育委員会から「学力向上推進モデル校」の指定を受ける。

十九年 三月 第二十八回卒業式を行う。

閉校式典を挙げる。

本市三校目の県立普通科高校として開校された本校は、「努力・清心・創造」を校訓とし、旭日の勢いを示す東雲を象徴として三〇年にわたる教育活動を展開してきた。近年の少子化の進行により県立延岡西高等学校と再編統合し、新設の県立延岡星雲高等学校としてその活動は継続されている。

(4) 県立延岡星雲高等学校（牧 町）

現 在 校 平成十七年（二〇〇五）四月に延岡西高等学校および延岡東高等学校を統合し、宮崎県立

延岡星雲高等学校として創立。普通科五学級（定数二〇〇人）、国際人文科一学級（定数四〇人）を設置し、現在に至る。

平成 十六年 四月 延岡地区新高等学校開設準備委員会が発足する。

七月 県教育委員会が、十七年度の募集定員と入試日程を発表する。

十七年 四月 県立延岡東高等学校校長池上和文が初代校長として着任

開校式および第一回入学式を挙行する。

十八年 三月 校歌を制定する。

十一月 第一回国際人文科海外語学研修を行う。

二十年 四月 校長池上和文が退職し、県立日南工業高等学校校長木許恭三郎が第二代校長として着任

二十二年 四月 校長木許恭三郎が県立宮崎東高等学校校長へ転任のため、県立日南振徳高等学校校長浜口

剛士が第三代校長として着任

七月 県教育委員会が「国際人文科」から「フロンティア科」への改称を発表する。

二十四年 四月 校長浜口剛士が退職のため、県立延岡たいよう支援学校校長浜松達生が第四代校長として

着任

本校は、県立延岡西高等学校および県立延岡東高等学校の伝統を受け継ぎ、「志の風・美しの風・創造の風」を校訓として、新しく開設された学校である。伝統校である県立延岡高等学校とともに、公立の進学校として様々な活動に取り組んでいる。また、二十三年（二〇一一）度には「国際人文科」を「フロンティア科」として学科改編し、社会に有為な人材の育成をめざして教育活動を展開している。

(5) 県立延岡商業高等学校（桜ヶ丘）

現 在 校 大正十年（一九二二）四月、郡立延岡商業学校として開校し、幾多の校名変更・変遷を経て現在地に、昭和三十三年（一九五八）四月、宮崎県立延岡商業高等学校として創立

平成 十四年 九月 山下新天街の「イベント工房」に本店し、生徒の手による販売実習店舗「チャレンジシヨッ

プ和」の経営が始まる。

十月 文化祭の一部を山下新天街などのアーケード街で行う「街中文化祭」が始まる。

十五年 四月 校長河野眞積が県立宮崎商業高等学校校長へ転任のため、県教育委員会学校教育課主幹栗

山重隆が第十五代校長として着任

十七年 六月 文部科学省の「目指せスペシャリスト」研究開発事業の指定を受け、三年間の取り組みが

始まる。

十八年 四月 校長栗山重隆が県立宮崎東高等学校校長へ転任のため、県立日向工業高等学校校教頭赤池要

一が第十六代校長として着任

学科改編により情報処理科二学級を募集停止し、経営情報科一学級を新設。商業科（二学

級)、会計科(二学級)、流通経済科(一学級)、経営情報科(一学級)の五学級となる。

六月 大韓民国華城市の三槐高等学校と起業家教育に関する研究開発協力校の協定を結ぶ。

十九年十一月 文部科学省「目指せスペシャリスト」研究開発事業研究発表会を開催する。

二十年 四月 校長赤池要一が県立妻高等学校校長へ転任のため、県立高鍋高等学校教頭中浦和博が第十七代校長として着任

十月 大韓民国で開催された「全国BizControlフェスティバル」に外国の学校として初めて参加し、「敢闘賞」を受賞する。

二十一年 四月 「楽天」から「楽天IT学校」の指定を受ける。

二十三年 四月 校長中浦和博が退職のため、県立宮崎西高等学校副校長北林信彦が第十八代校長として着任

十一月 創立九十周年記念行事を挙げる。

本校は「質実剛健・堅忍持久・勤労愛好」を校訓とし、産業人としての誇りと積極的に社会に貢献する気概を持つ生徒の育成に努めている。また「栄光は君に 挑戦せよ延商生」をスローガンに、教師と生徒が達成感・成就感を共有し、共に学び共に成長していく教育の場の創造をめざしている。

(6) 県立延岡工業高等学校(緑ヶ丘)

現 在 校 昭和十九年(一九四四)校舎が中川原にあった宮崎県立延岡商業学校は、宮崎県立延岡工業

業学校に切り替えられ、幾多の校舎、名称の変遷を経て、四十年(一九六五)四月に宮崎県立延岡工業高等学校と校名を改称し、現在に至る。

平成 十四年 四月 入学募集定員変更により機械科が一学級減となる。

十五年 四月 校長鮫嶋芳郎が退職のため、県立宮崎工業高等学校校頭大迫昭洋が第十八代校長として着任

十六年 四月 電気科・電子科を統合して電気電子科として再編する。

十七年 四月 校長大迫昭洋が退職のため、県立延岡第二高等学校校長荒武眞晴が第十九代校長として着任
十九年 四月 校長荒武眞晴が退職のため、県立日向工業高等学校校長松山孝太郎が第二十代校長として着任

化学工学科を環境科学システム科へ学科改変する。

二十一年 四月 校長松山孝太郎が県立佐土原高等学校校長へ転任のため、県立延岡ととろ聴覚支援学校校長富山隆志が第二十一代校長として着任

十二月 第四期日本の環境を守る若武者育成塾(アサヒビール株式会社主催)の成果発表会にて「ホテルの群灯工都を照らすプロジェクト」で環境化学システム科が優秀賞を受賞する。

二十三年 九月 土木科が、地元伝統工法の「なんば引きへの挑戦」について県北地区産業教育振興会にて研究発表を行う。

二十四年 五月 土木科が、北川町長井の家田川水系で「なんば引き」の実地体験を行う。

延岡市、旭化成株式会社延岡支社、延岡市教育委員会と共催で、シンポジウム「やっちみらんけグローバル身近なところのグローバル」を行う。

本校は、校訓「立志・勉励・創造」の精神のもと、新しい時代に必要な人材育成のために、地域のネットワー

クを活かし、安心安全防災、キャリア、グローバル教育など多彩な取り組みを行っている。また一年時から進路学習に取り組み、生徒一人ひとりが進路目標に応じて、学習、資格取得、部活動などを熱心に行っており、卒業生は、それぞれ産業界の第一線で活躍している。

(7) 県立延岡青朋高等学校（旧県立延岡第二高等学校）（平原町）

現在 校 昭和二十二年（一九四七）宮崎県立延岡中学校に定時制夜間部が設置され、二十三年（一九四八）学制改革で県立延岡恒富高等学校を創設、定時制に夜間部普通科・夜間部併設中学・通信教育部を設置する。その後幾多の変遷を経て、四十四年（一九六九）に現在地に

移転、県立延岡第二高等学校として二部制の独立校となり、平成十八年（二〇〇六）に名称を変更し、宮崎県立延岡青朋高等学校となる。

平成 十五年 四月 校長瀬戸久夫が退職のため、県立宮崎工業高等学校教頭荒武眞晴が、第十五代校長として着任

十七年 四月 校長荒武眞晴が県立延岡工業高等学校校長へ転任のため、県立宮崎工業高等学校教頭大重順一が、第十六代校長として着任

十八年 四月 学校改組にともない校名を宮崎県立延岡青朋高等学校と改称する。

定時制夜間部に午後の授業を設置し、昼夜開講型定時制の二部制を導入する。

通信制課程と定時制課程（二部）の単位制高校として再出発する。

二十年 四月 校長大重順一が県立都城工業高等学校校長へ転任のため、県立宮崎西高等学校教頭末廣芳文が、第十七代校長として着任

二十三年 四月 校長末廣芳文が退職のため、県立宮崎東高等学校教頭津隈亮典が、第十八代校長として着任

本校は、県内に二校ある県立の定時制通信制の専門高校として、働きながら学ぶ勤労生徒や多様な入学動機を持った幅広い年齢層の生徒の普通教育や専門教育を行っている。校訓として、「自主自立・友愛協調・規律責任」を掲げ、学ぶ力と人間力を身につけた社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

2 私立高等学校

(1) 延岡学園高等学校（大峽町）

現在 在校 学校法人延岡学園を昭和三十年（一九五五）に創立し、四十一年（一九六六）四月校名を延岡学園高等学校と改称し現在に至る。

平成 十五年 四月 校長佐々木國夫が退任のため、安藤正勝が第九代校長として就任

十六年 四月 普通科特別進学コース新設

十七年 五月 室内運動場SAKKURADーム完成

十八年 四月 校長安藤正勝が退職のため、田爪靖が第十代校長として就任

十九年 四月 校長田爪靖が退職のため、河野幸一が第十一代校長として就任

二十一年 四月 停止していた調理科の募集を再開

六月 理事長佐々木國夫が退職のため、佐々木雅彦が第三代理事長として就任

建学の精神「自立心を養い有為な社会人を育てる」にのっとり、私学の特色を生かし、社会に有為な人材育成のため勤勉、進取および礼節を重んじた教育を行っている。

部活動も盛んで、野球部は全国高等学校選手権大会に過去六回出場した。男子バスケットボール部は、二十三年（二〇一一）度に全国高等学校三大大会（総体・国体・選抜）を全て制し「高校三冠」を達成し、また、二十四年（二〇一二）度も、全国高等学校三大大会を制覇した。

(2) 聖心ウルスラ学園高等学校（緑ヶ丘）

現在 在 校 設立母体である「聖心のウルスラ宣教女修道会」が、延岡市の要請を受けて昭和三十年

（一九五五）二月、学校法人緑ヶ丘学園を創立し、同年四月、緑ヶ丘学園高等学校を開校する。平成二年（一九九〇）四月、聖心ウルスラ学園高等学校と改称し現在に至る。

平成 十五年 四月 英語コースを特別進学コースに、普通コースを総合コースに改編

十六年 四月 福祉コースを総合コースに含め、特別進学コースとの二コースに改編

十七年 八月 野球部が、第八十七回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）に出場

十八年 四月 第七代校長に中利幸が就任

二十年 四月 福祉コースを保育福祉コースに改編

二十二年 四月 第八代校長に牧野みどりが就任

本校は、キリスト教カトリックの精神に基づき、「神が愛したように互いに愛し合いなさい」を建学の精神として「平和のために働く人間の育成」をめざしている。

道徳的、宗教的情操教育を重んじ、人格を陶冶し、正しい道徳観と世界観を養い、高い知性と豊かな心情を備えた品性ある人間の育成を目的とする。校風として伝統的に礼儀礼節を重んじ、ボランティア活動にも学校全体で積極的に取り組んでおり、地域の人々からは「ミッションスクール」として親しまれている。

なお、平成二十五年（二〇一三）四月から看護師を養成する五年一貫の看護科を開設する。

五 特別支援学校

1 県立特別支援学校

(1) 県立延岡ととろ聴覚支援学校（土々呂町）（閉校）

沿

革

昭和四年（一九二九）知事の認可で設立した延岡盲啞学校は、二十三年（一九四八）には県立盲学校および県立ろう学校延岡分校となり、三十年（一九五五）宮崎県立延岡ろう学校に、さらに平成二十年（二〇〇八）宮崎県立延岡ととろ聴覚支援学校に校名を改称し、二十四年（二〇一三）宮崎県立延岡しろやま支援学校が創立されるに及び統合し閉校となる。

平成

十四年

九月

十五年（二〇〇三）度高等部の募集を停止する。

十五年

四月

校長原口忠夫が退職のため、県立都城ろう学校教頭石川英夫が第十七代校長として着任

十月

九州地区聾学校体育・文化連盟宮崎大会を主管校として実施する。

十七年

三月

高等部を廃止する。

四月

校長石川英夫が県立清武養護学校へ転任のため、県立日南高等学校教頭川崎基宏が第十八

代校長として着任

十九年

四月

校長川崎基宏が県立小林工業高等学校へ転任のため、県立宮崎工業高等学校教頭富山隆志が第十九代校長として着任

二十年 四月 宮崎県立延岡ととろ聴覚支援学校に校名を改称する。

十月 創立八十周年記念式典を挙行する。

二十一年 四月 校長富山隆志が県立延岡工業高等学校へ転任のため、県立都城商業高等学校教頭松田朝子が第二十代校長として着任

が第二十代校長として着任

二十四年 三月 校長松田朝子が門川高等学校へ転任する。

県立延岡しるやま支援学校へ統合し閉校する。

本校は、高い専門性に基づく学力向上を実現するための取り組みを行ってきた。また、乳幼児期からの早期教育相談を含め、聴覚障がい児に対する県北唯一の言語聴覚教育を行う教育機関として、県民の期待を担いながら、八十周年の輝かしい歴史と伝統を築きあげてきた。

(2) 県立延岡わかあゆ支援学校(松山町)(閉校)

沿革 昭和四十一年(一九六六)宮崎県立延岡養護学校として設立し、翌年に、小学部七学級、

中学部四学級で開校。その後学級変遷があり、四十六年(一九七二)には高等部が新設さ

れ、平成二十年(二〇〇八)宮崎県立延岡わかあゆ支援学校に校名を改称し、二十四年

(二〇二二)宮崎県立延岡しるやま支援学校が創立されるに及び統合し閉校となる。

平成 十四年 四月 校長荒木正昭が県立延岡東高等学校へ転任のため、県立延岡ろう学校教頭戸高豊秀が第

十一代校長として着任

十七年 四月 校長戸高豊秀が退職のため、本校教頭新穂洋子が第十二代校長として着任

五月 常陸宮両殿下がお成りになられる。

十八年 四月 「環境にやさしい学校づくり」の認定校となる。

二十年 四月 校長新穂洋子が退職のため、本校教頭福里裕典が第十三代校長として着任

宮崎県立延岡わかあゆ支援学校に校名を改称する。

高千穂高等学校内に高等部三学級編制で、分校として高千穂校を開校し、第一回入学式を行う。

二十二年 四月 校長福里裕典が県立明星視覚支援学校へ転任のため、本校教頭上村喜一が第十四代校長と

して着任

八月 全国高等学校総合文化祭宮崎大会の合唱部門に参加する。

二十四年 三月 県立延岡しろやま支援学校へ統合し閉校する。

本校は、県内唯一の高等部を置く肢体不自由児の学校である。県内各地から入学して来るため、児童・生徒の半数近くは寄宿舎生活を送ってきた。肢体が不自由であるため、普通学校での学習には支障があるので、本校では、小学校・中学校および高等学校（普通科）に準ずる教育を施すとともに、機能訓練を行いながら、自ら障がい改善し、ハンディキャップを補うために必要な知識や技能を修得させてきた。

(3) 県立延岡たいよう支援学校（櫛津町）（閉校）

沿革 昭和三十五年（一九六〇）に宮崎県社会福祉事業団によって、知的障がい者施設「ひかり

学園」が設置され、生活訓練を主とする学園運営がなされるとともに、学校教育の必要性から、施設内に土々呂小・中学校分校が開設され、学校教育が開始された。養護学校の義務化に先駆け、五十三年（一九七八）に土々呂小・中学校分校が県立学校に移管され、宮

崎県立延岡南養護学校として榎津町に開設した。平成六年（一九九四）には高等部が設置され、二十年（二〇〇八）宮崎県立延岡たいよう支援学校に校名を改称し、二十四年（二〇一三）宮崎県立延岡しろやま支援学校が創立されるに及び統合し閉校となる。

平成 十五年 二月 全日本学校環境緑化コンクール学校緑化で準特選となる。

十六年 四月 校長上村勝が退職のため、県立延岡養護学校教頭高橋和平が第十三代校長として着任

十八年 四月 校長高橋和平が県立都城養護学校へ転任のため、県立宮崎養護学校教頭黒木茂が第十四代校長として着任

十九年十一月 創立三十周年記念式典を挙げる。

二十年 四月 校長黒木茂が県立都城養護学校へ転任のため、県立宮崎南養護学校校長武富志郎が第十五代校長として着任

宮崎県立延岡たいよう支援学校に校名を改称する。

二十二年 四月 校長武富志郎が県教育委員会へ転任のため、県立日向高等学校教頭浜松達生が第十六代校長として着任

二十四年 三月 校長浜松達生が県立延岡星雲高等学校へ転任する。

県立延岡しろやま支援学校へ統合し閉校する。

本校は、養護学校義務制と関連して、ひかり学園在園の児童生徒をはじめ、当該地域在住の知的障がい児に対して、その特性に応じた教育を施してきた。また障がいの程度や発達の状況に応じて、主体的に改善・克服する能力を育みながら、児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、基本的な生活習慣を身につけ、進んで社会生活に参加

する能力や態度を養うことをめざしてきた。

(4) 県立延岡しろやま支援学校（野地町）

現 在 校 平成十九年（二〇〇七）に閉校となった県立延岡西高等学校の跡地に、二十四年（二〇一二）

県立延岡ととる聴覚支援学校、県立延岡わかあゆ支援学校、および県立延岡たいよう支援学校が統合され、県立延岡しろやま支援学校となる。

平成二十三年 四月 新設県立特別支援学校開設準備委員会を設置する。

二十四年 四月 宮崎県立延岡しろやま支援学校を創立する。

県立延岡わかあゆ支援学校校長上村喜一が初代校長、早瀬公高が県内初の民間登用の副校長として着任

本校は、「地域とともに子どもたちの自立する心と力を育み、可能性を高め、未来を拓く総合的な専門教育の実現」を設置理念とし、基本方針としては、多様な教育的ニーズに対応した専門性の高い教育、ライフステージに応じた支援、医療・保健・福祉・労働と連携した地域支援を掲げている。また教育施策の方向としては、複数の障がいに対応した専門教育の実施、就学前から卒業後までの一貫した教育の実施、一般就労をめざした職業教育の充実、地域の特別支援教育センターとしての機能の充実、さらに付加機能として子育て支援機能、自立支援機能、地域交流機能、研修・啓発機能の充実をめざしている。

六 大 学

1 私立大学

(1) 聖心ウルスラ学園短期大学（緑ヶ丘）（閉 校）

沿 革 昭和四十二年（一九六七）四月緑ヶ丘学園短期大学として開学し、四十七年（一九七二）

に緑ヶ丘学園延岡短期大学、平成二年（一九九〇）に聖心ウルスラ学園短期大学に改称し、二十三年（二〇一一）三月閉校となる。

平成 十六年 四月 第三代学長に中村義男が就任する。

十九年 四月 第五代理事長にシスター佐田栄子が就任する。

第四代学長に太田賢一郎が就任する。

二十二年 一月 第五代学長にシスター佐田栄子が就任する。

四月 全学科の学生の募集を停止する。

二十三年 三月 最後の卒業式および閉校式を挙行する。

本学は、県北唯一の短期大学として四四年の長きにわたり県北を中心とする地域の高等教育に寄与してきた。その間、三三三四人（家政科二六五人・食物栄養学科一四四二人・幼児教育学科一八二七人）もの卒業生を輩出してきた。卒業生は、栄養士・保育士・幼稚園教諭などとして県北のみならず全国で活躍している。

二十三年にその歴史的使命を終え閉校した。しかし、その精神は今なお、聖心ウルスラ学園高等学校、聖心ウルスラ学園聡明中学校、聖心ウルスラ学園付属幼稚園において引き継がれている。

(2) 九州保健福祉大学（吉野町）

現 在 校 平成十年（一九九八）文部大臣から九州保健福祉大学の設置を認可され、翌年社会福祉学

部、保健科学部が開学し、十四年（二〇〇二）に通信教育部が、十五年（二〇〇三）に四年制の薬学部薬学科が開設、十八年（二〇〇六）に六年制に移行し現在に至る。

平成 十五年 四月 薬学部薬学科（二二〇人）を開設する。

十六年 四月 大学院（通信制）社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士（後期）課程、大学院（通信制）保健科学研究科専攻博士（後期）課程を開設する。

十八年 四月 第四代学長に南嶋洋一が就任する。

薬学部薬学科が、六年制（二〇〇人）に移行する。

十九年 三月 薬学科第一期生が卒業する。第九二回薬剤師国家試験の合格率（九七・五％）が全国一となる。

四月 社会福祉学部子ども保育福祉学科（五〇人）、保健科学部臨床工学科（四〇人）を開設する。

二十年 四月 社会福祉学部臨床福祉学科福祉ビジネス専攻（三〇人）を開設する。

薬学部薬学科の定員を一八〇人とし、動物生命薬科学科（四年制）（三〇人）を開設する。

外国人留学生の受け入れ（四月入学一五人、九月入学一二人）を開始する。

二十一年 三月 薬学科第三期生が卒業する。第九四回薬剤師国家試験の合格率（九七・〇六％）が全国一となる。

五月 九州保健福祉大学開学一〇周年記念式典を挙行する。

創立者加計勉記念室を開設する。

石井記念友愛社・みその児童福祉会・順正学園による「児童養護施設卒園者を支援する」連携協力協定を締結する。

延岡市・高梁市・高梁学園による「大学を活かしたまちづくり」連携協力協定を締結する。

二十二年 四月 学校法人高梁学園を学校法人順正学園に名称を変更する。

視機能療法学別科（四〇人）を開設し、薬学部薬学科の定員を一四〇人にする。

二十四年 四月 医療薬学研究科医療薬学専攻（四年制）博士課程（四人）、臨床工学別科（四〇人）を開設する。

医療・保健・福祉の総合大学として「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し、引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」を建学の精神とし、社会福祉学部、保健科学部、薬学部、通信教育部、大学院（通信制）を設置し、人材の養成を図っている。特に薬学部は、薬剤師国家試験の合格率が全国一になるなど目覚ましい成果を上げている。また本市の福祉先進都市づくりの一環として、行政と大学によるシンポジウムの共同開催や学術会議の開催など、情報発信や人づくりを行っているほか、市民講座「のべおか市民大学院」や各種講演会、審議会等々、大学の機能の活用、人材派遣の協力などにより、本市の地域文化の向上やまちづくりに大きく寄与している。

七 専修学校・各種学校

1 専修学校

- (1) 聖心ウルスラ学園歯科衛生士専門学校（緑ヶ丘）（閉校）

沿 革 昭和四十七年（一九七二）二月厚生労働大臣指定養成機関として緑ヶ丘学園延岡歯科衛生士学院（修業年限一年）設置が認可され、その後、修業年限が二年となる。平成二年（一九九〇）聖心ウルスラ学園歯科衛生士専門学校と改称し、二十年（二〇〇八）三月に閉校となる。

平成 十六年 四月 第三代校長に中村義男が就任する。

十九年 四月 第四代校長に太田賢一郎が就任する。

学生の募集を停止する。

二十年 三月 最後の卒業式（一五人）を行い、閉校となる。

キリスト教カトリック系の歯科衛生士専門学校として、開校以来三六年間の長きにわたり、愛と奉仕の精神をもった有能な歯科衛生士を養成してきた。この間の卒業生は八八一人にのぼり、県内はもとより全国で活躍している。二十年三月にその歴史的使命を終え閉校した。

(2) トライアート・カレッジ（須崎町）

現 在 校 昭和二十一年（一九四六）延岡洋裁専門学院として開院し、その後幾多の変遷を経て、平成八年（一九九六）に学校法人ミウラ学園「トライアート・カレッジ」に校名を改称し、現在に至る。

本校は、「豊かな心・洞察力・勤労」を建学の精神とし、人間形成を第一義に掲げ、九年（一九九七）四月私立向陽台高等学校（大阪府茨木市）の広域通信制と提携することにより、通信制（単位制）を実施している。単位制授業により、能力に応じた科目の選択が自由にできるなど理想的な授業が展開され、卒業生は、本校の「高

等課程」および向陽台高等学校の「普通科」の卒業証書を同時に取得できる。

(3) 延岡看護専門学校（出北六丁目）

現 在 校 昭和二十七年（一九五二）六月延岡市医師会立延岡准看護婦養成所（入学生四二人）とし

て発足。二十九年（一九五四）延岡准看護婦学校（定員一〇〇人）と改称する。五十二年

（一九七七）に延岡高等看護学校（定員四〇人）が新たに設立され、平成八年（一九九六）

に延岡看護専門学校（医療専門課程〈看護師科〉、医療高等課程〈准看護師科〉）と改称し、

現在に至る。

平成 十四年 四月 医療高等課程の定員を四五人から四〇人に変更する。

十九年 四月 校舎を東本小路から出北六丁目の延岡市医師会病院東側に新築移転する。

本校の特色としては、准看護師養成課程（昼間二年間）卒業後に准看護師資格試験の受験資格が取得でき、さらに看護師をめざす学生は、看護師養成課程（夜間三年間）に進学し、卒業後に看護師国家試験資格が取得できる。

「働きながら学べる」学校として、准看卒業生・高看卒業生合わせて約五〇〇〇人（二十三年度末現在）を社会に輩出し、県北の医療に貢献している。なお、准看護師資格試験合格率一〇〇パーセント、看護師国家試験合格率は全国平均を上回る実績を誇り、県北での就業率は九〇パーセントを超えている。

第三章 社会教育

第一節 社会教育近年の歩み

近年、少子高齢化や情報化社会等の急速な進展等を背景に、人々の生活意識やライフスタイルが大きく変化し、人々の価値観も「物の豊かさ」から、「心の豊かさ」を重視する傾向に変化してきている。

人々が自らの学習意欲を喚起し、個性を磨き、能力や技能を高め、教養を身につけられるようにするためには、市民の自主的な学習活動を支援し、学習情報の提供、相談、指導者の養成にとめながら、関係施設の整備充実を行っていくことはもとより、家庭・学校・地域社会、そして社会教育関係団体等とのより緊密な連携が求められている。

そこで、延岡市では、「延岡市教育基本方針」および平成十五年（二〇〇三）二月に宣言した「未来をひらく人づくり都市宣言」等の趣旨を踏まえ、市民が生涯において、いつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される「生涯学習社会」の実現を目指している。

また、二十年（二〇〇八）の社会教育法の一部改正を受け、社会教育がより一層、学校、家庭および地域住民その他の関係者相互間の協力・連携の促進に資することとなるよう、様々な事業を展開している。

第二節 社会教育の推進体制

一 社会教育に関する諮問機関および支援機関

市民の社会教育の充実振興を図るために、社会教育に関し助言や意見を求める機関として、「社会教育委員会会議」「文化財保護審議会」「図書館協議会」「青少年育成センター運営協議会」などを設置している。

また、社会教育を推進するため、社会教育指導員が昭和四十七年（一九七二）四月から配置され、青少年教育をはじめ、家庭教育、成人教育、人権・同和教育、自治公民館活動等の各分野にわたり、経験と知識を生かし、指導、育成および相談等に努めている。

二 少年団体指導員

少年団体指導員は、年齢の異なる集団の中で体験を積み上げ、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力をもった子どもを育てることを目的に、昭和五十二年（一九七七）四月に設置された。子ども会育成者巡回講座をはじめ、子ども会活動の指導、ジュニアリーダーの指導・育成、さらに、学校の休日を利用して行う自然体験や社会体験の指導など、子どもたちの体験活動にも積極的に取り組んでいる。なお、平成二十四年

(二〇二二) 四月現在で一〇人が委嘱されている。

第三節 社会教育と関係施設

一 カルチャープラザのべおか

「カルチャープラザのべおか」は、平成九年（一九九七）に、市民の生涯学習や文化活動などの拠点として建設された。この施設は図書館を核として、多目的ホール・ハーモニーホール・アートギャラリーなどのカルチャー施設と、既設の社会教育センターとを有機的に機能させたものである。

図書館は、これまで資料の充実および貸出等を行うとともに、移動図書館車を巡回させるなど、図書館サービスの提供に努めるとともに、講演会活動や読み聞かせ・おはなし会・読書会などの読書活動等を通して、広く市民への図書館利用の促進を図ってきたところである。

なお、地域の図書館サービスの拠点施設としては、他に北方分館・北浦分館・北川分館（二十五年度開館予定）がある。

1 所在地 本小路三九番地一

2 施設

区 分	図書館・カルチャー施設	社会教育センター
開 館 日	平成九年二月二十一日	昭和五十二年十月十五日
建 築 面 積	三七七七㎡	一〇四四㎡
延 床 面 積	七九五二㎡	二七二七㎡
構 造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(地下一階地上三階建)	鉄筋コンクリート造三階建
事 業 費	二八億二〇〇万円(用地費除く)	三億六〇〇万円

3 駐車場 一三七七台

4 主要施設

《カルチャー施設》 多目的ホール、アートギャラリー、フリースペース、ハーモニーホール、音楽スタジオ
 《図書館》 一階開架コーナー、団体・移動図書館室、閉架書庫、ミーティング室、セミナー室
 《社会教育センター》 研修室、会議室、和室、調理室、自然学習館(休館中)

二 社会教育施設

1 社会教育センター

社会教育センターは、延岡市の中央公民館として各種の講座をはじめ、市民に対し学習会や研修会、講演会等を実施するなど、各種機関や団体との連携を図りながら、市民の学習・研修・会議の場として施設の提供を行ってきた。なお、事業実施状況・団体等の利用状況は、次の表1・表2のとおりである。

第3章 社会教育

表1 事業実施状況

区 分	講 座 名	回数(回)	開設期間	受講者数(人)
家庭 教育	いきいき子育て講座Ⅰ期	5	6月～7月	25
同	いきいき子育て講座Ⅱ期	5	11月～12月	25
成 人 教 育	市民大学講座	15	9月～12月	88
同	英会話入門講座Ⅰ期	5	7月～8月	27
同	英会話入門講座Ⅱ期	6	2月～3月	28
同	韓国語初級入門講座・昼間の部	8	7月～8月	14
同	韓国語初級入門講座・夜間の部	8	7月～8月	14
同	のべおか郷土塾	4	10月	25
高齢者教育	さわやかカレッジ	18	6月～11月	128

平成23年度現在

(資料：延岡市教育委員会社会教育課)

表2 団体等の利用状況

(単位：件・人)

団体名	平成20		21		22		23	
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
市 教 委 関 係	131	3,569	108	3,326	158	4,155	153	3,562
学 級 講 座	46	2,501	51	1,994	66	1,973	45	1,623
文 化 団 体	455	7,749	509	7,273	476	6,991	436	6,727
子 ど も 会	33	754	88	2,122	47	1,364	49	933
ボーイスカウト ガールスカウト	116	1,295	118	1,231	141	1,350	133	1,173
P T A	156	1,584	150	1,228	149	1,214	155	1,171
住みよい町づくり	10	140	22	326	4	58	0	0
婦 人 団 体	62	1,027	73	887	56	752	47	524
青 年 団 体	21	189	21	148	18	213	15	187
公 民 館	158	1,031	140	915	137	676	120	803
公 共 団 体	368	14,021	485	19,315	416	16,300	391	14,702
学 校 関 係	180	3,761	124	3,440	159	5,060	157	5,222
ス ポ ー ツ 団 体	242	6,470	239	6,124	214	5,593	213	5,617
自主学习グループ	183	2,481	180	2,204	244	2,995	291	3,238
そ の 他	410	12,121	340	9,425	373	10,176	414	9,833
合 計	2,571	58,693	2,648	59,958	2,658	58,870	2,619	55,315

(資料：延岡市教育委員会社会教育課)

2 北方ふれあい交流センター

(1) 所在地 北方町川水流卯六八二番地

(2) 施設

開館	昭和五十二年七月	構造	鉄筋コンクリート造二階建
延床面積	七五二・三㎡	事業費	八〇〇〇万円

3 北浦公民館

(1) 所在地 北浦町古江一九四七番地一

(2) 施設

開館	昭和四十九年五月	構造	鉄筋コンクリート造二階建
延床面積	五七六・八㎡	事業費	三八〇〇万円

4 北川公民館 (平成二十五年度以降閉館予定)

(1) 所在地 北川町川内名七一五〇番地

(2) 施設

開館	昭和三十七年十月二十九日	構造	鉄筋コンクリート造二階建
延床面積	一三八〇㎡	事業費	三八六一万九〇〇〇円

なお、北方ふれあい交流センター・北浦公民館・北川公民館の利用状況は、次の表のとおりである。

第3章 社会教育

表 北方ふれあい交流センター・北浦公民館・北川公民館の利用状況

区 分	北方ふれあい交流センター		北 浦 公 民 館		北 川 公 民 館	
	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)	件数(件)	人員(人)
市 教 委 関 係	7	161	5	179	30	570
学 級 講 座	86	896	22	582	109	1,087
文 化 団 体	-	-	8	158	5	188
子 ど も 会	-	-	5	113	4	41
P T A	-	-	2	50	2	120
新 生 活 運 動	-	-	0	0	13	317
女 性 団 体	2	15	13	348	9	123
公 民 館	-	-	0	0	1	10
公 共 団 体	95	1,127	32	2,508	37	509
学 校 関 係	-	-	0	0	7	875
ス ポ ー ツ 団 体	-	-	1	15	22	202
自主学習グループ	19	267	0	0	0	0
青 年 団 体	-	-	1	30	0	0
そ の 他	9	111	7	385	13	739
合 計	218	2,577	96	4,368	252	4,781

平成23年度現在

(資料：延岡市教育委員会社会教育課)

三 市立図書館

延岡市立図書館は、大正七年（一九一八）七月十二日に宮崎県立延岡図書館（初代館長阿蘇谷彦一）として開館した。昭和十二年（一九三七）には、延岡市役所の火災により類焼したが、十四年（一九三九）に新築、二十二年（一九四七）に県から市に移管され、二十八年（一九五三）「延岡市立図書館」と改称された。三十九年（一九六四）十二月、旭化成工業(株)から新築の図書館の寄贈を受け、翌年一月、市役所西側に旧図書館が開館した。

その後、平成九年（一九九七）に、旧延岡小学校跡地に、複合施設「カルチャープラザのべおか」が完成し、現在の図書館が開館した。

市民の生涯学習や余暇活動への欲求が高まる中、多様化・高度化する学習ニーズに対応するため、様々な資料や情報及び学習の場を提供するという地域の情報拠点としての図書館の役割は、今日ますます重要になってきている。

また、移動図書館車の運行を開始するなど図書館サービスを充実させるとともに、幅広い読書普及活動を行い、入館者は年間約四〇万人、資料の貸出数も年間約三〇万点を超えるなど、広く市民に利用される施設として定着してきた。

近年、テレビやビデオ、DVD、インターネットなどの様々な情報メディアや情報媒体の発達・普及により、子どもの「読書離れ」が懸念されているところである。このため、本市としては、十九年（二〇〇七）三月に、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、生涯にわたって読書活動を継続することで、より豊かな生き方ができ

るように「延岡市子ども読書活動推進計画」を策定した。これに伴い、保育所・幼稚園・児童館・読み聞かせボランティアなどの代表者や関係機関による「延岡市子ども読書活動推進会議」を設置し、読書活動を推進してきた。さらに、二十三年（二〇一一）度からは各小中学校に「子ども読書活動推進会議」を設置し、年間を通して計画的に読書活動を推進することとなり、図書館としては、従来の学校支援に加えて、さらに各小中学校の読書活動を支援して行くこととなった。

また、特筆すべきものとして、二十年（二〇〇八）には、延岡の図書館創立九十周年・新館開館十周年を記念してエキシビジョン「ラタトスキュー」を開催した。館内に巨大大樹や大型スクリーンを設置し、人類と書物の歴史や図書館の歩みを映像と音楽で描き出すもので、延べ約一〇〇人のボランティアスタッフが参加し、二日間にわたり八回の公演を行い、小中学生を含め、約一三〇〇人が鑑賞した。

二十二年（二〇一〇）度には、職員体制の見直し等を行い、市民からのニーズが高かった祝日開館を開始した。また一方では、新しい時代に対応した図書館づくりをめざし、図書、記録、その他地域資料などの収集・整理・保存を行うとともに、本館と北方分館・北浦分館・北川分室との連携を密にし、市民のニーズに応じたきこまやかなサービスの提供を行ってきた。

1 開館時間

平日は、午前九時から午後七時、土・日曜日・祝日は午前九時から午後五時までとなっている。

2 建設の経過の概要

市立図書館は、平成五年（一九九三）七月に文化ゾーン建設基本構想を策定。七年（一九九五）三月建設工事が着手。八年（一九九六）十月工事を完了。九年（一九九七）二月二十一日に開館した。

3 市立図書館の沿革

平成 十六年 三月 市立図書館ホームページ開設

二十年 二月 延岡の図書館創立九十周年事業「ラタトスキュー」を実施

二十二年 四月 祝日開館を実施

4 北方分館の沿革

平成 十八年 二月 合併後、北方町立図書館が延岡市立図書館北方分館となる。

六月 北方地区に、移動図書館車「ふくろう号」による巡回サービスを開始する。

二十三年 五月 開館十周年事業として、写真展「北方分館十周年の歩み」、多読者表彰等を実施

5 北浦分館の沿革

平成 十八年 二月 合併後、北浦町中央公民館図書室が延岡市立図書館北浦分室となる。

六月 北浦地区に、移動図書館車「ふくろう号」による巡回サービスを開始する。

二十四年 二月 市立図書館北浦分館完成

四月 市立図書館北浦分館開館

六月 北浦地区に、移動図書館車「ふくろう号」にかわり、「せせらぎ号」による巡回サービスを開始する。

6 北川分室の沿革 (二十五年度から分館の予定)

平成 十九年 三月 合併後、北川公民館図書室が延岡市立図書館北川分室となる。

二十五年 四月 市立図書館北川分館開館(予定)

7 移動図書館車（ふくろう号）

移動図書館車ふくろう号は、平成九年（一九九七）六月から巡回サービスを開始した。移動図書館の機動力を活かし、遠隔地の市民や学校への貸出等を実施している。二十四年（二〇二二）八月現在、市内三カ所のステーションを二週間の周期で巡回している。

(1) 業務内容等

毎週火曜日から金曜日まで定期巡回（熊野江・浦城地区は月一回、島浦・北方地区は、年六回の巡回）。貸出、返却、利用者カード申込、リクエストの受付、レファレンス（調べもの相談業務）など。一人あたりの本の貸出冊数五冊、返却期限は、次回の巡回日までとなっている。

8 移動図書館車（せせらぎ号）

移動図書館車せせらぎ号は、昭和五十五年（一九八〇）八月から巡回サービスを開始。移動図書館の機動力を活かし、北川地区の遠隔地の住民や学校へ図書の出借等を実施してきた。さらに、平成二十四年（二〇二二）六月から、北浦地区への巡回も開始した。同年八月現在三八カ所のステーションを巡回している。

(1) 業務内容等

毎週火曜日から金曜日まで定期巡回。貸出、返却、利用者カード申込、リクエストの受付、レファレンス（調べもの相談業務）など。一人あたりの本の貸出冊数五冊、返却期限は、次回の巡回日までとなっている。

9 学校図書館支援業務

延岡市では、学校図書館の充実を図るため、平成九年（一九九七）度より市立図書館の司書が市内の小・中学校四八校（分校を含む。二十四年八月現在）を必要に応じて訪問し、学校図書館の運営を支援している。

業務の内容は、それぞれの学校図書館の実情に応じ、図書主任と司書が連携を図りながら、選書、教職員の教材研究、児童生徒の調べ学習、図書館整備、読書啓発活動、児童生徒の図書委員会活動、PTA活動やボランティア活動などへの支援を行っている。

10 その他の図書館活動

平成十二年（二〇〇〇）度からは、(財)あさひ・ひむか文化財団や(株)夕刊デイリー新聞社と連携して「21世紀をひらく」歴史と文化の再発見」というテーマで、著名な講師等を招いて、市民の生涯学習に役立つ講演会を毎年行ってきた。

また、十六年（二〇〇四）度からは、夕刊デイリー新聞社等と共催して、六月二十九日の延岡大空襲をはさむ前後約三週間の期間に、市民に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるための「平和祈念資料展」を毎年行ってきた。さらに、同年度から読書会「牧水を旅する」を始め、以後「平家物語を読む」や「短歌入門講座」などの読書会や講座を行ってきた。

その他、市民ボランティアを活用し、毎年夏休みを利用しての「夏休み親子セミナー布絵本講座」や毎月「牧水歌がるたのじかん」、「民話のじかん」、連続まちづくり講演会「延岡の先賢とまちづくり」（二十一年度から二十三年度まで実施）などを行ってきた。

11 視聴覚ライブラリー

- (1) 場所 延岡市立図書館内
- (2) 目的 ビデオテープやDVDなど視聴覚教材・機材を備え、広く市民に提供することにより、視聴覚教育の充実・振興を図ることを目的に設置しているものである。

(3) 視聴覚教材・機材保有状況（平成二十四年八月十五日現在）は、次のとおりである。

視聴覚教材	十六ミリフィルム 六〇九本 ・ビデオテープ 六七三本 ・DVD 八二枚
視聴覚機材	OHP 二台 ・スライド映写機 一台 ・ビデオセット 一台 ・十六ミリ映写機 四台 プロジェクト 四台 ・スクリーン 一台

なお、図書館の蔵書数および利用状況は、次の表のとおりである。

表 図書館の蔵書数および利用状況
(単位：冊)

本館	蔵書数	320,146
	貸出数	349,213
北方分館	蔵書数	46,829
	貸出数	14,443
北浦分室	蔵書数	11,878
	貸出数	3,099
北川分室	蔵書数	39,698
	貸出数	7,298
計	蔵書数	418,551
	貸出数	374,053

(資料：延岡市立図書館)
(注1) 蔵書数は平成23年度末現在
(注2) 貸出冊数は平成23年度実績

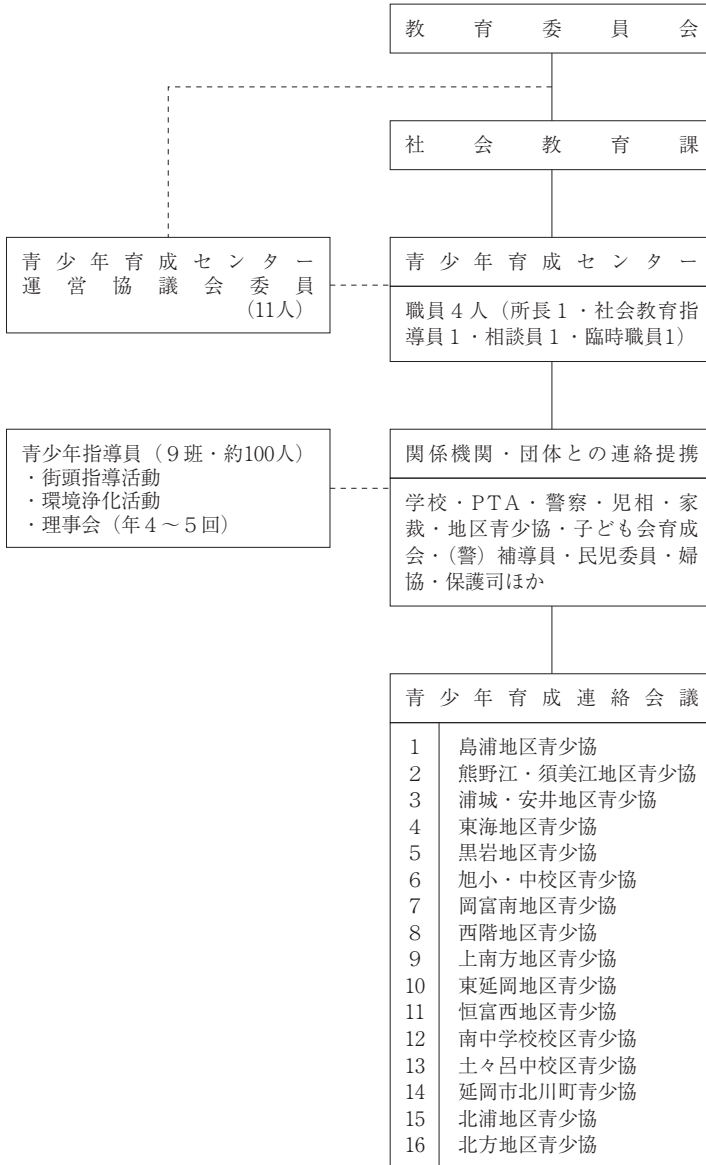
四 青少年育成センター

青少年育成センターは、健全な社会環境づくりと、関係機関・団体・地域社会との連携強化により問題行動を未然に防止し、青少年の健全育成を推進することを目的に昭和三十九年（一九六四）四月に設置された。

1 施設の概要

・所在地（東本小路六番地一）
・敷地面積 三三八・八三平方メートル

表 青少年育成センター組織機構図



五 教育集会所

教育集会所は、同和地区およびその近隣住民の教育の充実や生活の改善・向上を図る目的で、塩浜教育集会所、高千穂通教育集会所、ささめ教育集会所の三カ所設置している。特に、塩浜教育集会所は、解放子ども会学習会（わかかさ学級）や成人教室を実施するほか、地域の伝統行事「いのご祭り」を平成十二年（二〇〇〇）から継続して開催するなど、地域住民の学習と交流の場となっている。また、二十三年（二〇一一）度から、塩浜教育集会所とささめ教育集会所は、公民館寺子屋事業の活動拠点としても活用されている。

1 教育集会所

- (1) 塩浜教育集会所（塩浜町二丁目一八五五番地三）
建設事業等
 - ・ 改 装 平成八年（一九九六）十二月
 - ・ 改装事業費 六三八一万五〇〇〇円
 - ・ 建物面積 三〇八・四〇平方メートル
- (2) 高千穂通教育集会所（高千穂通三八五五番地七）
建設事業等
 - ・ 建 設 昭和五十六年（一九八一）三月
 - ・ 建設事業費 四一四二万円

・建設面積 一五二・五二平方メートル
(3) ささめ教育集会所(塩浜町四丁目一七二五番地一七)

建設事業等

- ・建設事業費 二〇五九万八〇〇〇円
- ・建物面積 一五一・〇八八平方メートル

六 一ヶ岡コミュニティセンター

一ヶ岡コミュニティセンターは、平成七年(一九九五)に一ヶ岡小学校の余裕教室を社会教育活動や地域のコミュニティ活動に利用できるよう延岡市において最も早く整備されたコミュニティセンターである。地域の生涯学習の拠点施設として地域のサークルや趣味の会等が数多く利用しており、年間約一万人の利用がある。

十八年(二〇〇六)度からは、地区の代表者や学識経験者で構成された延岡市一ヶ岡コミュニティセンター管理運営委員会を指定管理者に指定したことで、地域に根ざした施設としての機能が一層果たせるようになった。

1 所在地 南一ヶ岡二丁目一七番一号

2 建設事業等

建設工事	一期	平成六年九月～十月	施設概要
	二期	平成七年二月～三月	
工事費	三三二六万一〇〇〇円		集会室
建物面積	四八五・二五㎡		集会室
利用時間	午前十時～午後十時		研修室
休館日	月曜日・祝日・年末年始		調理室
	指定管理者		延岡市一ヶ岡コミュニティセンター管理運営委員会
			和室一
			和室二
			三二㎡
			一七二㎡
			和室一
			三二㎡

3 利用状況

年度	室名		集	会	室	研	修	室	調	理	室	和	室	一	和	室	二	計
	件数	人員																
二十三	二九七	七、一二二	一、六三二	三九〇	六五二	三八六	一〇、一八一	六四四										

七 リバーパル五ヶ瀬川（河川資料館）

リバーパル五ヶ瀬川は、国土交通省が、平成十四年（二〇〇二）三月に、適切な水門管理や河川に関する学習、啓発などを行うために、整備したものであり、延岡市が同省から委託を受け、管理運営している。資料館として

の活用や施設管理等の業務を、五ヶ瀬川流域の自然環境を熟知し、地域に根差した活動を行っているNPO法人「五ヶ瀬川流域ネットワーク」に委託することにより、河川や自然環境の学習・啓発、住民の交流活動の促進を図っている。

- 1 所在地 牧町
- 2 設備 エントランスホール・環境学習室・多目的スペース・洪水学習室・情報室・観察室・その他
- 3 建物面積 六〇〇平方メートル

第四節 社会教育と社会教育関係団体

一 生涯学習の推進

近年、情報化や国際化、価値観の多様化の中で、市民自らが知識や技術の習得および心の豊かさや生きがいを求めるようになるなど、市民の生涯学習に対するニーズが高度化・多様化するに伴い、その機会や場を提供することがますます重要なものとなっている。

このような状況を背景にして、平成元年（一九八九）五月、延岡市生涯学習推進会議が発足し、生涯学習の推進や啓発などを行う体制が整い、生涯学習フェスティバル（元年度から十年度まで実施）等の開催を中心に、様々な事業を展開してきた。しかしながら、市民の意識は、さらに主体的実践的なものへと移行したため、啓発的活動が主であった同推進会議は、十年（一九九八）度に、その幕を閉じた。

なお、市民の生涯学習のニーズに対応できる環境づくりについては、生涯学習推進大会の開催を始め、生涯学習人材バンク事業、出前講座事業の充実を図るなど引き続き取り組んでいる。

1 生涯学習推進事業の概要

(1) 生涯学習推進大会

この大会は、市民の学習意欲を喚起し、文化の向上や生涯学習の推進を図るために、平成元年（一九八九）から、市・教育委員会および社会教育関係団体が主催しているもので、意見発表・講演・社会教育関係表彰等を行っている。なお、毎年二月に開催していたが、二十二年（二〇一〇）度からは、十一月三日（文化の日）に、カルチャーゾーン・フェスタと同日開催しており、二十四年（二〇一二）度で、二四回実施している。

(2) カルチャーゾーン・フェスタ

十六年（二〇〇四）の社会教育課と社会教育センターの統合に伴い、カルチャーゾーンを形成する社会教育課・文化課・図書館の三課が合同で、十一月三日（文化の日）に開催しているもので、各種発表会・展示・遊び・体験活動を実施することにより、広く市民の文化・生涯学習の向上に資している。なお、二十四年度で、九回実施している。

(3) 学習情報提供事業

市民が、生涯をとおして、いつでも、どこでも学習の機会が得られるように、市や企業・団体などが実施する講座や教室などの情報を集約した「延岡市生涯学習オールガイド」を、九年（一九九七）度から毎年発行し、情報の提供を行っている。

(4) 出前講座

表1 市役所出前講座実施状況 (単位：回・人)

順位	講座名	課所室名	実施回数	参加人数
1	健康講話	健康増進課	337	10,050
2	自主防災組織の育成と拡大について	消防本部警防課	210	17,552
3	調理実習	健康増進課	182	3,359
4	あなたにもできる応急手当	消防本部警防課	155	5,605
5	内藤記念館ガイド	文化課	106	4,002
6	身近な防災対策	危機管理室	58	2,925
7	消防本部・署見学	消防本部警防課・消防署消防課	51	1,749
8	国際交流員の出前講座	総務課(国際交流推進室)	34	1,454
9	延岡の歴史と文化財	文化課	33	2,209
10	おはなし会	図書館	24	764

平成23年度現在 (資料：延岡市教育委員会社会教育課)
 (注) 全40課所室70メニューのうち、実施回数の上位10位

表2 企業・団体出前講座実施状況 (単位：回・人)

順位	講座名	団体名	実施回数	参加人数
1	旭化成延岡展示センター見学	旭化成(株)延岡支社	385	3,894
2	バンベルグ工場見学	旭化成(株)延岡支社	140	1,748
3	一日消費者スクール	宮崎県延岡地方消費生活センター	88	1,806
4	最新ガス機器の体感	宮崎ガス(株)延岡支店	77	923
5	旭化成エヌエスエネルギー延岡発電所見学	旭化成(株)延岡支社	46	580
6	若年者啓発推進事業	宮崎県延岡地方消費生活センター	42	2,577
7	延岡の語り部	延岡の語り部・萌ぎの会	36	1,100
8	だれにでもできる救急法	宮崎県救急安全赤十字奉仕団延岡地区	34	1,075
9	河川資料館リバーバル五ヶ瀬川見学	河川資料館リバーバル五ヶ瀬川	24	1,135
10	ハンディキャップ体験学習	NPO法人延岡市ボランティア協会	24	1,575

平成23年度現在 (資料：延岡市教育委員会社会教育課)
 (注) 全24団体33メニューのうち、実施回数の上位10位

市民の学習機会の拡充と、開かれた市政を目的に市民の生涯学習を支援するために実施している。十年(一九九八)度から市の行う各事業を講座としてメニュー化し、市民の求めに応じて職員が地域に向いて行うもので、十五年(二〇〇三)度からは、企業・団体も加わるなど、本講座の充実がさらに図られ、市民の生涯をとおした学習を支援している。二十三年(二〇一一)度の主な出前講座の実施状況等は、次の表1・表2のとおりである。

(5) 生涯学習人材バンク事業

さまざまな分野において優れた技能を有し、指導できる人を「人材バンク」へ登録し、多岐にわたる市民の学習要望に対応している。この情報は、冊子「延岡市生涯学習人材バンク」にまとめ、市のホームページに掲載するほか、県生涯学習情報提供システム「みやざき学び応援ネット」にも掲載し、人材の活用に努めている。なお、二十三年度は、一〇九人が登録している。

(6) 生涯学習モデル地域事業

地域における生涯学習の振興を図るため、市内の一定地域を生涯学習モデル地域として指定するものである。九年度から十八年（二〇〇六）度までの一〇年間に、伊形地区と東海地区が指定され、生涯学習をおしたまちづくりについて、研究・実践を行った。

(7) きたかた学園（北方教育課）

「住みよい地域づくり」を目指し、地域の活性化を図るとともに、地域づくりに対する自覚と責任の高揚を基本とし、そのための人づくりを推進することを目的として十八年度に開設され、年八回実施している。

(8) せせらぎ塾（北川教育課）

高度情報化、国際化、少子高齢化等めまぐるしい社会変化に対応できる力を培い、ひいては地域社会に貢献できるリーダーを育成することを目的として開設され、昭和六十年（一九八五）度より年八回実施している。

(9) 公民館講座（北方ふれあい交流センター）

平成六年（一九九四）度より北方町民の学習機会を拡充し、まちづくりの振興を図っている。現在は、一〇講座、約一六〇人の受講生が各分野で生涯学習をおしたまちづくりについて、研究・実践を行っている。

(10) 公民館講座（北浦公民館）

地域の生涯学習の拠点である北浦公民館において、アレンジフラワー講座、絵手紙教室などの各種教室を開催している。

(11) 公民館講座（北川公民館）

昭和五十年（一九七五）度より北川町民の学習機会の拡充のため、専科教室として講座を開催し、まちづくりの振興を図っている。現在は、七講座、年間延べ九〇〇人近い市民が各分野で受講している。

二 青少年教育

1 子ども会育成者巡回講座

子ども会の育成者を中心とし、保護者や地域の人々を対象に子ども会の運営方法やあり方を学ぶとともに、日頃の情報交換を行うことを目的に、地域ごとに巡回して講座を実施している。

平成二十三年（二〇一一）度は、一二回実施し、一四七人の参加者があった。

2 子どもセンター事業

平成十一年（一九九九）度から十三年（二〇〇一）度までの三年間、学校五日制に対応するために、文部科学省の委嘱事業として、子どもが参加できる活動等を紹介する情報誌の発行や相談業務等を行う「子どもセンター事業」を実施したことが始まりである。

十四年（二〇〇二）度からは、地元の大学（十七年度までは、聖心ウルスラ学園短期大学、十八年度からは、

九州保健福祉大学」と連携し、子育て支援の充実を主眼に地域教育力の向上を目指して、大学の人材や施設を活用し、様々な親子体験活動や子育て講話、子どものための情報誌の発行(年3回)などに取り組んでいる。

「のべおか子どもセンター運営委員会」が、実施部隊として企画運営を行っており、大学教員の他に地域の様々な体験活動団体の代表や子育て経験者、教育経験者が加わって層を厚くしている。

3 ジュニアリーダー育成事業

大人と子どもの架け橋となる中学・高校生のジュニアリーダー育成を目的にジュニアリーダークラブ研修会を、昭和五十五年(一九八〇)度から開催している。ジュニアリーダーは、社会教育センター等で自主研修を行うとともに子ども会の要請に応じて行事に参加し、子ども会活動を支援している。

また、北浦町では、地域リーダーの担い手として独自のジュニアリーダーの育成を図っている。

4 はらはらわくわく体験隊

農林水産業の体験活動、キャンプの野外体験活動等とおして、子どもたちの自主性・協調性・創造性を育むとともに、郷土に対する親しみを持ち、たくましく生きる力を育成することを目的として、平成十三年(二〇〇一)から開催している。

二十三年(二〇一一)度は市内の小学一年生から六年生までの六〇人が参加し、六月から一月の第三土曜日に田植え、山の仕事体験、水産加工場見学、稲刈り、もちつき、むかばき青少年自然の家宿泊体験等を行った。また、北方町、北浦町、北川町においては、夏休みに宿泊野外体験活動を行っている。

5 地域づくりサークル「わかあゆ」

青年リーダーの育成および青年活動の活性化を図ることを目的として、平成十三年(二〇〇一)度から実施さ

れていた県の補助事業「若人ひむか活性化塾」は、十八年（二〇〇六）度をもって県の事業が終了した。そこで十九年（二〇〇七）度からは地域づくりサークル「わかあゆ」として再出発し、年間通して八回程度、クリーン作戦や国際交流事業「すみえ世界村」のサポート活動を行っている。

6 国際交流事業「すみえ世界村」

国際感覚を培いながら国際的視野を広げ、国際理解を深めることを目的に、平成五年（一九九三）度から毎年開催している。十一月に須美江家族旅行村において、小学校四年生から中学校三年生までの児童生徒を対象に、国際交流員等の外国人青年との一泊二日のキャンプを行うことで、交流・親睦を深めている。

7 延岡市青年祭

青年男女の活動を広く市民にアピールをする目的で、昭和六十年（一九八五）度から開催している。現在は青年団体協議会を中心に婚活イベント「のべおか冬恋物語」などを行っている。

8 全国・県青年大会

宮崎県青年大会は、各地域の青年団との交流を深めて、連携を強めることや地域に伝わる伝統文化・芸能の掘り起しを目的として、昭和二十七年（一九五二）度に発足した。スポーツ・文化・芸能の各部門において競技や発表が行われる。年々参加者が減少しているが、本市からは毎年、野球や女子バレーボールに参加している。特に、女子バレーボールはたびたび県大会で優勝をおさめ、全国大会に出場しており、全国の青年団との交流を深めている。

9 成人式

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことを目的に、昭和二十三年（一九四八）

「成人の日」が国民の祝日として制定された。本市では、翌二十四年（一九四九）から毎年、成人式を開催している。最初は、岡富小学校講堂が会場であったが、その後、野口記念館、市民体育館等を経て、六十一年（一九八六）からは延岡総合文化センターを会場としている。平成十九年（二〇〇七）度からは新成人による実行委員会が設けられ、新成人自らが式典の司会進行を行い、各高校の恩師による祝福メッセージ・ビデオを上映するなど、魅力のある式典となるよう努めている。二十四年（二〇一二）は、一二四人（住民基本台帳）の新成人が誕生した。

10 青年大学講座（平成十九年度終了）

青年の生き方や社会人としての心構えなどを学習するとともに、自己の向上を図ることを目的に、社会教育センターの事業として昭和五十六年（一九八一）度から開催していたが、平成十九年（二〇〇七）度をもって終了した。

11 五ヶ瀬川イカダ下り大会

参加者相互の交流を図るとともに、河川愛護意識を高める目的で、昭和五十年（一九七五）度に県内ではじめて実施された。青年有志による実行委員会が企画・運営を行い、毎年七月中旬に実施している。職場・団体・グループ等のチームによる手づくりの「イカダ」で、五ヶ瀬川を下るもので、今や延岡の夏の風物詩となっている。参加者は約四〇〇人である。

なお、平成二十二年（二〇一〇）は、口蹄疫の被害拡大を防ぐため、また二十四年（二〇一二）は、度重なる豪雨のため中止となった。

12 放課後子ども教室

子どもたちが地域社会において、心豊かで健やかに育まれることを目的に、学校の余裕教室や体育館を利

用して実施している。放課後に子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域住民の協力を得ながら、学習活動や各種体験活動を行っている。

平成十六年（二〇〇四）度から十八年（二〇〇六）度まで、国の委託事業として、恒富小において子ども教室を実施した。二十年（二〇〇八）からは国の補助事業として、名水小・北方小・北川小で開始し、さらに二十二年（二〇一〇）度からは黒岩小が、二十三年（二〇一一）度からは港小が開始した。二十四年（二〇一二）度は名水小・北方小・黒岩小・港小で実施している。

13 学校支援地域本部事業

本事業は、地域の人材や資源を学校支援ボランティアとして活用し、学校教育を支援する目的で、平成二十年（二〇〇八）度から実施している。現在、北方中学校区（一中学校・四小学校）で学校の環境整備や授業支援を、岡富中・延岡中・恒富中・東海中では、理科・数学等の授業支援を行っている。

14 公民館寺子屋事業

本事業は、地域の教育力の向上と子どもの健全育成を図るため、地域の関係者が、夏休みなどの長期休業期間中に自治公民館などで、子どもたちに勉強会や異年齢の交流の場を提供するもので、平成二十三年（二〇一一）度から取り組んでいる。同年度は、六団体が事業を実施し、九八七人の参加があった。二十四年（二〇一二）度には、一二団体が事業を実施している。

三 家庭教育

1 家庭教育学級

子どもを持つ親、及びそれに関わる保護者のグループを対象にして、家庭のあり方・子どものしつけ等の共通する課題を学習することを目的に、昭和四十一年（一九六六）度に発足した。幼稚園・保育園（所）・児童館・小学校・中学校および支援学校等を会場に、年間一〇回程度開催している。平成二十三年（二〇一一）度は、六三学級、二五五〇人が参加し、それぞれ活動している。

2 家庭教育フォーラム（平成二十二年度終了）

平成十一年（一九九九）度から家庭教育学級生・PTA会員等を対象に、家庭教育の望ましいあり方などについて研究協議を毎年行っていたが、二十二年（二〇一〇）度をもって終了した。

3 いきいき子育て講座

平成十三年（二〇〇一）度から十八年（二〇〇六）度まで、小学校入学前の子どもを持つ親を対象に就学時健診を活用し、小学校や保育所等において「子育て講座」を実施した。

十九年（二〇〇七）度からは、幼児期の子どもを持つ親を対象に、子育てに役立つ知識を身につけ、子育ての悩みや問題点をお互いに出し合う場を提供することを目的に「いきいき子育て講座」を開講し、Ⅰ期五講座、Ⅱ期五講座を社会教育センターで実施している。

4 「家庭の口」の啓発

宮崎県では、青少年の健全育成に最も重要な役割を果たす家庭の機能を回復・促進するため、昭和四十一年（一九六六）に毎月第三日曜日を「家庭の日」と定め、五十二年（一九七七）には県の条例として制定した。

しかし、近年、これが形骸化しつつあるため、本市では、平成二十年（二〇〇八）から「共遊」「共食」「共話」「共汗」「共働」の「五つの共感活動」を推進し、「家庭の日」の啓発活動を実施している。

5 訪問型家庭教育支援

平成十八年（二〇〇六）度から二十一年（二〇〇九）度にかけて、国・県の委託を受け、モデル地域において、孤独な子育てに陥りがちな親等を対象に、家庭教育支援者が、地域における身近な相談相手として、個別訪問によるきめ細かな支援を行った。なお、二十年（二〇〇八）度は、子育て・親育ち講座を実施した。

四 成人教育

1 女性学級

女性に関する問題や社会の変化に対応する学習、地域づくり、仲間づくり、及び女性の地位向上を目指して、自治公民館等を会場に、昭和三十一年（一九五六）に学級を開設したのが始まりである。高齢化・国際化・情報化等が進展する変化の激しい今日において、地域社会や家庭での女性の果たす役割は、ますます重要になっている。地域のグループが公民館等を活用し、生活上の課題等を学習していくことで、資質や能力の向上、豊かな人間性の養育、地域づくり、仲間づくりを図っている。

なお、平成二十四年（二〇一二）度は、約三五〇人が参加し、現在一四学級が活動している。

2 レディーススカレッジ講座（平成十七年度終了）

前身は、時代に即した女性の向上を目指す女性教養講座で、中央女性学級を経て、平成二年（一九九〇）度から本講座の名称となった。社会の変化に対応できる知識を身につけ、地域づくり、仲間づくりをめざし実施していたが、十七年（二〇〇五）度に終了した。

3 市民大学講座

延岡市における講座の中では最も歴史があり、学習によるよりよい人生の創造や自己啓発を図ることを目的に、昭和三十一年（一九五六）に開講した。受講生は、平成二十三年（二〇一一）度末まで延べ六八〇〇人を数え、講座は、環境問題や延岡の歴史・文化をはじめ多岐にわたる。

また、受講生によるボランティアやまちづくり活動への参加も充実しており、生涯学習や受講生同士の交流の場であるとともに、地域社会への貢献が図られている。

4 英会話入門講座

初歩的な日常会話の習得をめざし、国際交流員等が講師となって、平成二年（一九九〇）度から始まった。

期間は、七月から八月までの六回（定員二四人）、二月から三月までの六回（定員二四人）の二講座で、社会教育センターで実施している。

5 韓国語入門講座

韓国語の初歩的な日常会話の習得を目標に、平成二十一年（二〇〇九）度から開設し、昼間の部と夜間の部に分けて行っている。なお、二十三年（二〇一一）度は、七月から八月までの八回（各定員一五人）社会教育センターで実施した。

6 パソコン講習会（平成十七年度終了）

広く市民にパソコンを使って文書の作成等を可能にするために、成人を対象（定員二〇人）として「みやざきパソコン講習会のべおか」を実施した。平成十三年（二〇〇一）五月から十一月の間、社会教育センター等一九の会場で一八一回の講習会を行い、三一五八人が受講した。これを機に、講習会の効果をさらに高めるために本講習会の修了者等を対象（定員一五人）に、社会教育センター独自の講習会を引き続き実施していたが、民間教室の普及等により、十七年（二〇〇五）度で終了した。

7 高齢者教室

高齢者の生きがいがづくりや社会参加の促進を図ることを目的に、自治公民館等を会場に、昭和四十八年（一九七三）度から実施している。なお、平成二十四年（二〇一二）度は、約四〇〇〇人が参加し、一五学級が活動した。

8 さわか力レτζジ講座

高齢者を対象に学習をとおして現代社会に対応できる新しい知識や技能を身につけるとともに、生きがいのある充実した生活を送ることを目的として、二年（一九九〇）度から実施している。なお、二十三年（二〇一一）度は、社会教育センターで六月から十一月までの間に一八回実施した。

9 シルバーアカデミー講座（平成十六年度終了）

高齢者に多様な分野の学習機会を提供し、その修了者が地域の生涯学習指導者等として活動していくなかで、高齢者の生きがいの充実を図ることを目的に設置された。三年（一九九一）度から毎年二六回の講座を社会教育センターで実施していたが、十六年（二〇〇四）度で終了した。

10 のべおか郷土塾

延岡に初めて来た人、延岡をもっと知りたい人を対象に、延岡の歴史や文化、産業、見どころ等について紹介し、充実した市民生活の手助けをするために、平成十五年（二〇〇三）度から始まった。二十三年（二〇一一）度は、十月の毎週土曜日に定員二五人で計四回実施し、市内各地を視察した。

11 高齢者大学（北川教育課）

新しい時代に対応し、いつまでも心身ともに生き生きと健康を保ち、心豊かな生活の充実向上を目指すとともに、家族および地域社会の一員として高齢者相互の交流と親睦を深めながら、生きがいや楽しみを増やし、社会活動に積極的に参加することを目的に実施している。

12 団塊世代セミナー（平成二十二年度終了）

団塊の世代における第二の人生の手助けを行うために、平成二十年（二〇〇八）度から始まった。内容がさわやかカレッジ講座等と重複するため、二十二年（二〇一〇）度に終了した。

五 人権・同和教育

延岡市の人権・同和教育は、これまで人間尊重の精神を基調として、人権・同和教育についての正しい理解と認識を深めるなかで、不合理な差別をなくす様々な取り組みを推進してきた。さらに、平成二十二年（二〇一〇）三月に策定した「延岡市人権教育・啓発推進方針」に基づき、様々な人権問題の解決と人権が尊重される社会の実現を目指して、行政・市民・事業所・関係団体がともに連携・協働し、人権・同和教育の推進に取り組んでいる。

1 学習会

市民が、人権・同和問題を正しく認識し、あらゆる差別の解消に向けた意識を高めるために、家庭教育学級・女性学級・高齢者教室等において、年一回は、人権学習を学習プログラムに取り入れるよう指導を行っている。社会教育指導員等が講師となり、視聴覚教材等を活用して、人権・同和教育の学習会を実施している。

なお、平成二十三年（二〇一一）度は、八一講座で、八一回実施した。

2 教育集会所事業

人権教育の拠点施設として、あらゆる差別の解消を目指す研修の場として広く活用されている。また子ども解放学級（わかくさ学級）や成人教室（生花）等を実施し、地区住民の教育の充実も図っている。

3 人権セミナー

市民をはじめ、行政職員、学校職員等が、人権・同和問題を正しく認識し、市民全体であらゆる差別の解消に向けた意識を高めるために、関係課と連携し、平成四年（一九九二）度から、カルチャープラザ・社会教育センター等で開催している。なお、二十三年（二〇一一）度は、四回実施した。

4 人権・同和教育教材整備事業

人権・同和教育ビデオ（DVD）の周知を図り、学校・企業・自主学級等で行う人権学習での活用促進を図っている。なお、平成二十三年（二〇一一）度は、二七本の活用があった。

5 延岡地区人権・同和教育研究大会支援事業

市民をはじめ、学校教職員・行政職員・企業・県北住民等を対象にした人権・同和教育を促進するため、延岡地区人権・同和教育研究大会の支援を行っている。なお、平成二十四年（二〇一二）度は、第三十二回大会として延岡総合文化センター等で開催された。

六 自治公民館関係

1 自治公民館長研修会

新任館長を対象に、平成七年（一九九五）度から公民館運営の基本・市の支援体制・市公民館連絡協議会事業全般・活動事例等の研修を実施している。また、全館長を対象に、自治公民館活動の拡充発展のため、生涯学習推進大会を公民館長研修会の一環として実施している。

七 社会教育団体の活動

延岡市における社会教育団体は、次の一〇団体と他の章に記載する「延岡市文化連盟」「延岡史談会」「延岡市郷土芸能保存会」の合計一三団体で、さまざまな社会教育活動に取り組んできた。しかし、「延岡ユネスコ協会」が平成十九年（二〇〇七）度から社会教育関係団体を脱退し、また「延岡市生活学校連絡協議会」も、会員の減少と同会が一つの役割を終えたとして、二十三年（二〇一一）四月で解散したため、現在の社会教育関係団体は合計一一団体となっている。なお、二十年（二〇〇八）五月に「延岡市新生活運動推進協議会」は、「延岡住みよい町づくり協議会」に名称を改め、活動を行っている。

1 延岡市子ども会育成連絡協議会

延岡市子ども会育成連絡協議会は、子ども会活動をとおり、子どもの健全育成と地域社会の発展を目指して、

昭和三十九年（一九六四）に発足した。活動としては、新春子どもたこ上げ大会、子ども会インリーダー研修会に加え、平成二十三年（二〇一一）度からは新規事業として、こどもフリーマーケットを実施している。

なお、二十三年度現在、加盟子ども会数は一七五団体で、会員数三七二二人である。

2 日本ボーイスカウト宮崎県連盟北部地区協議会

日本ボーイスカウト宮崎県連盟北部地区協議会は、青少年を取り巻く社会環境の浄化・青少年の健全育成・青少年の資質の向上を目指し、緑ヶ丘地区ボーイスカウトが指定された昭和三十四年（一九五九）四月に発足した。

野外体験活動等を行うとともに、「世界友情の日」（毎年二月）「のべおか天下」一薪能「成人式」「延岡アースデイ」等の様々な行事に対し参加協力を行っている。延岡第一団・第四団、日向第六団からなり、平成二十三年（二〇一一）度現在、隊員一七人、指導者三一人、団委員一九人である。

3 ガールスカウト延岡地区協議会

ガールスカウト延岡地区協議会は、昭和五十八年（一九八三）に結成された。団員の社会参加と、奉仕の精神および資質の向上を目指し、シンキングデー（毎年二月）や団キャンプの実施、「ふくしバザー」「成人式」「延岡アースデイ」等への参加協力を行っている。なお、構成は、平成二十三年（二〇一一）度現在、第一団、第四団からなり、隊員二三人、指導者一二人である。

4 延岡市青年団体協議会

延岡市青年団体協議会は、昭和八年（一九三三）二月に市青年団の結成にはじまり幾多の名称変更後、五十三年（一九七八）に市青年団体協議会となった。平成十八年（二〇〇六）二月の北方町・北浦町との合併、十九年（二〇〇七）三月の北川町との合併を経て、二十一年（二〇〇九）六月に各市町にあった青年団体協議会が「延

岡市青年団体協議会」に統一され、新たに延岡支部・北方支部・北浦支部・北川支部が設置された。婚活イベント「のべおか冬恋物語」(延岡市青年祭)の開催、イカダ下り大会等への協力や県・全国青年大会等に参加するなど、スポーツ、文化活動および奉仕活動とおして団体相互の交流と親睦を図っている。

なお、二十四年(二〇二二)度現在、九八人の団員が登録されている。

5 延岡市地域婦人連絡協議会

延岡市地域婦人連絡協議会は、地域婦人の連帯、婦人の教養と社会的地位を高めることを目的として、昭和二十七年(一九五二)度に発足した。市内各地の地域婦人会が加盟して、地域婦人体育まつりの開催をはじめ、交通安全母の会の活動、子育て支援事業等さまざまな活動に取り組んでいる。

北方町・北浦町・北川町との合併に伴い、平成二十一年(二〇〇九)六月に延岡・北方・北浦の地域婦人連絡協議会を統合した。特に、北川町については、これまで地域婦人連絡協議会が存在しなかったが、これを契機に発足・統合し、延岡市地域婦人連絡協議会として再編された。統合により、各旧市町の地域婦人連絡協議会は支部という位置づけになった。

6 延岡市PTA連絡協議会

延岡市PTA連絡協議会は、昭和三十八年(一九六三)四月に発足し、小中学校PTAの健全な育成発達の促進および教育の振興を図っている。平成十七年(二〇〇五)に、延岡市・北方町・北浦町・北川町のPTA連絡協議会を統合し、延岡市PTA連絡協議会となった。二十三年(二〇一一)度現在、小学校三一校(P会員五五三〇人、T会員五七六六)、中学校一七校(P会員三五二二人、T会員三七七人)で組織されている。

PTA研究大会等の研修活動を始め、PTA新聞コンクール、親善ミニバレーボール大会等に取り組んでい

る。また、「早寝、早起き、朝ごはん」や「家庭の日」を啓発推進している。その他、昭和六十三年（一九八八）十二月から姉妹都市・福井県坂井市（旧丸岡町）との児童のホームステイ交流、および平成二十二年（二〇一〇）度からの交互派遣、二十三年からの福島県いわき市とのジュニア交流隊の交互派遣など、姉妹・兄弟都市の交流にも協力している。

7 延岡市公民館連絡協議会

延岡市公民館連絡協議会は、地域住民の生活課題の解決、人間関係の改善、連帯感の強化並びに教養の向上、明るい郷土づくりを目指し、昭和三十四年（一九五九）に発足した。その後、北方町・北浦町・北川町との合併に伴い、平成十九年（二〇〇七）四月に各市町の組織が統合された。二十四年（二〇一二）四月現在、九地区二〇七の自治公民館により組織されている。また、役員研修会、ゲートボール大会、金婚者を寿ぐ会等にも取り組んでいる。

8 延岡住みよい町づくり協議会（旧延岡市新生活運動推進協議会）

延岡住みよい町づくり協議会は、昭和三十二年（一九五七）に延岡市新生活運動推進協議会として発足し、平成二十年（二〇〇八）五月に親しみやすい現在の名称に改めた。本協議会は、公民館連絡協議会・地域婦人連絡協議会・高齢者クラブ連合会・子ども会育成連絡協議会・青少年育成連絡協議会および個人会員で組織され、「ものを大切にする市民のつどい」の開催をはじめ、青少年を伸ばす運動等に取り組んでいる。

9 延岡市生活学校連絡協議会（平成二十三年四月解散）

延岡市生活学校連絡協議会は、昭和四十七年（一九七二）に結成され、住みよい地域づくりに努めてきたが、会員の減少と協議会としての役割を終えたとして、平成二十三年（二〇一一）四月で解散した。

10 延岡ユネスコ協会

延岡ユネスコ協会は、平成四年（一九九二）度に、日向延岡ユネスコ協会から独立し、国際協力を促進するため、ユネスコ活動の一環として、地域社会で活躍していたが、その活動の規模が小さくなったため、十九年（二〇〇七）度に社会教育関係団体を脱退した。

第四章 文 化

第一節 文化財

一 指定文化財

延岡市には、国指定文化財として史跡、名勝、天然記念物があり、県指定は史跡、有形・無形文化財、名勝および天然記念物、市指定では史跡、有形・無形文化財、名勝および天然記念物がある。

よび天然記念物、市指定では史跡、有形・無形文化財、名勝および天然記念物がある。

それらの指定文化財一覧は、次の表のとおりである。

表 指定文化財一覧

指定	種 別	名 称	指定年月日	所在地等
国	史 跡	南方古墳群	昭和18年9月8日	南方地区(野地、天下他)
〃	名 勝	比叡山および矢筈岳	昭和14年9月7日	北方町菅原
国特	天然記念物	カモシカ	昭和30年2月15日	指定地域無し
国	〃	高島のピロウ自生地	昭和5年2月28日	高島(北浦町宮野浦)
〃	〃	古江のキンモクセイ	昭和5年4月25日	北浦町古江
〃	〃	祝子川のモウソウキンメイ竹林	昭和45年8月11日	北川町祝子川小岩屋
県	史 跡	延岡古墳群	昭和14年1月27日	東海・岡富・恒富地区
〃	〃	南浦箱式石棺群	昭和17年6月23日	熊野江町外浜
〃	〃	北方村古墳	昭和12年7月2日	北方町曾木
〃	〃	南州翁寓居跡	昭和8年12月5日	北川町俵野
〃	有形文化財	石造六地藏鐘	昭和40年8月17日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	鍍銀蓮池文華甕	昭和40年8月17日	三福寺(北町)
〃	〃	鉄鰐口	昭和40年8月17日	行藤神社(行藤町)
〃	〃	内藤家旧蔵能狂言面	平成19年3月22日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	檜垣桐書草蒔絵面箱	平成19年3月22日	〃
〃	〃	僧胤康閑係資料	平成16年3月29日	慈眼禅寺(北方町曾木)
〃	無形民俗文化財	「伊形花笠踊り」 伊形花笠踊り保存会	平成20年3月31日	伊形町5517番地
〃	名 勝	那智の滝	昭和12年7月2日	川島町字崩ヶ内
〃	〃	行藤山	昭和32年12月15日	行藤町字山口(国有林)
〃	天然記念物	アカウミガメ及びその産卵地	平成8年3月25日	長浜町～緑ヶ丘の海岸(一部)
市	史 跡	小峰窯跡	昭和53年3月14日	小峰町内山
〃	〃	沖田貝塚	昭和53年3月14日	小野町横谷
〃	〃	延岡城跡	平成10年3月30日	東本小路157番地外
〃	〃	佐伯次郎惟治戦没地	平成元年6月16日	北浦町三川内
〃	有形文化財	積上式経筒	昭和53年3月14日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	鰐口	昭和53年3月14日	〃
〃	〃	神獣鏡	昭和53年3月14日	〃
〃	〃	梵鐘「城山の鐘」	昭和53年3月14日	〃
〃	〃	延岡城下図屏風	昭和63年10月13日	個人所蔵
〃	〃	光久寺の梵鐘	平成元年6月16日	光久寺(北浦町三川内)
〃	〃	伝内藤政長所用 紅糸絨丸具足	平成11年8月5日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	伝内藤義泰所用 紫糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤義英所用 紺糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤義孝所用 紺糸素懸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤義孝所用 紫糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤義覺所用 紅糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤政樹所用 浅葱糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤政學所用 紫糸素懸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 紺糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 萌黄糸絨五枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 浅葱糸素懸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 紺糸絨丸具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 青糸絨(松葉糸)二枚胴具足	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 紺革絨丸具足(伝太田家旧蔵)	平成11年8月5日	〃

第4章 文 化

指定	種 別	名 称	指定年月日	所在地等
市	有形文化財	伝内藤治部左衛門所用 紺糸絨二枚胴具足	平成11年8月5日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	伝内藤義英所用 タイラギ兜	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤忠興所用 鉄黒漆塗七十四間小星兜	平成11年8月5日	〃
〃	〃	伝内藤義孝所用 鉄黒漆塗六十二間筋兜	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 軍配采配蒔絵鞍・鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 諫鼓鶏蒔絵鞍・鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 木瓜紋皺革包鞍・鎧ほか馬具一式	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 真向兔紋桜花散蒔絵鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 獅子牡丹文闇漆鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 鉄線文蒔絵鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 下がり藤紋破七宝繫蒔絵鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 雲龍螺鈿鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 下がり藤紋花菱繫蒔絵鞍	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 鮫鱗文銀象嵌鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 下がり藤紋銀象嵌鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 竹虎摺文鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 矢屏風蒔絵鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 青貝散鎧	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 鉄製日輪文軍配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 黒漆塗軍配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 日月文軍配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 藤文蒔絵白采配及び下がり藤紋蒔絵采配箱	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 白采配及び桐九曜下がり藤紋蒔絵采配箱	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 朱采配及び黒漆塗采配箱	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 黒漆塗八角柄白采配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 朱采配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 銀采配及び桐九曜下がり藤紋蒔絵采配箱	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 黒漆塗八角柄銀采配	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 桐九曜下がり藤紋散蒔絵刀筒	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 唐草桐九曜下がり藤紋散蒔絵刀筒	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 藤桐九曜剣木瓜紋散蒔絵刀筒	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 桐九曜下がり藤紋散蒔絵鉄砲筒	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 唐草桐九曜下がり藤紋散蒔絵鉄砲筒	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 下がり藤紋散蒔絵空徳	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 桐下がり藤紋蒔絵空徳	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 熊毛槍鞘	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家伝来 白熊毛槍鞘	平成11年8月5日	〃
〃	〃	内藤家長・馨崇院画像	平成12年4月7日	〃
〃	〃	谷家所蔵 貨幣資料	平成11年8月5日	個人所蔵
〃	〃	谷家所蔵 能装束	平成12年4月7日	〃
〃	〃	谷家所蔵 能面	平成12年4月7日	〃
〃	〃	内藤政長画像	平成12年4月7日	内藤記念館(天神小路)
〃	〃	土持卒塔婆	平成12年4月7日	吉野町吉野 光福寺跡
〃	〃	内藤家墓碑及び供養塔	平成12年4月28日	本小路176番地外
〃	〃	常夜灯	平成15年1月10日	東海町98番12地先

第5編 教育と文化の振興

指定	種別	名 称	指定年月日	所在地等
市	有形文化財	カザレ式アンモニア合成装置	平成15年10月5日	旭町7丁目4319番地
〃	〃	伝蒲生家 鉄製背負陣太鼓	平成15年11月16日	内藤記念館（天神小路）
〃	〃	稚畑六地藏	昭和8年3月3日	北方町稚畑
〃	〃	梅木の五輪石塔群	平成3年6月1日	北浦町三川内
〃	〃	梅木の仏像	平成3年6月1日	〃
〃	〃	昌雄寺六地藏石幢	平成6年8月16日	北浦町古江
〃	〃	市尾内石塔群	平成6年8月16日	北浦町三川内
〃	〃	宮野浦八十八ヶ所	平成元年6月16日	北浦町宮野浦
〃	〃	狭野庚申塔	平成8年2月1日	北川町長井
〃	〃	松葉観音寺六地藏幢	平成8年2月1日	北川町川内名
〃	〃	岩ノ口庚申塔	平成12年12月20日	〃
〃	〃	堂ノ元五輪塔	平成12年12月20日	北川町長井
〃	〃	熊田川平庚申塔群	平成17年3月28日	川内名神社（北川町川内名）
〃	〃	夏田家文書	平成8年2月1日	北川町
〃	〃	年貢割付文書	平成8年2月1日	〃
〃	〃	野村忍介書簡	平成10年1月22日	〃
〃	〃	万歳記大学	平成10年1月22日	〃
〃	〃	西南の役陣中日記	平成11年11月1日	〃
〃	〃	長井村高拾石圖帳	平成11年11月1日	〃
〃	無形民俗文化財	「行藤白太鼓踊り」技術保持団体 行藤白太鼓踊り保存会	平成15年11月16日	行藤町874番地7
〃	〃	三川内神楽	平成10年4月16日	北浦町三川内
〃	〃	深瀬亥の子行事	平成15年2月27日	北川町川内名
〃	〃	家田の虫追い行事	平成15年2月27日	北川町長井
〃	名 勝	土々呂の観音滝	平成3年6月1日	北浦町三川内
〃	天然記念物	ヤッコソウ自生地（含む椎の木）	昭和53年3月14日	熊野江神社（熊野江町）
〃	〃	行藤のギンモクセイ	平成15年11月16日	行藤神社（行藤町）
〃	〃	市振神社のヤッコソウ	平成元年6月16日	市振神社（北浦町市振）
〃	〃	三川内神社の桜	平成8年7月19日	三川内神社（北浦町三川内）

平成24年4月1日現在

（資料：延岡市教育委員会文化課）

※難語句での読み

鍍銀…とぎん	華鬘…けまん	檜垣…ひがき	蒔絵…まきえ	緞…おどし	浅葱…あさぎ
諫鼓鶏…かんことり	木瓜…もっこう	鞍…くら	彫漆…ちようしつ	破七宝繫…やぶれしっぽうつなぎ	
象嵌…ぞうがん	采配…さいはい	空穂…うつぼ	槍鞘…やりざや	馨崇院…けいすういん	
忍介…おしすけ	圖帳…くじちよう	行藤…むかばき	螺鈿…らでん	鍍…あぶみ	



伊形花笠踊り(平成20年3月31日県指定)

約400年ほど前、7日7晩も続いた津波が、7羽の白鷺が現われ、舞ったところ引いたことに由来する。



カゼレ式アンモニア合成装置(平成15年10月5日市指定)

大正12年(1923)、わが国で初めて空気中の窒素を固定し、アンモニア製造に成功した記念すべき産業文化遺産である。

二 文化財愛護・啓発活動

延岡市民は、文化財を愛護・啓発するために、様々な活動を行っている。その主なものは、次のとおりである。

1 城山ガイド・ボランティアの会

平成七年（一九九五）に城山にある史跡・顕彰碑・やぶ椿など城山の魅力を多くの市民に知ってもらうことを目的に発足。城山をガイドする他に講演会活動や内藤家墓所の清掃活動などを行ってきた。また十二年（二〇〇〇）に、城山のポイントを紹介した「延岡の歴史」、二十四年（二〇一二）に「延岡の先賢」を刊行している。

2 延岡市野生動物研究会

平成八年（一九九六）に「アカウミガメ及びその産卵地」が県の天然記念物に指定されたのを契機に発足した。県の委託を受け、毎年、アカウミガメの上陸・産卵・孵化が行われる五月～十月に、方財・長浜・新浜海岸における調査活動を行っている。さらに、孵化する前に流木やゴミの撤去などの保護活動も行っている。

3 能面ガイドの会

平成十年（一九九八）に延岡を代表する文化財・天下第一能面等をガイドすることを目的に発足。具体的な活動としては、毎年薪能の開催時に行われる能ウィーク期間中に、内藤家旧蔵の能面展のガイドなどを行ってきた。

4 五ヶ瀬川の畳堤を守る会

平成十三年（二〇〇一）に先人の知恵の遺産である五ヶ瀬川の畳堤から「防災の心」や「郷土愛」などを学び、後世に伝えることを目的に発足。畳堤とは、高欄（橋の欄干）状の枠に畳を差し込むことで水害を防ぐ仕組みで、

他に岐阜県長良川と兵庫県揖保川の二カ所しかなく、国内で最も古い貴重な土木遺産である。活動として今までに「防災フォーラム」の開催をはじめ、豊堤紹介パンフ「謎の豊堤」や「豊堤の詩」のCDなどを発行している。

5 延岡あおぞら博物館の会

延岡市全体をあおぞら博物館ととらえ、市内に散在する歴史・文化・自然を野外の展示物と見立て、「地域の文化財は地域を守る」という文化財愛護の精神を育成することを目的に平成十九年（二〇〇七）に発足した。地域の貴重な文化財を調査研究するとともに一般市民を対象に毎年二回ほど地域探訪のウォークラリーを行ってきた。

6 延岡市北川町温故知新の会

地域に残る歴史・文化を保存・伝承することを目的に、平成二十年（二〇〇八）に発足した。労働歌である山師の「長井木遣り歌」「長井糶摺り歌」、農業行事の「家田虫追い」、田圃の水位調節の技術である「尺八樋」、川の護岸工事の技術である「なんば引き」などの保存・伝承を行いながら、様々な活動を行っている。

7 古文書入門講座

平成十二年（二〇〇〇）度から本市の貴重な文化財である「内藤家文書」や市内に伝存する「地方文書」の解読を通して歴史を学び、文化財保存に対する意識を高めることを目的に開設した。以後毎年度、月一回、年間一〇回行ってきた。

8 延岡の歴史を読み解く会

平成十四年（二〇〇二）度から「内藤家文書」のマイクロフィルムを活用し、未翻刻の史料の解読を市民とともに行うことを目的として開設した。以後毎年度、月一回、年間一〇回行ってきた。

三 内藤家文書による明治大学との交流

明治大学博物館には、約五万点もの内藤家文書が所蔵されている。同文書は、江戸時代の譜代藩を研究する上で、これほどまとまったものは他になく、たいへん貴重な文書群である。これを活用しての本市と明治大学との交流が、一五年ほど前から行われるようになり、近年ますます活発化している。

明治大学からは、学芸員等の講師派遣による中学高校生を対象にした出前授業や一般市民向けの講演会、懸賞論文による児童生徒の大学への招待などを行っている。一方、本市からは、内藤記念館で所蔵する大名道具等の明治大学博物館での展示や延岡市教育委員会文化課の学芸員による同大学での講演等を行っている。同大学との交流が今後ますます活発化することにより、延岡の歴史の解明と市民の生涯学習の一層の活性化が期待される。

第二節 文化施設

一 延岡総合文化センター

延岡総合文化センターは、市民の文化的要望に対応するために、芸術・芸能活動、美術展や文化講演会等の実施、文化団体やグループ、サークルの育成を通じて、文化の振興を図るとともに、文化活動の拠点となっている。当該施設は、国の田園都市構想に基づく中核施設として、宮崎県北部広域市町村圏域の文化の振興を図るために

設置したもので、充実した設備の大・小ホールを有し、本格的な展示が可能な展示室や和風の交流室、研修室等を備えている。特に、大ホールの音響効果は専門家から高い評価を受け、一流の演奏、演劇等の公演が相次ぎ、地方文化の向上に貢献している。なお、管理運営主体である財団法人延岡総合文化センターは、平成二十四年（二〇一二年）度から公益財団法人へと移行した。

1 建設事業等

設 置	昭和六十年十一月十三日	総工事費	二五億五三一五万円
所 在 地	東浜砂町六一一番地二		
建 築 面 積	五、三二一・二八㎡	敷地面積	一五、九〇五・九六㎡
主 要 施 設	大ホール 一三二二席 ・ 小ホール 二九一席 ・ 楽屋 ・ リハーサル室 ・ 展示室 ・ 研修室 会議室 ・ 交流室 ・ 視聴覚室 ・ 喫茶室		
管 理 運 営	公益財団法人 延岡総合文化センター		

2 平成二十三年（二〇一一年）度の利用状況

区 分	ホール使用件数（回）	入場者数（人）	区 分	ホール使用件数（回）	入場者数（人）
大 ホ ー ル	一九六	一〇三、〇三一	小 ホ ー ル	二六九	三六、七七八
展 示 室	三五九	四二、四四九	そ の 他	一、六三六	二一、一九〇
合 計	二、四六〇	二〇三、四四八			

二 野口記念館

公会堂「野口記念館」は、旭化成工業株式会社（当時）の創業三十周年記念として延岡市に寄贈されたもので、昭和三十年（一九五五）八月に竣工した。

同館は市街地の中心部、城山の東に位置し、市民の文化ホールとしての役割を果たしてきた。延岡総合文化センターと並んで本市の文化を支えている。

1 建設事業等

設置	昭和三十年八月五日	所在地	東本小路一九番地一
敷地面積	四、三六五・六四㎡	建築延面積	二、五九六・四五㎡
主要施設	一階：ホール 六四八席（固定席六三八席、車椅子席一〇席） 二階：楽屋 ・ 事務室 ・ ホワイエ ・ 楽屋		
管理運営	公益財団法人 延岡総合文化センター		

2 平成二十三年（二〇一一）度の利用状況

ホール利用件数は、一〇九回、入場者数は、三万九八一〇人であった。

三 内藤記念館

市民会館「内藤記念館」は、昭和三十八年（一九六三）に市制施行三十周年記念事業として設置され、郷土の

歴史資料展示を行うとともに、研修会や諸会議を行う会場として、広く市民に利用されている。

また、最近では、市民の文化意識の向上とともに、郷土の歴史・民俗資料館としてのニーズが高まるなかで、一部改修され、展示面積も広くなり、資料館としての内容が充実しつつある。

平成五年（一九九三）二月には、内藤家十七代当主内藤政道氏より桃山時代から江戸時代に伝わる能・狂言面を含む歴代当主ゆかりの貴重な品々の寄贈を受けた。

そのうち「天下一」の称号をもつ名工六人の手による能面を使って「のべおか天下一薪能」の開催、展示室の充実を図るために、常設展示室入れ替えや、当家ゆかりの書と短冊展等を行い、ますます文化の振興に寄与する所となっている。

1 建設事業等

設 置	所 在 地
昭和三十八年十月十五日	天神小路二五五番地一
敷地面積 八、八二〇・三五㎡	建築面積 一、三九六・三〇㎡
所 蔵 資 料	
歴史資料 約一一、三〇〇点 ・ 民俗資料 約三、三〇〇点（内二、八〇〇点は民俗資料展示室） 美術資料 約八〇〇点 ・ 考古資料 約五三、〇〇〇点 ・ マイクロフィルム 約一、一〇〇点	

2 平成二十三年（二〇一一）度利用状況

研修会・会議等は、市民二件、二五人で、公用等の使用は、一八九件、四五七五人。展示室参観者は、六四七八人で、合計一九一件、一万一〇七八人であった。

四 西郷隆盛宿陣跡資料館

西郷隆盛宿陣跡資料館は、平成四年（一九九二）五月、旧北川町内に残っている西南戦争に関する遺品および郷土の文化財を広く一般に公開し、後世に継承することを目的に設置された。

建築面積は、二二・四二平方メートル、所蔵資料は、船型まくら・硯・水筒などがあり、二十三年（二〇一一）度の利用状況は、一九七四人である。なお、所在地は、「北川町長井六七二七番地」である。

五 カルチャープラザのべおか

文化施設としてのカルチャープラザのべおかについては、第三章・第三節・一項カルチャープラザのべおかを参照。

第三節 文化功労者

一 県文化功労者（延岡市関係）

二 市文化功勞者

回	年 度	氏 名	表彰部門	主 な 功 績	年 度	部 門	氏 名	受 賞 理 由
五四	平成十五	井戸口 スミ子 今村 愛子 今村 嘉之	保健体育文化 学芸文化 学芸文化	離島における助産婦活動 市民音楽活動の指導・育成 珠算文化の普及・振興	平成十八	文化功勞	永田法順	永年にわたり貴重な日向言僧琵琶の研鑽・継承に努め、質の高い琵琶奏法を確立し、演奏活動を通じて全国的に高い評価を受けるなど、本県文化の向上発展に寄与した功績
二十二		体 育			二十二	芸 術	上杉忠弘	イラストレーターとして国内外で多くの作品を発表するとともに、アニメ界のアカデミー賞と呼ばれるアニメ賞を受賞するなど世界的に高い評価を受け、本県美術の発展向上に寄与した功績
二十二		甲斐国征						永年にわたり日本伝統武道の保存継承や国際的な普及に情熱を注ぐとともに、地域のスポーツ振興に尽力するなど、本県体育の向上発展に寄与した功績

六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五
二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七	平成十六
井上清美	山口奈良次郎	竹森タツ子	徳永重代司	森川愛介	黒木道男 吉田千鶴子	岩切香枝子 西村澄子 吉岡澄子	江藤奈保 杉本喜好	大崎清 児玉治兵衛 平野悟
社会文化	学芸文化	学芸文化	学芸文化	保健体育文化	社会文化 学芸文化	学芸文化 学芸文化 社会文化	社会文化 学芸文化	学芸文化 保健体育文化 社会文化
音訳図書制作など視覚障がい者福祉の推進 女医として地域医療の向上、女性の社会参加推進	北川町山の文化の復興・伝承活動	茶道文化の普及・振興	三川内神楽の伝承活動 北川町地域文化の発掘・紹介	軟式野球の普及・振興	高齢者福祉の推進 民話・昔話などの保存・伝承	延岡神楽の調査・研究・伝承 書道文化の普及・振興 女性の郷土史学習の推進	城山ヤブツバキの啓発・保護活動 郷土芸能（ばんば音頭）の伝承活動	旧延岡藩主内藤家の顕彰活動 環境衛生の向上・改善 郷土芸能（和太鼓）の伝承活動

第四節 文化活動

一 文化活動の動き

本市の文化活動は、戦後の荒廃した人心を文化的に立ち直らせるために、昭和二十四年（一九四九）に延岡市文化連盟が結成されたのを契機に各部門の活動が盛んになってきた。二十六年（一九五一）には、「第一回延岡市美術展覧会」が開催され、その後各種の文化事業や文化団体等の育成を通じて芸術文化の振興を行ってきた。

歴史や文化に対する市民の自主的主体的活動の機運が高まる中で、平成二年（一九九〇）社会教育課に文化係が、七年（一九九五）には文化課が設置され、九年（一九九七）には、旧藩主内藤家より寄贈された天下一能面を活用した「第一回延岡城址薪能」が、延岡城址（城山）で行われ、また同年神楽を舞う団体が集い、「第一回城山かぐらまつり」も行われた。さらに、十五年（二〇〇三）には延岡城築城四百年を記念し、市民が延岡城築城四百年記念祭を盛大に祝った。この年、初めて天下一能面が海外に渡り、ドイツで人間国宝、九世片山九郎右衛門による演能が行われた。

一方、十二年（二〇〇〇）度に創設された「若山牧水青春短歌大賞」は、毎年全国各地から多数の応募があり、郷土の歌人若山牧水を顕彰するとともに、青少年をはじめとする短歌人口の拡大に大いに貢献してきた。また文化庁の助成事業「伝統文化こども教室」（十五年から二十二年まで実施）を活用して、全国屈指の延べ二六〇教室を開催し、子どもたちへの伝統文化の継承と普及を図ってきた。さらに年末恒例の「のべおか『第九』を歌う会」は、二十二年（二〇一〇）度で二五回を迎え、これを契機に映画「ここに生きる」の制作が行われた。さらに伝

統を誇る「延岡市美術展覧会」は、二十四年（二〇二二）度で六二回を、「延岡市郷土芸能大会」は、二五回を数えるなど、延岡市民の文化活動はますます活発化してきている。

二 のべおか天下一薪能

平成九年（一九九七）から始まったのべおか天下一薪能は、二十四年（二〇二二）で、一六回を迎え、今日では延岡の秋の風物詩として定着している。本市の薪能のすばらしさは、城山の千人殺しの石垣を背景に幽玄な世界を現出させることは言うまでもなく、運営や会場の設営等が市民の手で行われていることである。

本市で薪能が行われるようになった経緯は、五年（一九九三）に市制施行六十周年を記念し、内藤家が能・狂言面七二点を本市に寄贈したことによる。そのうちの三〇点が桃山時代から江戸初期にかけての天下一能面であった。これを活用し、まちづくりをとという声が市民の間に起こり、「延岡城址薪能実行委員会」が結成された。同会は、その後法人化され、現在「NPO法人のべおか天下一市民交流機構」となっている。

特筆すべきことは、演者が人間国宝の片山幽雪・十世片山九郎右衛門父子であること、また十五年（二〇〇三）の延岡城築城四百年祭の際には、ドイツのボンで初めての海外公演を行ったことなどで、近年は、延岡の子どもが演者として薪能の舞台に上がるなど、多様な広がりを見せている。

さらに、薪能のある期間を能ウィークとして位置づけ、内藤家旧蔵の能面展、西日本現代能面作家展、延岡市民能舞台等が行われ、能面展や延岡城址のガイドの面では、能面ガイドの会や城山ガイド・ボランティアの会などの市民ボランティアが活躍している。

三 延岡城築城四百年記念祭

慶長八年（一六〇三）高橋元種が延岡城を築城して四百年に当たる平成十五年（二〇〇三）の市制施行七十周年協賛事業として「延岡城築城四百年記念祭」が盛大に行われた。その主要な柱は、第一に「高橋元種公の顕彰」第二に「今山八幡例大祭の復元」第三に「まつりのべおか」第四に「ひむかミュージカル『ウズメ21』」第五に「べおか天下一新能」第六に「城山かぐらまつり」などであった。

主なところを述べると、第一の「高橋元種公の顕彰」は、著名な作家を招いての講演会「高橋元種公と上杉鷹山公」やフォーラム「高橋元種公と延岡城と城下町」などを開催し、城山に「歴代延岡城主の碑」（第一編の扉の写真参照）を建立した。第二の「今山八幡例大祭」は、江戸時代に今山八幡宮の祭例の大行列を、市民の創意と工夫により百数十年ぶりに復元した。第四の「ひむかミュージカル『ウズメ21』」は、城山の千人殺しの石垣を背景に市民によるミュージカルを行い、大好評を博した。第六の「城山かぐらまつり」は、当時の延岡市・北方町・北浦町・北川町、大分県蒲江町の一〇神楽保存会が城山に集い、盛大に行われた。

四 文化団体の活動

延岡市民は、本市の文化向上のために、団体を結成し、様々な文化活動を行っている。その主なものは、次のとおりである。

1 延岡市文化連盟

延岡市文化連盟は、昭和二十四年（一九四九）、戦後の荒廃した人心を立て直すのは文化であるという考えの下、市民の文化水準の向上を図るとともに、文化を通して明朗で潤いのある郷土を建設することを目的に設立された。以来六〇年以上にわたり、所属する団体は、様々な分野で活発な活動を展開しており、本市の文化活動の中核的な存在となっている。

特に近年は、子どもの文化活動の推進にも力を入れており、「第一回のべおか少年少女『文化の祭典』」が、平成十四年（二〇〇二）に行われ、以後三年ごとに開催されている。

(1) 年次的な活動

平成十五年 四月 市制施行七十周年記念事業として行われた「延岡城築城四百年記念祭」に参加し、多くの（〜十六年 三月）団体や市民が一体となり盛り上げた。

十一月（財）宮崎県芸術文化協会の宮崎県芸文協祭を延岡市で行った。

十七年 十月 第二回のべおか少年少女「文化の祭典」（展示発表部門・園芸部門・茶道部門・舞台発表部門）を行った。子どもの参加総数二二〇〇人

十二月 のべおか「第九」を歌う会が第二十回記念演奏会を行った。

十八年 四月 第四十五回一幅一瓶展の記念展および記念式典を行った。

十月 のべおか天下一薪能第十回記念公演（初の二日間公演）を行った。

十九年十一月 第六十回記念市民音楽祭に合わせ、九州文学ルート記念音楽祭を行った。

二十年 十月 第三回のべおか少年少女「文化の祭典」を行った。子どもの参加総数二二〇〇人

延岡史談会は、昭和四十年（一九六五）に発足（初代会長仲田又次郎）。途中一旦活動を停止し、五十年（一九七五）に再発足した。延岡市市民憲章の趣旨を踏まえ、史跡研究調査部会・古文書部会・民俗調査部会に分かれ、郷土の歴史、伝統及び民俗について調査研究を行い、本市の歴史・文化の発展に寄与してきた。

近年の事業としては、宮崎県地方史研究連絡協議会秋季延岡研究大会の実施、旧延岡藩領各地の史跡や伝承、

2 延岡史談会

部 門	団体数
美術	8
写真	6
文芸	15
音楽	25
書道	2
華道	3
茶道	3
舞踊	3
能楽	7
園芸	5
詩吟	3
民謡	1
薪能	1
第九	1
着付道	4
彫刻・工芸	9
太鼓	7
子ども文化	45
一般	14
邦楽	6
歴史・文化	5
個人	2
支部	3
計	178

(2) 加盟団体等の内訳

（平成二十四年六月一日現在）

二十一年十一月 創立六十周年記念式典および記念事業を盛大に行った。
 二十二年 七月 第六十回延岡市美術展覧会を行った。
 九月 (財)宮崎県芸術文化協会の宮崎県芸文協祭を延岡市で行った。県内からの参加一〇五人
 二十三年 十月 第四回のべおか少年少女「文化の祭典」を行った。子どもの参加総数二〇〇〇人
 二十四年 三月 ひむかオペラの会を中心として、喜歌劇「こうもり」を初上演し、大成功をおさめた。

先哲の事跡について、新たな視点での資料の収集、実地踏査、郷土ゆかりの古文書の解説および参考史料との照合分析を重ねてきている。

また、本会は、毎年の諸活動の記録を編集した「延岡史談会報『縣』」を隔年で刊行し、平成二十四年(二〇二二)五月現在二四号を数えている。

3 延岡市郷土芸能保存会

延岡市郷土芸能保存会は、郷土芸能の掘り起こしと伝承を目的として昭和四十六年(一九七一)に結成された。主たる活動としては、昭和六十二年(一九八七)に始まった「延岡市郷土芸能大会」や「まつりのべおか」をはじめとする諸行事に積極的に協力参加している。

特に、十九年(二〇〇七)の「第二十二回国民文化祭・とくしま2007」には、延岡団七踊り保存会が出演し、二十一年(二〇〇九)には、「日本の原点宮崎の郷土芸能伝承事業」として「郷土芸能大会inのべおか」を開催するなど活発な活動を展開してきた。

4 財あさひ・ひむか文化財団

財あさひ・ひむか文化財団は、本市を発祥の地とする旭化成が創業六十周年を記念し、昭和六十年(一九八五)十一月に基金五億円(旭化成全額出資)で設立した。本市をはじめ県北地域の文化振興に寄与することを目的に基金の運用を図り、「モノの豊かさから心の豊かさへ」をスローガンに、二八年間にわたり文化の香るまちづくりに目指して活動してきた。

一流の音楽・芸術・演劇等の公演の招致、音楽鑑賞会等独自の文化事業の実施、民間団体の文化活動の支援など、地域社会に根差した幅広い文化活動を展開している。

なお、平成二十五年（二〇一三）四月に公益財団法人に移行し、団体名も「公益財団法人 旭化成ひむか文化財団」に改称する。

五 郷土の先賢等の顕彰活動

延岡市民は、郷土の先賢を顕彰するために団体を結成し、様々な顕彰活動を行っている。その主な団体は次のとおりである。

1 内藤家顕彰会

本市の文化と教育に多大な貢献をした旧延岡藩主内藤家の顕彰および郷土史の研究と普及を目的に、大正五年（一九一六）に結成された。毎年最後の延岡藩主内藤政舉公の命日には、菩提寺で供養の祭を行い、内藤家の遺徳に感謝の念を捧げるとともに、会誌「亀井」を発行するなど、内藤家を顕彰する様々な活動を行ってきた。

2 延岡西南役会

わが国最後の内戦で、近代国家確立の転換点となった「西南の役」および西郷隆盛の顕彰活動を通して地域おこしを行うことを目的に、昭和五十九年（一九八四）に発足した。毎年和田越の決戦のあった八月十五日に慰霊祭を行い、平成四年（一九九二）には「明治十年西南戦争和田越決戦の地」の慰霊碑を建立している。

3 後藤勇吉延岡顕彰会

郷土の飛行家後藤勇吉を慰霊・顕彰する目的で、昭和六十二年（一九八七）に結成された。毎年二月二十八日の命日（本命日二十九日）には、妙田の後藤勇吉銅像前で慰霊祭を、また十月下旬には、後藤勇吉生誕メモリア

ルペットボトル大会を行うなど、後藤勇吉を顕彰する様々な活動を行ってきた。

4 仲田又次郎翁顕彰会

初代と九代の延岡市長を務め、橋かけ又次郎の異名をとった仲田又次郎を顕彰する目的で、昭和三十九年（一九六四）に結成された。当初は「仲田又次郎翁を偲ぶ会」であったが、その後改称され「仲田又次郎翁顕彰会」となった。

平成六年（一九九四）に（社）延岡市西臼杵郡薬剤師会が、同会を引き継ぎ現在に至る。毎年四月の第二日曜日に城山の胸像前で、供養祭を行ってきた。また十五年（二〇〇三）には、仲田氏の遺句集「二つ橋」を発刊している。

5 若山牧水延岡顕彰会

郷土の歌人若山牧水を顕彰し、本市の文化向上に寄与する目的で、平成十三年（二〇〇一）に結成された。毎年春の彼岸の前後には城山の牧水歌碑前で歌碑祭を、また牧水の誕生日には、延岡総合文化センターの牧水の銅像前で生誕祭を行うなど、牧水を顕彰する様々な活動を行ってきた。

6 野口遵顕彰会

旭化成の前身である日本窒素肥料株式会社の創業者野口遵したがを顕彰する目的で、平成十三年（二〇〇一）に結成された。宮崎県内において工業化技術開発に顕著な業績をあげた企業や個人に対し「野口賞」の授与、小中学生を対象に科学啓発事業などを行ってきた。野口研究所や科学館などへの研修派遣事業「ジュニア科学者の翼」は、二十年（二〇〇八）に文部科学大臣表彰を受賞している。

六 郷土史学習団体

延岡市民は、郷土の歴史を学ぶために、様々な活動を行っている。その主な学習団体は次のとおりである。

1 延岡市郷土史婦人学級OB会がたま

昭和五十七年（一九八二）度延岡市教育委員会主催による郷土史婦人学級の受講生が、五十八年（一九八三）度「延岡市郷土史婦人学級OB会がたま」を発足させた。郷土史の学習をはじめ、延岡市郷土芸能大会などの文化団体の行事などへの積極的な参加や奉仕活動も行ってきた。平成二十四年（二〇一二）で結成三十周年を迎える。十四年（二〇〇二）には、「県北のお寺さん」を発刊している。

2 延岡市郷土史婦人学級OB会ひみこ

昭和五十九年（一九八四）度延岡市教育委員会主催による郷土史婦人学級の受講生が、六十年（一九八五）度「延岡市郷土史婦人学級OB会ひみこ」を発足させた。郷土史の学習をはじめ、城山かぐらまつりなどの文化団体の行事などへの積極的な参加や奉仕活動も行ってきた。また同会の発足五周年記念事業として、市内の神社を調査した「延岡の市内の神社をたずねて」を、さらに十周年、十五周年、二十周年記念事業として、「延岡の石塔を訪ねて」を発刊している。

3 内藤充真院を学ぶ会

昭和六十年（一九八五）に内藤家十四代政順まさゆりの正室・充真院じゅうしんいんの書いた旅日記を読み解く会として発足。毎月一回読み解く会を行い、平成九年（一九九七）同会の発足十周年に、遺徳を顕彰するために充真院像を建立した。また十七年（二〇〇五）には、宮崎日日新聞賞文化賞を受賞した。なお、その成果は、内藤家文書を所蔵する明治大学博物館により「内藤藩主夫人内藤充真院繁子道中日記」等として刊行されている。

第五章 スポーツ

第一節 アスリートタウンのべおか

延岡市は、「運動」を通じた健康長寿のまちづくりを推進するために、いつでも、どこでも、だれでも、いつでも気軽にスポーツを楽しみ、スポーツが生活の一部として定着するよう、市民の健康づくり・体力づくりへの取り組みを支援するとともに、スポーツ施設の整備拡充を行ってきた。

また、本市では、オリンピックをはじめとする世界的な大会に出場するトップアスリートを数多く輩出しており、本市で開催される「ゴルフデンゲムズinのべおか」「延岡西日本マラソン」「磯貝杯九州少年柔道大会」などの全国レベル・九州レベルの大会、さらにはサッカー・陸上・柔道・野球など様々な競技種目での合宿等が一年を通じて行われていることから、これらを地域固有の資源として活かしながら、本市のイメージ向上や交流人口の増大を図る「アスリートタウンづくり」を進めてきた。

そのような中、「スポーツを活かしたまちづくり」を本市活性化のための重点施策としてとらえ、「アスリートタウンづくり」と「スポーツによる健康づくり・体力づくり」を二本柱に「アスリートタウンのべおか・スポーツ振興計画」を平成二十一年（二〇〇九）三月に策定し、賑わいにあふれた元気な延岡づくりを推進している。

一 アスリートタウンづくり

市民と行政が一体となり、本市の特性であるスポーツを活かした活動や交流を進めながら、「大会・合宿の充実」および「推進体制の充実」に努めることで、地域のイメージの向上や交流人口の増大を図ることを目指している。

1 大会・合宿の充実

これまでに定着した本市で開催される九州規模以上の大会について、競技会としての魅力アップを図り、内容の充実に努めている。また、競技施設や助成制度について、広く情報を発信しながら、国際的な大会から全国・九州・東九州規模までの新たな大会を誘致・開催するとともに、スポーツ合宿の誘致を行っている。さらには、大会・合宿の参加者・関係者等のための宿泊機能の充実に努めている。

2 推進体制の充実

「NPOアスリートタウンのべおか」の組織体制の強化を図るなど、推進体制の充実に努めるとともに、本市ゆかりの多くのアスリートの顕彰やアスリートタウンとしての情報発信に努めている。また、「する（競技）」「観る（応援）」「支える（支援）」など様々な形での市民参加を促進している。さらには、世界レベルで活躍した人材の活用等を通じて競技人口の増大に努めるとともに、競技力の向上を図っている。

二 スポーツによる健康づくり・体力づくり

市民生活に心の豊かさと健康をもたらし、活力ある社会を築くため、「生涯スポーツの振興」および「関係団

体及び指導者の育成」に努めることで、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを行うことを目指している。

1 生涯スポーツの振興

市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるように、次の主な取り組みを行っている。

- ① 「総合型地域スポーツクラブ」の設置を進めること。
- ② 市民が生活の中に運動を取り入れ、栄養バランスのとれた食事の摂取に努めること。
- ③ 児童の一人ひとりの実態に応じた体力向上への指導・支援に努めること。
- ④ スポーツを通じて、障がい者の交流の促進や社会適応性の向上等を図るとともに、市民の障がいに対する正しい認識を深めること。
- ⑤ 高齢者が健康で元気に暮らせ、また、生涯スポーツの観点からも個々人の生活や身体状況に合わせた健康・体力づくりの事業を推進すること。
- ⑥ スポーツ・レクリエーションが生活習慣の一部として定着するよう、各種スポーツ教室や大会・イベント等の拡充に努めることなどである。

2 関係団体および指導者の育成

多様化する市民のスポーツやレクリエーションのニーズに対応するため、関係団体が主体となり、様々なスポーツ・レクリエーション振興施策が展開できるよう支援している。また、講習会や研修会を通して指導者の充実に図っている。

第5章 スポーツ

表 スポーツ施設の整備状況

年度	施設・場所	事業（主な内容）	事業費(円)
平成15	西階陸上競技場	カメラ設置塔に階段および踊り場の設置	2,335,200
		50mプール改修およびポンプ室の補修	11,866,000
	西階遊泳場	50mプール周辺フェンス補修	1,018,500
		排水設備の整備および雨樋補修	1,297,000
	西階庭球場	スコアボードの塗替えおよび補修	1,890,000
	西階野球場	内外野の整備	1,702,000
ナイターランプの交換		1,013,000	
16	西階野球場	ナイター照明補修	2,614,500
	市民体育館	雨樋の全体的な改修	8,494,000
	勤労者体育センター	屋根補修	7,380,000
17	西階野球場	メインスタンドの改修	55,597,500
	北浦海浜運動公園	芝生舗装	34,689,000
18	西階陸上競技場	走路の全面改修	116,736,000
		合宿室・医務室他の改修	8,085,000
	浜川遊泳場	25mプールおよび幼児プールの塗装	2,829,000
北浦海浜運動公園	外構フェンスおよびトイレ設置	20,327,000	
19	西階遊泳場	50mプールの配管およびスロープ改修	11,142,000
20	西階野球場	防球ネットの設置	3,255,000
21	西階野球場	内野等の改修	21,000,000
		バックスクリーンの改修	9,685,000
	延岡市民体育館	冷房設備設置	79,880,000
	西階遊泳場	25mプールおよび幼児プールの配管改修	10,154,000
		25mプールの塗装	7,230,000
	北方南部地区体育館	屋根の塗装	3,425,100
北川運動公園	夜間照明点灯盤の補修	445,200	
22	西階野球場	ナイター照明設備の整備	1,957,000
	延岡市民体育館	コンコースの改修および駐車場のライン引き	20,555,000
	北川体育館	防火設備・舞台幕等修繕、消火栓ポンプ用発電機設置	9,474,604
23	西階庭球場	全天候化改修、管理棟実施設計委託、管理棟新設	454,553,000
	西階球技場	芝生化	42,000,000
24	市民体育館 西階補助グラウンド	延岡市屋内体育施設改修工事（北方勤労者体育センターを含む）	4,798,000
		西階補助グラウンド改修工事	18,600,000

（資料：延岡市教育委員会保健体育課）

第二節 スポーツ施設の整備

一 スポーツ施設の整備状況

第三節 スポーツ界での活躍

一 スポーツ界での主な出来事

年	西暦	月	事	項
平成十五	二〇〇三	三月	延岡学園高等学校が春の選抜高校野球大会に初出場した	
十六	二〇〇四	八月	アテネオリンピックに本市ゆかりの選手四人が出場した	
十七	二〇〇五	八月	アテネオリンピックに本市ゆかりの選手一人が出場した	
十八	二〇〇六	三月	聖心ウルスラ学園高等学校が、夏の全国高校野球大会に初出場した	
十九	二〇〇七	八月	北方町・北浦町との合併により、延岡市体育協会・北方町体育協会・北浦町体育協会が統合された	
二十	二〇〇八	三月	延岡学園高等学校が二度目の春の選抜高校野球大会に出場した	
		五月	延岡学園高等学校が春夏連続で、五度目の夏の全国高校野球大会に出場した	
		八月	北川町との合併により延岡市体育協会・北川町体育協会が統合された	
		七月	「アスリートタウンのべおか二〇〇七国際武道大会」が開催された	
		十月	延岡市健康教室推進協議会に保健事業推進功労厚生労働大臣表彰並びに生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学省）が授与された	
		二月	延岡西日本マラソンが、九州五局ネットでテレビ生中継された	
		八月	北京オリンピックに本市ゆかりの選手二人が出場した	

第5章 スポーツ

年	西暦	月	事 項
平成二十	二〇〇八	九月	北京パラリンピックに本市ゆかりの選手が一人出場した
		十二月	大相撲巡業「延岡場所」が二日間にわたり開催された
		二月	延岡西日本マラソンのテレビ生中継が、九州五局ネットから七局ネットに拡大のうえ実施された
二十一	二〇〇九	三月	アスリートタウンのべおか・スポーツ振興計画が策定された
		五月	第二〇回記念大会「ゴールデンゲームズinのべおか」が開催された
		九月	延岡市体育協会が県内で初めて一般社団法人化された
		十月	第二二回全国スポーツ・レクレーション祭健康マラソンの部が北川総合運動公園をメイン会場に開催された
		十二月	大相撲東関部屋延岡合宿が初めて実施された
二十二	二〇一〇	八月	延岡学園高等学校が六度目の夏の全国高校野球大会に出場した
二十三	二〇一一	二月	サッカーJ1「ベガルタ仙台」のキャンプ一〇周年を記念し、仙台市のサッカー少年団を招待のうえ、地域間交流を実施した
		十二月	全国高校バスケットボール選抜優勝大会で、延岡学園高等学校（男子）が優勝。全国高等学校総合体育大会優勝（八月）、国民体育大会優勝（十月）を合わせた高校男子バスケットボール史上五校目の全国高校三冠を達成した。
二十四	二〇一二	二月	延岡西日本マラソンが、九州七県への地上波テレビ生中継に加え、BS放送による全国生中継が実施された
		七月	ロンドンオリンピックに、本市ゆかりの選手が二人出場した
		八月	ロンドンパラリンピックに、本市ゆかりの選手が一人出場した

第四節 体育功労者

一 文部科学省および宮崎県表彰者

1 文部科学省および宮崎県表彰（延岡市関係）

表1

区分 年度	文部科学省		県教育委員会			
	功労者	優良団体	生涯スポーツ功労者	生涯スポーツ優良団体	スポーツ栄誉賞	スポーツ特別賞
平成15	渡邊孝之		首藤邦子			
16			本田敏満	延岡市健康教室推進協議会	工藤 恭子 (陸上) 松田 丈志 (水泳)	大野 龍二 (陸上) 塘内 将彦 (柔道)
17			岩室富雄		松田 丈志 (水泳)	佐藤 智之 (陸上)
18					松田 丈志 (水泳) 草野 大輔 (野球)	
19		日本武道院征武館 延岡市健康教室推進協議会			松田 丈志 (水泳) 久世由美子 (水泳指導者)	
20						川名 修徳 (弓道) 北郷純一郎 (バスケットボール)
21						岩井 勇輝 (陸上) 杉尾 勇士 (野球) 岡田 聖司 (野球) 藤島 琢哉 (野球)
22					黒木 聖仁 (サッカー)	内瀬戸真実 (バレーボール) 永吉 佑也 (バスケットボール)
23	桑幡朝子		延岡少年ラグビースクール		堀端 宏行 (陸上) 新鍋 理沙 (バレーボール)	大園 政伸 (カヌー) 北林 健治 (ハンドボール) 延岡学園高校男子バスケットボール部

(資料：延岡市教育委員会保健体育課)

第5章 スポーツ

表2

区分 年度	スポーツ推進委員 (体育指導委員)		県 体 育 協 会
	国・九州	県	
平成15	(九州) 矢頭 重信	森重ヒサミ 久城 信子	功労賞 甲斐 国征 (空手道) 同 緒方 誠三 (ソフトボール) 同 井本 萬利 (四半の弓道) 優秀賞 塘内 将彦 (柔道)
16	(国) 川崎 邦久 (九州) 福田 積	白間 貴弘	功労賞 成合 昭夫 (スキー) 同 岩室 富雄 (バレーボール) 優秀賞 斉藤 制剛 (柔道) 「保田篤則 (少林寺拳法延岡東スポーツ少年団)」
17	(九州) 桑幡 朝子	岡本真奈美 芝崎 玉美 美村 訓宏	功労賞 甲斐 英二 (剣道) 奨励賞 大野 龍二 (陸上)
18		首藤 邦子 高見 謙二 木村 隆次	功労賞 花田 寔 (ソフトテニス)
19	(国) 川崎 邦久 (九州) 三宅 公子	兒島 妙子 河野 清志 石井 清子	功労賞 久世由美子 (水泳指導者)
20	(国) 桑幡 朝子	上田 高恵	功労賞 東 行男 (ソフトボール) 同 宮崎 三郎 (サッカー)
21		日吉 基晶 北林 修身 河野三千代	功労賞 稲田 義美 (テニス) 同 河野 正 (陸上) 同 沖米田征一 (サッカー) 「岩切佳三 (一友スポーツ少年団)」 「宇戸田萬四郎 (北浦クラブスポーツ少年団)」
22	(九州) 芝崎 玉美		功労賞 甲斐 三正 (野球) 同 松岡 真央 (ソフトボール)
23	(国) 福田 積	松田 勝志	功労賞 舟津 謹止 (ソフトボール) 同 佐藤 愛子 (バレーボール) 同 旭化成男子ソフトボール部 「小林敏秀 (延岡佐藤道場スポーツ少年団)」 「橋本健治 (恒富サッカースポーツ少年団)」

(注) 「 」は県スポーツ少年団表彰

(資料：延岡市教育委員会保健体育課)

二 延岡市および体育協会表彰者

1 体育功労者市長表彰

平成十五	高橋和男	ソフトテニス	緒方誠三	ソフトボール
十六	沖米田征一	サッカー	川崎邦久	バレーボール
十七	宇都宮隆	軟式野球		
十八	戸田公文	水泳	吉田達男	軟式野球
十九	沖米田國明	柔道	木村守浩	サッカー
二十	富岡芳彦	水泳	中平裕三	軟式野球
二十一	染矢國義	軟式野球	松本和彦	ソフトボール
二十二	桑原啓二	陸上	田中和広	軟式野球
二十三	染矢儀傳	軟式野球	渡部昂一	バレーボール
二十四	濱名朱實	バドミントン	杉本義和	ソフトボール

(資料：延岡市教育委員会保健体育課)

2 アスリートタウンスポーツ特別賞

平成十五	松田丈志	水泳	氏名	年度
十六	松田丈志	水泳	氏名	年度
十七	齋藤制剛	柔道	氏名	年度
十八	松田丈志	水泳	氏名	年度
二十一	松田丈志	水泳	氏名	年度
二十二	松田丈志	水泳	氏名	年度
二十三	松田丈志	水泳	氏名	年度
佐藤博光	氏名	種目	氏名	
大野龍二	氏名	種目	氏名	
高橋宏明	氏名	種目	氏名	
山口清楓	氏名	種目	氏名	
橋口祐葵	氏名	種目	氏名	
延岡学園高校	氏名	種目	氏名	
佐藤博光	氏名	種目	氏名	
陸上	氏名	種目	氏名	
柔道	氏名	種目	氏名	
ソフトボール	氏名	種目	氏名	
柔道	氏名	種目	氏名	
(バスケットボール男子)	氏名	種目	氏名	
工藤恭子	氏名	種目	氏名	
松田丈志	氏名	種目	氏名	
卓球	氏名	種目	氏名	
水泳	氏名	種目	氏名	

3 体育協会長表彰

年度	氏名	団体名・種目
平成十五	緒方 栄 川原 常義 稲吉 悦夫 笹野 昭一	陸上 合気道 バレーボール 杖道
十六	河野 利弘 宮部 洋二 橘 照子 黒木 詔一	陸上 ソフトテニス バレーボール 少林寺拳法
十七	宗 恵子 太田 由美子 山本 昌男	陸上 ソフトテニス バレーボール
十八	西岡 宏子 西野 正行 下田 文代 松岡 鶴雄	陸上 軟式野球 バレーボール グラウンドゴルフ
十九	植田 清行 内門 光明 佐藤 重信 矢頭 重信	陸上 剣道 四半的弓道 ミニバレーボール
	氏名	団体名・種目
	崎野 清 加藤 邦生 津田 誠剛	軟式野球 空手道 サッカー
	山内 敏明 上杉 幸康 栗田 芳隆	柔道 空手道 サッカー
	中島 保 黒木 民雄 西原 利明	水泳 軟式野球 少林寺拳法
	佐藤 幸江 佐藤 博 高橋 國兼	水泳 空手道 サッカー
	氏名	団体名・種目
	小森 健宏 並木 新吉 川野 文善	剣道 ソフトボール 少林寺拳法
	瓦田 暢廣 上田 巖 古江 裕二	軟式野球 ソフトボール 卓球
	赤藤 孝忠 山浦 孝道	弓道 ソフトボール
	谷川 次信 中矢 恒利 宮原 昭則	弓道 ソフトボール 少林寺拳法
	氏名	団体名・種目
	甲斐 泰子 長友 敏男 蓑田 征一	軟式野球 サッカー 太極拳

第5章 スポーツ

二十四	興嶋壽 栢岡本 理伸典 一郎好幸	中川勝博 山本早苗	武田智郎 上野和喜	舟津謹止 重黒木裕子	河野裕一 松田兼近	迫山染黒 口口田 文貞玉 代弘喜	平成二十 年 度	氏 名	団体名・種目
	剣道 陸上	バドミントン サッカー	水泳 卓球	バドミントン ソフトボール	バドミントン ミニバレーボール	陸上 ミニバレーボール		氏 名	団体名・種目
	佐藤嘉剛 指原富美子	甲斐祥太郎 前田忠幸	杉谷直人	上蘭茂	伊福義雄 甲斐義人	富山隆則 富山公瑞		氏 名	団体名・種目
	柔道 なぎなた	トライアスロン バレーボール	軟式野球 バレーボール	陸上 バレーボール	柔道 バレーボール	陸上 バドミントン サッカー		氏 名	団体名・種目
	日吉知博 佐藤宗近	田丸眞 上田利章	末森繁信	高橋民弘	江口憲博 山本照弘	山本康二 甲斐久美雄		氏 名	団体名・種目
	バレーボール	軟式野球 サッカー	陸上	軟式野球 柔道	軟式野球 サッカー	少林寺拳法 剣道		氏 名	団体名・種目

4 社会体育優良団体（体育協会会長表彰）

年 度	団 体 名
平成十六	延岡地区少年野球連盟
十八	ミクスソフトテニスクラブ
二十	征武館北浦道場（空手道）
二十二	旭夢翔会（ソフトボール）
年 度	団 体 名
二十三	延岡市ロートル野球連盟
二十四	シージャック（ソフトボール） ステルスチーム（ソフトボール）

三 県高等学校体育連盟表彰者

1 県高等学校体育連盟表彰者（延岡市関係）

第5章 スポーツ

表 県高等学校体育連盟表彰者

年 度	氏名・チーム名	学校名	記 録	備 考
平成15	ホ ッ ケ ー	延岡工業	県高等学校総合体育大会男子団体22年連続優勝	男子
	高 橋 昌 史	延岡学園	U-18男子日本代表選手	バスケットボール
	山 田 芳 博	延岡学園	全九州高等学校新人体育大会90kg級優勝	柔道
	國 府 宏 基	延岡工業	県高等学校総合体育大会200m背泳ぎ3年連続優勝	水泳
	鷹 巢 有 希	延 岡	南九州陸上競技大会女子400m優勝	陸上競技
	長 野 桃 子	延岡第二	全国高等学校定時制通信制体育大会女子第3位	柔道
	赤 木 一 隆	延岡学園	優秀選手	柔道
	長 倉 誠 一	延岡学園	優秀選手	バスケットボール
	甲 斐 沙 矢	延岡商業	優秀選手	ホッケー
	堀 原 義 提	延岡工業	優秀選手	水泳
	日 高 美 紀	延 岡	優秀選手	陸上競技
16	水 泳	延岡工業	県高等学校総合体育大会男子団体3年連続優勝	男子
	太 田 匠	延岡学園	U-18男子日本代表選手	バスケットボール
	工 藤 美 穂	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優秀選手	バレーボール
	甲 斐 小 彩	延岡工業	県高等学校総合体育大会200m・400m個人メドレー3年連続優勝	水泳
	江 藤 淳	延岡学園	優秀選手	バスケットボール
	横 田 知 子	延岡学園	優秀選手	バレーボール
	井 本 克 典	延 岡 東	優秀選手	ラグビー
河 野 泰 也	延岡工業	優秀選手	ソフトボール	
17	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優勝 全九州高等学校体育大会優勝 全国高等学校選抜優勝大会準優勝 県高等学校総合体育大会3年連続優勝	男子
	ホ ッ ケ ー	延岡工業	県高等学校総合体育大会男子団体24年連続優勝	男子
	城 戸 優 佑	延岡商業	優秀選手	体操
	早 瀬 康 寛	延 岡 西	優秀選手	水泳
	東 達 也	延岡学園	優秀選手	バスケットボール
	斎 藤 泰 子	延岡学園	優秀選手	バレーボール
	山 本 真 也	延 岡 東	優秀選手	ラグビー
川 並 洋 司	延 岡	優秀選手	弓道	
18	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会3位 全九州高等学校体育大会優勝	男子
	バレーボール	延岡学園	県高等学校総合体育大会3年連続優勝	女子
	水 泳	延岡工業	県高等学校総合体育大会5年連続優勝	男子
	黒 木 貴 之	延岡工業	県高等学校総合体育大会400m・800mリレー3年連続優勝	水泳
	戸 高 功 貴	延岡工業	県高等学校総合体育大会400m・800mリレー3年連続優勝	水泳
	土 持 亮 二	延岡工業	県高等学校総合体育大会400m・800mリレー3年連続優勝	水泳
	節 政 健 一	延岡工業	県高等学校総合体育大会400m・800mリレー3年連続優勝	水泳
	オーティス	延岡学園	U-18男子日本代表選手	バスケットボール
池 田 雅 史	延 岡 東	U-19男子日本代表・高校日本代表選手	ラグビー	
小 野 崇	延岡商業	優秀選手	体操	
月 野 雅 人	延岡学園	優秀選手	バスケットボール	
児 玉 千 秋	延岡学園	優秀選手	バレーボール	

第5編 教育と文化の振興

年 度	氏名・チーム名	学校名	記 録	備 考
平成19	バスケットボール	延岡学園	県高等学校総合体育大会5年連続優勝	男子
	村 岡 大 潤	延岡学園	全九州高等学校体育大会90kg級優勝	柔道
	内 満 由 紀	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優秀選手	バレーボール
	永 吉 佑 也	延岡学園	日・韓・中ジュニア交流競技会U-18日本代表選手	バスケットボール
	八 重 尾 優 衣	延岡学園	全九州高等学校新人大会優勝	弓道
	福 留 貴 明 秦 彩	延岡学園 延岡学園	優秀選手 優秀選手	バスケットボール バレーボール
20	柔 道	延岡学園	全国高等学校総合体育大会男子団体3位	男子
	バレーボール	延岡学園	県高等学校総合体育大会男子団体3年連続優勝	女子
	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優勝	男子
	村 岡 大 潤	延岡学園	全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会3位	男子
	赤 迫 健 太	延岡学園	全九州高等学校体育大会90kg級優勝	柔道
	玉 城 一 生	延岡学園	全国高等学校総合体育大会100kg級2位	柔道
	新 鍋 理 沙	延岡学園	全九州高等学校体育大会73kg級優勝	柔道
	永 吉 佑 也	延岡学園	全国高等学校総合体育大会バレーボール競技優秀選手	バレーボール
	和 田 力 也	延岡学園	アジア・ジュニア選手権大会日本代表選手	バスケットボール
	那 須 萌 美	延岡工業	全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会ベスト5選手	バスケットボール
21	バスケットボール	延岡学園	全九州高等学校体育大会南九州地区予選会七種競技優勝	陸上競技
	安 田 知 史	延岡学園	優秀選手	体操
	高 橋 拓 努	延岡商業	優秀選手	体操
	中 武 剣 吾	延岡商業	優秀選手	バスケットボール
	横 瀬 孝 樹	延岡学園	優秀選手	バスケットボール
	佐 藤 義 朗	延岡星雲	優秀選手	バスケットボール
	甲 斐 智 哲	延岡工業	優秀選手	バレーボール
	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会2位	男子
	安 田 知 史	延岡学園	第40回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会ベスト8	男子
	高 橋 拓 努	延岡学園	全九州高等学校体育大会81kg級優勝	柔道
中 武 剣 吾	延岡工業	全国高等学校総合体育大会81kg級5位	柔道	
横 瀬 孝 樹	延岡工業	全九州高等学校体育大会100kg超級優勝	柔道	
佐 藤 義 朗	延岡星雲	全国高等学校体育大会個人5位	剣道	
甲 斐 智 哲	延岡工業	優秀選手	バスケットボール	
22	バスケットボール	延岡学園	優秀選手	ラグビー
	柔 道	延岡学園	優秀選手	登山
	体 操	延岡学園	全九州高等学校体育大会優勝	男子
	体 操	延岡商業	県高等学校総合体育大会男子団体5年連続優勝	男子
	体 操	延岡商業	県高等学校総合体育大会男子団体3年連続優勝	男子
	後 藤 将 志	延岡学園	県高等学校総合体育大会女子団体3年連続優勝	女子
	橋 口 祐 葵	延岡学園	全九州高等学校新人体育大会90kg級優勝	柔道
	甲 斐 慶 彦	延岡学園	全国高等学校総合体育大会66kg級優勝	柔道
室 屋 佳 太	延岡星雲	優秀選手	バスケットボール	
八 矢 圭 祐	延岡工業	優秀選手	ラグビー	
		延岡工業	優秀選手	弓道

第5章 スポーツ

年 度	氏名・チーム名	学校名	記 録	備 考
平成23	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優勝 全国高等学校選抜優勝大会優勝 全九州高等学校体育大会優勝	男子
	柔 道	延岡学園	全九州高等学校新人体育大会男子団体優勝	男子
	弓 道	延岡学園	全九州高等学校新人体育大会男子団体優勝	男子
	ペ ン ド ラ メ	延岡学園	日・韓・中ジュニア交流競技会日本代表選手	バスケットボール
	礼 生	延岡学園	全国高等学校選抜優勝大会ベスト5	
	ジョフ チェイカ アハマド バンバ	延岡学園	全国高等学校選抜優勝大会ベスト5	バスケットボール
	橋 口 祐 葵	延岡学園	フランスジュニア国際大会66kg級日本代表選手 全九州高等学校新人体育大会66kg級優勝	柔道
	中 山 智 予	聖 心 ウルスラ	全九州高等学校新人体育大会50mバタフライ優 勝・100mバタフライ優勝	水泳
	岩 瀬 優 太	延 岡	優秀選手	体操
	岩 田 大 輝	延岡学園	優秀選手	バスケットボール
	白 井 之 美	延岡学園	優秀選手	バレーボール
	古 谷 遼 太 郎	延岡工業	優秀選手	登山
	後 藤 将 志	延岡学園	優秀選手	柔道
24	バスケットボール	延岡学園	全国高等学校総合体育大会優勝 全国高等学校選抜大会優勝 平成23年度全九州高等学校春季選手権大会優勝	男子
	柔 道	延岡学園	県高等学校総合体育大会10年連続優勝	男子
	弓 道	延岡学園	平成23年度全国高等学校選抜大会3位 県高等学校総合体育大会3年連続優勝	女子
	体 操	延岡商業	県高等学校総合体育大会5年連続優勝 全国高等学校総合体育大会66kg級優勝	男子
	橋 口 祐 葵	延岡学園	平成23年度全国高等学校選抜大会73kg級2位 全九州高等学校体育大会66kg級優勝	柔道
	寺 園 脩 斗	延岡学園	FIBA ASIA U-18男子選手権日本代表選手 全国高等学校選抜大会ベスト5 優秀選手	バスケットボール
	ジョフ チェイカ アハマド バンバ	延岡学園	全国高等学校選抜大会ベスト5	バスケットボール
	新 森 純 平	延岡学園	平成23年度全国高等学校選抜大会個人2位 優秀選手	弓道
	浮 島 杏 加 子	延岡学園	アジアユース女子選手権日本代表選手	バレーボール
	松 田 裕 介	延岡星雲	全国高等学校総合体育大会500mカナディアン シングル優勝・200mカナディアンシングル3位	カヌー
	渡 部 真 也	延 岡	優秀選手	体操
	宮 川 和	延 岡	優秀選手	体操
	中 山 智 予	聖 心 ウルスラ	優秀選手	水泳
邊 木 園 良 介	延岡学園	優秀選手	柔道	

(資料：宮崎県高等学校体育連盟)

表 延岡市内中学校関係記録

競技名	性別	年度	月	出場校	大会名	順位
剣道	男子	平成15	8	延岡中	九州大会	
		16	8	延岡中	九州大会	
	23	8	延岡中	九州大会	九州3位	
柔道	男子	17	8	南富中	九州大会	
	女子	15	8	南富中	九州大会	
水泳	男子	21	8	海階中	九州大会・全国大会	九州3位
	女子	22	8	西階中	九州大会・全国大会	九州1位
ソフトテニス	男子	24	8	階階中	九州大会・全国大会	九州2位・全国3位
		15	8	土々呂中	九州大会	
	女子	16	8	土々呂中	九州大会	九州3位
		24	8	西階中	九州大会	
		18	8	東海中	九州大会	九州2位
ソフトボール	女子	17	8	南富中	九州大会	
		19	8	南富中	九州大会	
		20	8	南富中	九州大会	九州2位・全国5位
		21	8	延岡中	九州大会	九州3位
		22	8	延岡中	九州大会	
		22	8	延岡中	九州大会	九州2位
		23	8	延岡中	九州大会	
卓球	男子	18	8	南中	九州大会	
		15	8	南中	九州大会	
		16	8	南中	九州大会・全国大会	九州2位
	女子	17	8	南中	九州大会・全国大会	九州2位
		18	8	南中	九州大会	九州3位
		19	8	南中	九州大会	
		21	8	南中	九州大会	
		23	8	土々呂中	九州大会	
		24	8	土々呂中	九州大会	九州3位
軟式野球	男子	20	8	西階中	九州大会	
		21	8	恒富中	九州大会	
		24	8	西階中	九州大会	九州4位
		18	8	土々呂中	九州大会	
バスケッ トボール	男子	19	8	高学館中	九州大会	
		20	8	高学館中	九州大会	九州1位
		21	8	高学館中	九州大会	
		22	8	高学館中	九州大会	
	女子	23	8	土々呂中	九州大会	
		24	8	高学館中	九州大会	
		15	8	西階中	九州大会	
		16	8	南中	九州大会	
バドミ ントン	男子	17	8	恒富中	九州大会	
		18	8	恒富中	九州大会	
		15	8	東海中	九州大会	
バレー ボール	男子	18	8	南富中	九州大会	九州3位・全国5位
		24	8	土々呂中	九州大会	九州5位
	女子	18	8	東海中	九州大会	
		20	8	東海中	九州大会	
		21	8	高学館中	九州大会	
		22	8	高学館中	九州大会	
		23	8	旭中	九州大会	
24	8	高学館中	九州大会	九州2位		
ハンド ボール	男子	16	8	延岡中	九州大会	
		23	8	延岡中	九州大会	
		24	8	延岡中	九州大会	
	女子	15	8	延岡中	九州大会	
		17	8	延岡中	九州大会	
		18	8	延岡中	九州大会	九州3位
		19	8	延岡中	九州大会	
		22	8	延岡中	九州大会	
23	8	延岡中	九州大会			

(注) 県中学校体育連盟主催の競技で、九州大会・(資料：延岡地区中学校体育連盟) 全国大会の記録

1 中学校(団体の部・延岡市関係)

一 スポーツ記録

第五節 スポーツ界の現況

第5章 スポーツ

表 宮崎県高等学校記録

(1) 陸上競技

種目	県高校記録	氏名	学校名	年度	備考	
女子	800m	2分09秒24	宗 由香里	聖心ウルスラ	平成12	
	1500m	4分19秒92	宗 由香里	聖心ウルスラ	13	
	3000m	9分11秒29	宗 由香里	聖心ウルスラ	13	
	三段跳	11m42	菊池 瞳	延岡商業	19	
	円盤投	40m90	佐藤美智子	延岡商業	昭和52	

(2) 水泳競技

種目	県高校記録	氏名	学校名	年度	備考		
男子	自由形	50m	24秒61	松田 丈志	延岡東	平成12	県高校総体
		100m	52秒53	松田 丈志	延岡学園	13	国民体育大会
		200m	1分52秒60	松田 丈志	延岡学園	13	全国J O
		400m	3分51秒62	松田 丈志	延岡学園	14	日本選手権
		800m	8分01秒24	松田 丈志	延岡学園	14	日本選手権
		1500m	15分29秒24	松田 丈志	延岡学園	13	ヨーロッパGP
	バタフライ	50m	26秒24	鈴木 康弘	延岡東	4	宮崎県選手権
		100m	52秒53	松田 丈志	延岡学園	13	ヨーロッパGP
		200m	1分52秒60	松田 丈志	延岡学園	14	パンパシフィック
	背泳ぎ	50m	28秒57	國府 宏基	延岡工業	15	県高校総体
	個人メドレー	200m	2分08秒75	松田 丈志	延岡学園	13	西日本年齢別
	メドレーリレー	200m	1分53秒52	國府 宏基	延岡工業	15	県高校総体
			堀原 義提	延岡工業	15	県高校総体	
		400m	4分06秒52	鈴木 康弘	延岡東	4	国民体育大会
	リレー	200m	1分40秒90	國府 宏基	延岡工業	15	末弘杯
堀原 義提			延岡工業	15	末弘杯		
800m		8分06秒99	鈴木 康弘	延岡東	3	国民体育大会	
女子	自由形	200m	2分12秒23	日高仁慈子	延岡学園	12	宮崎県選手権
		400m	4分29秒92	日高仁慈子	延岡学園	13	西日本年齢別
		800m	9分10秒68	日高仁慈子	延岡学園	13	西日本年齢別
	バタフライ	100m	1分03秒06	中山 智予	聖心ウルスラ	24	県高校総体
	メドレーリレー	400m	4分35秒79	羽田 陽子	延岡西	3	国民体育大会
			赤星 薫	延岡西	3	国民体育大会	
	リレー	400m	4分15秒81	赤星 薫	延岡西	3	国民体育大会

(注1) 「全国J O」は、「全国ジュニアオリンピック」 (資料：宮崎県高等学校体育連盟) の略称

(注2) 「ヨーロッパGP」は、「ヨーロッパグランプリ」の略称

表 オリンピック・パラリンピック出場者

回	西暦	平成・年	大会	氏名	種目	成績	備考
28	2004	16	アテネ	高松正裕	柔道(73kg級)	19位	旭化成
				塘内将彦	柔道(81kg級)		同
				大野龍二	陸上(10000m)		同
				松田丈志	水泳 (200mバタフライ)		中京大
				同	水泳(400m自由形)		同
			同	水泳(1500m自由形)	同		
			アテネパラリンピック	工藤恭子	卓球 (女子シングルス)	4位	日赤熊本
29	2008	20	北京	泉 浩	柔道(90kg級)	銅メダル	旭化成
				松田丈志	水泳 (200mバタフライ)		ミズノ
				同	水泳(400m自由形)		同
			北京パラリンピック	中西麻耶	陸上 (女子100mT44クラス)	6位	スカパー
			同	同	陸上 (女子200mT44クラス)	4位	同
30	2012	24	ロンドン	松田丈志	水泳 (200mバタフライ)	銅メダル	コスモス 薬品
				同	水泳 (400mメドレーリレー)	銀メダル	同
				新鍋理沙	バレーボール(女子)	銅メダル	久光製薬
				中西麻耶	陸上 (女子100mT44クラス)	8位	Team Hanger
				同	陸上 (女子200mT44クラス)		同
				同	陸上 (女子走り幅跳び)		同

(資料：延岡市教育委員会保健体育課)

1 オリンピック・パラリンピック(延岡市関係)

二 オリンピック・パラリンピック出場者

第5章 スポーツ

表 世界選手権大会出場者

西暦	平成・年	場所	氏名	種目	成績	備考	
2003	15	グラスゴー	佐藤 博光	剣道 (個人・団体)	優勝	大阪府警	
2005	17	カイロ	高松 正裕	男子柔道 (73kg級)	優勝	旭化成	
			泉 浩	男子柔道 (90kg級)		同	
			高井 洋平	男子柔道 (無差別級)		3位	同
		モントリオール	松田 丈志	男子水泳 (200mバタ)	2位	中京大	
2007	19	リオデジャネイロ	塘内 将彦	男子柔道 (81kg級)		旭化成	
			泉 浩	男子柔道 (90kg級)		同	
		大阪	佐藤 智之	陸上 (男子マラソン)		同	
			久保田 満	陸上 (男子マラソン)		同	
2008	20	ルバロワ	高井 洋平	男子柔道 (無差別級)		同	
2009	21	ロッテルダム	大東 正彦	男子柔道 (73kg級)		同	
			塘内 将彦	男子柔道 (81kg級)		同	
		ベルリン	岩井 勇輝	陸上 (男子10,000m)		同	
			清水 将也	陸上 (男子マラソン)		同	
		ローマ	松田 丈志	男子水泳 (200mバタ)		3位	レオパレス21
		サスカツーン	松岡 真央	男子ソフトボール			旭化成
ハワイ	志垣めぐみ	トライアスロンハ ワイアンマン		延岡市トライ アスロン連合			
2010	22	アガディール	橋口 祐葵	世界ジュニア柔道 選手権大会	3位	延岡学園	
2011	23	テグ	堀端 宏行	陸上 (男子マラソン)	7位	旭化成	
		上海	松田 丈志	男子水泳 (200mバタ)	2位	コスモス薬品	

(資料：旭化成旭陽会柔道部・陸上競技部他)

1 世界選手権大会等(延岡市関係)

三 世界選手権大会等出場者

表 国際・全日本柔道競技大会出場者

平成・年	選手名	大会名	種目	順位
15	中村兼三	フランス国際大会	81kg級	優勝
		嘉納治五郎杯国際柔道大会	81kg級	優勝
16	斎藤制剛	講道館杯全日本体重別選手権大会	90kg級	優勝
17		全日本選抜柔道体重別選手権大会	90kg級	優勝
		アジア選手権大会	90kg級	優勝
		講道館杯全日本体重別選手権大会	90kg級	優勝
18		全日本選抜柔道体重別選手権大会	90kg級	優勝
		講道館杯全日本体重別選手権大会	90kg級	優勝
19		講道館杯全日本体重別選手権大会	90kg級	優勝
16	塘内将彦	全日本選抜柔道体重別選手権大会	81kg級	優勝
		講道館杯全日本体重別選手権大会	81kg級	優勝
18		講道館杯全日本体重別選手権大会	81kg級	優勝
19		全日本選抜柔道体重別選手権大会	81kg級	優勝
20		嘉納治五郎杯国際柔道大会	81kg級	優勝
		講道館杯全日本体重別選手権大会	81kg級	優勝
21		グルジア国際大会	81kg級	優勝
16	高松正裕	全日本選抜柔道体重別選手権大会	73kg級	優勝
17		全日本選抜柔道体重別選手権大会	73kg級	優勝
18		全日本選抜柔道体重別選手権大会	73kg級	優勝
		グルジア国際大会	73kg級	優勝
19		講道館杯全日本体重別選手権大会	81kg級	優勝

2 国際・全日本柔道競技大会（延岡市関係）

第5章 スポーツ

平成・年	選手名	大会名	種目	順位
17	高橋宏明	講道館杯全日本体重別選手権大会	100kg超級	優勝
17	高井洋平	全日本選抜柔道体重別選手権大会	100kg超級	優勝
18		嘉納治五郎杯国際柔道大会	100kg超級	優勝
		グルジア国際大会	100kg超級	優勝
		フランス国際大会	100kg超級	優勝
19		全日本選抜柔道体重別選手権大会	100kg超級	優勝
20		嘉納治五郎杯国際柔道大会	100kg超級	優勝
		グルジア国際大会	100kg超級	優勝
20	泉 浩	全日本選抜柔道体重別選手権大会	90kg級	優勝
		ドイツ国際大会	90kg級	優勝
		アジア選手権大会	90kg級	優勝
19	増渕 樹	全日本選抜柔道体重別選手権大会	90kg級	優勝
21	大東正彦	全日本選抜柔道体重別選手権大会	73kg級	優勝
23		講道館杯全日本体重別選手権大会	73kg級	優勝
24	百瀬 優	G P ・ バ ク ー 大 会	100kg超級	優勝
		G P ・ ア ブ ダ ビ 大 会	100kg超級	優勝
		W C ・ チ ェ ジ ュ 大 会	100kg超級	優勝
24	吉田優也	W C ・ タ シ ケ ン ト 大 会	90kg級	優勝
(団体成績) 旭化成柔道部				
※全日本実業柔道団体対抗大会 (通算13回優勝) 平成15年、16年、17年、19年、24年優勝				

(注1) 優勝者を掲載

(資料：旭化成旭陽会柔道部)

(注2) GPは、「グランプリ」の略。WCは、「ワールドカップ」の略

(注3) 世界選手権大会出場者を除く

表 国際・全日本陸上競技大会出場者

選手氏名	平成・年	大会名	順位	種目	記録
佐藤智之	18	別府大分毎日マラソン	2位	マラソン	2時間11分46秒
	22	びわ湖毎日マラソン (日本陸上競技選手権)	2位 (優勝)	マラソン	2時間10分7秒
堀端宏行	23	びわ湖毎日マラソン	3位	マラソン	2時間9分25秒
	24	福岡国際マラソン (日本陸上競技選手権)	2位 (優勝)	マラソン	2時間8分24秒
清水将也	20	北海道マラソン	3位	マラソン	2時間15分29秒
岩井勇輝	21	日本陸上競技選手権	優勝	10000m	28分19秒25
足立知弥	20	別府大分毎日マラソン	優勝	マラソン	2時間11分59秒
渡辺共則	17	北海道マラソン	優勝	マラソン	2時間14分50秒
	18	北海道マラソン	優勝	マラソン	2時間17分50秒
久保田満	18	北海道マラソン	2位	マラソン	2時間17分52秒
森下由輝	17	別府大分毎日マラソン	3位	マラソン	2時間11分48秒
小島忠幸	16	びわ湖毎日マラソン	2位	マラソン	2時間8分18秒
出口和也	24	日本陸上競技選手権	優勝	5000m	13分47秒17
(団体成績) 旭化成陸上競技部 ※全日本実業団対抗駅伝 (通算20回優勝) ※朝日駅伝 (通算28回) 平成19年、20年、21年優勝 ※九州一周駅伝 (通算36回優勝) 平成15年、16年、22年、23年優勝					

(注1) 個人は、3位以上の成績者を掲載
 (注2) 世界選手権大会出場者を除く

(資料：旭化成旭陽会陸上競技部)

第5章 スポーツ

表 その他の国際大会の出場者

選手・団体名	平成・年	大会名	成績	備考
松田 丈志	15	ユニバーシアード大会	金	水泳
松田 丈志	17	ユニバーシアード大会	銀・銅	水泳
松田 丈志	18	アジア競技大会	金・銀・銅	水泳
高松 正裕	18	アジア競技大会	銀	柔道
高井 洋平	18	アジア競技大会	銅	柔道
泉 浩	18	アジア競技大会	銅	柔道
大西 智也	21	ユニバーシアード大会	銀	陸上
山口 清楓	21	ISF女子ソフトボールU16ユースワールドカップ	金	女子ソフトボール・日本代表・南中
橋口 祐葵	21	ブレメンジュニア国際大会	金	柔道・東海中
松田 丈志	22	アジア競技大会	金・銀・銅	水泳
橋口 祐葵	22	世界ジュニア柔道選手権大会	銅	柔道・延岡学園高校
橋口 祐葵	23	フランスジュニア国際大会	銅	柔道・延岡学園高校
磯田 範仁	23	世界柔道カデ選手権大会	準優勝	北浦出身・国士館高校
浮島杏加子	24	アジアユース女子バレーボール選手権大会	金	女子バレーボール日本代表・延岡学園高校
橋口 祐葵	24	韓国ジュニア国際大会	銀	柔道・延岡学園高校
橋口 祐葵	24	クリスマス杯エクサンプロヴァンスジュニア国際大会	金	柔道・延岡学園高校

(注) 三位以上の者を掲載

(資料：延岡市教育委員会保健体育課等)

表 全国大会等の出場者

選手・団体名	平成・年	大会名	成績	備考
岩永 圭介	17	JAWA全日本アームレスリング選手権大会	優勝	アームレスリング
延岡学園高校	17	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子バスケットボール
芦塚 柔道場	18	全国少年柔道大会	優勝	柔道
磯田 範仁	18	全国小学校学年別柔道大会	優勝	柔道・北浦小
芦塚 柔道場	19	全国少年柔道大会	優勝	柔道
森 翔平	19	全国少年柔道大会	優勝	柔道・恒富小
磯田 範仁	19	全国小学生学年別柔道大会	優勝	柔道・北浦小
森 翔平	19	全国小学生学年別柔道大会	優勝	柔道・恒富小
芦塚 柔道場	19	全日本選抜少年柔道大会	優勝	柔道
芦塚 柔道場	19	日整全国少年柔道大会	優勝	柔道
川名 修徳	20	天皇杯全日本男子選手権	優勝	弓道
延岡学園高校	20	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子バスケットボール
岩永 圭介	20	JAWA全日本アームレスリング選手権大会	優勝	アームレスリング
中山 智子	21	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	優勝	水泳・東海中
岩永 圭介	21	JAWA全日本アームレスリング選手権大会	優勝	アームレスリング
橋口 祐葵	22	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子柔道・延岡学園高校
延岡学園高校	23	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子バスケットボール
岩永 圭介	23	JAWA全日本アームレスリング選手権大会	優勝	アームレスリング
延岡学園	23	全国高校バスケットボール選抜優勝大会	優勝	男子バスケットボール
延岡学園	24	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子バスケットボール
橋口 祐葵	24	全国高等学校総合体育大会	優勝	男子柔道・延岡学園高校
松田 裕介	24	全国高等学校総合体育大会	優勝	カヌー男子・延岡星雲高校
岩永 圭介	24	JAWA全日本アームレスリング選手権大会	優勝	アームレスリング
松田 裕介	24	ぎふ清流国民体育大会	優勝	カヌー男子・延岡星雲高校
延岡学園高校	24	全国高校バスケットボール選抜優勝大会	優勝	男子バスケットボール

(注) 優勝者・優勝団体を掲載

(資料：延岡市教育委員会保健体育課等)

4 その他の国際大会および全国大会等(延岡市関係)

